

326
289

風災救護誌
岡縣農會



始



326
289

大正六年十一月

風災救護誌

岡山縣農會

326-289

緒言

大正四年九月風伯南西より來りて北東に去る其通過する處暴威を逞ふし人家を倒し樹木を折り農作物を害すること頗る甚

し縣下未曾有の慘狀を呈したり

本縣は十月十五日付を以て本會に對し金壹萬五千圓を交付す
風災被害善後處置を命られたるに依り本會は種穀の補助及
業獎勵に關する施設經營をなしたり、茲に其顛末を蒐録し上梓
して之を頒布す



正
本 11.22
副
内交

大正六年六月

岡山縣農會

風災救護誌目次

第一章 被害	一頁
第二章 救護	六
第一 種穀補助	二四
第二 副業	四九
一、副業講習會	五〇
イ、ミカト帽子製造講習	五〇
ロ、麥稈真田製造講習	五四
ハ、蠶網製造講習	五五
ニ、醋酸石灰製造講習	五九
ホ、燻苞製造講習	五九
ヘ、妻楊子製造講習	六三
ト、麻裏草履表製造講習	六四
チ、疊表製造講習	六六

風害調査 桑園 (第三表)

郡市名	收穫皆無		五割以上減		三割以上五割未滿		三割未滿		計	
	面積	被害高	面積	被害高	面積	被害高	面積	被害高	面積	被害高
御津	四	二二〇	一六	一、五〇〇	一	三六〇	一一四	三、八〇〇	二二	一、九〇〇
赤和										
邑上										
小上	三二	一、五五〇							三二	一、五五〇
後月										
川上										
阿庭										
眞庭										
勝田	六二	二、八八〇	一一四	三、二四〇	一〇四	二、五二五	二五四	三、五〇六	五三三	一、二、一八九
英田	九	二七二	三一	六三九	一二九	一、四五一	二八一	二、六二九	四五〇	四、九九〇
久計	一三四	七、六九七	二四九	一、一、二四	三八〇	九、九六四	一、四〇九	二六、一七七	二、一七二	五、四、九六二

風害調査 畑 (第四表)

郡市名	收穫皆無		五割以上減		三割以上五割未滿		三割未滿		計	
	面積	被害高	面積	被害高	面積	被害高	面積	被害高	面積	被害高
御津	四〇	二、〇〇〇	六四	二、八三九	一九五	五、五七一	七二七	二〇、三二一	一、〇二六	三〇、七一一
赤和										
邑上										
小上										
後月										
川上										
阿庭										
眞庭										
勝田	四〇	九、四〇二	二二	六、一七四	二九	四、二二一	一八四	九、二〇〇	一八四	九、二〇〇
英田	二〇	二、〇〇〇	三五	四、八〇〇	八〇	一、五〇〇	二〇〇	三、六六八	二九一	二、三、四六五
久計	一、一三〇	一、一三〇	三五	四、八〇〇	八〇	一、五〇〇	二〇〇	三、六六八	二九一	二、三、四六五
御津										
赤和										
邑上										
小上										
後月										
川上										
阿庭										
眞庭										
勝田										
英田										
久計	七、六〇〇	七、六〇〇	一、六、四五〇	一、六、四五〇	五、八二	二、三、二八〇	九〇五	二二、六二五	一、七九八	六、九、九五五

計	二四三	三〇、四九二	一、四六一	一九二、九九四	二、七五八	一三七、四四九	一〇、九四一	二六八、六二四	一五、四〇三	六二九、五五九
---	-----	--------	-------	---------	-------	---------	--------	---------	--------	---------

免租地反別取調表 (第五表)

郡市名	田反別	畑反別	郡市名	田反別	畑反別
御津	二六三、七九二 <small>町</small>	九、九六〇 <small>町</small>	上房	四〇、一八二 <small>町</small>	一、七〇二 <small>町</small>
赤磐	二〇〇、六二〇 <small>町</small>	七、二二七	川哲	九八二 <small>町</small>	二八二 <small>町</small>
和氣	一〇〇、六四二 <small>町</small>	四、一一〇	阿庭	一九、四二七	三一四、五三三
上島	一八、〇一九	一、七九〇 <small>町</small>	勝田	三、六八、四四二 <small>町</small>	七、二〇〇 <small>町</small>
兒島	一一、三二九	一、一八八	英田	一、三六八、八七二 <small>町</small>	三、五二二 <small>町</small>
都窪	二四、一〇一	一七、九五一 <small>町</small>	米田	三三二、八七二 <small>町</small>	六九、四六四
浅口	一、二〇二	一、一〇二	計	六九、四六四	七三九、九二七
吉備	一一、七二〇	五、五三一 <small>町</small>		三、六四〇、〇九一 <small>町</small>	二七、〇七〇 <small>町</small>
	三、三〇三	四二八			九二、五五三

第二章 救護

前章記するが如く稀有の災害に遭遇し其惨状見るに忍びざるを以て縣當局に於ては速に救済の方法を講せんとし
 専屬農業技術員並屬官等を派遣し實地の状況を調査せしめ九月十六日を以て農業技師、技手、屬官並本會の職員等

を縣廳内第一應接所に集め救済善後策に就き熟議の結果岡山縣風災救護會を設け授産、跡作、救済の三部に分ち
 各分掌を定め道岡内務部長之が會長として其指揮の下に事務を執掌することとなり越て十月八日本會に於て重
 なる被害地の郡衙主務員及郡農會技術員を召集し縣農務課員、米穀検査所員、農事試験場員本會職員等之に参加
 し跡作、籽種供給並授産方法に關し本會事務所に於て協議會を開會し協議決定せり其事項及會同者氏名は左の如
 し

協議事項

跡作に關する件

一 風害の爲め稻收穫皆無地は稻莖を刈取り其跡地に大体左の作物栽培を奨励することとし

イ 蔬菜を栽培し副食糧の生産を圖ること

ロ 裸麥小麥を栽培し其生産額の増加を圖ること

ハ 紫雲英、苜蓿を栽培し自給肥料の増加を圖ること

一種籽配付に關する件

一、有價配付として各郡の要求量

イ 十月二十日迄に調査報告することとなりなるも可成早く調査のこと

ロ 郡内の餘裕あるもの及不足額は本月十五日迄に報告すること

二、配付すべき種類

- 御津郡 雄町、郡益、穀良郡、多平選、都
- 赤磐郡 雄町
- 和氣郡 雄町
- 眞庭郡 光明錦、穀良郡、郡益、多平選、雄町、都
- 苦田郡 穀良郡、光明錦、多平選、都、雄町、日ノ出選
- 勝田郡 雄町、光明錦、多平選、穀良郡、都、吉備穂
- 英田郡 雄町、多平選、都、穀良郡
- 久米郡 郡益、穀良郡、光明錦、多平選、都、雄町、福山、白玉

三、採種すべき粳採種法

- イ 前年配付の系統を主とし成るべく原種に近きものを採種すること
- ロ 郡農會技術員立會の上唐箕選を行ふこと(三回位)

四、採種せる種子の取扱法

- イ 他郡へ送付すべき粳種子の運賃は縣農會にて之を支拂ふものとす
- ロ 各郡へ配當すべき粳種子の割當は被害状況に應ずること

五、配付上の手續

- イ 粳を要求するの農家は第一号様式により町村農會に申込をなすこと

- ロ 町村農會は取纏め第二號及第三號様式に依り郡農會へ報告すること
 - ハ 郡農會に於て町村農會より報告を受けたる時は郡長の意見を聽き各個人の要求額の當否を決定すること
 - ニ 郡農會は前號要求の當否を決定したる上は第二號及第三號様式に依り縣農會に報告すること
 - ホ 郡農會に於て粳種配付の上は第四號様式に依り縣農會に報告すること
- 二、稅務署免稅査定に對する希望
- イ 一町村の實地査定を結了すると同時に其結果を郡役所へ内報さるゝ様縣より交渉せられたし
 - ロ 可成郡役所より實地に臨み査定方法の見學をなすこと

(第一號様式)

風害地種粳配付申込書

一種粳申込量

品	種	名	數	量
計				

備考

一耕作反別
 一被害反別 (五割以上の被害反別)
 年 月 日

町村農會長

郡

村大字

殿

氏

名

(第二號様式)

計				
	耕作反別	被害反別	種	種
			数	申込量
				氏
				名

郡農會長

町村農會長

氏

名

殿

(第三号様式)

計				
	品	種	数	量

縣農會長

殿

郡農會長

(第四号様式)

配付種作付報告

計						
	早稻、	中稻、	計	稲種類名	稲配付量	代金
						但一升ニ付價
						定作付豫反別
						町村名
						受配付者住所氏名
						氏名

縣農會長

殿

郡農會長

三授産ニ關スル件

一、風害の爲め稲作に要する勞力の中途より全く不要に屬したる地方並風害地全般の農家の本業に要する餘力を利用し副業を經營せしむるは焦眉の急なるを以て左の數種中其村の適否に依り選擇施行せしむる事
 繩紬、苧織、叭、引通疊表、姬苧、編笠、燐寸箱張、蠶網、麻裏草履、紐組、妻楊子、妻楊子入箱、麥稈箱の製作等とす

(本業に關しては風害善後策の爲め特に縣命に依り他府縣施行の狀況を縣屬前川清香本會披手長尾百一の視察調査の結果に依り指定したるもの)

十月十五日日本縣知事より本會に對し風災被害善後處置の爲め金壹萬五千圓交付の指令に接せり其全文左の如し
 岡山縣指令農甲第八九〇號

岡山縣農會長

本年九月ニ於ケル縣下風災被害善後處置ノ爲メ金壹萬五千圓本年度ニ於テ交付スルニ付左記ノ通り心得フヘシ
 大正四年十月十五日 岡山縣知事 笠井 信一

- 一、金壹萬圓ハ被害地跡作ニ關シ適切ナル方法ヲ講シ支出スヘシ
- 一、金五千圓ハ被害民授産ニ關シ、適應ナル施設經營ノ爲メ支出スヘシ
- 一、施設方法ハ案ヲ具シ、當應ノ認可ヲ受ケタル後施行スヘシ
- 一、施設事業終了ノ上ハ、直ニ其ノ成績ヲ詳細報告スヘシ

本會に於ては本指令に接するや直に救濟施設方法を講究し左記施設方法並交付金處分規程副業指導方法特別費收

支豫算等を編製し十月廿七日評議員會を召集し其諮詢を経臨時急施を要する事項なるを以て總會召集に代ゆるに書面決議を以てし十一月三十日を以て之か認可を縣知事に申請し翌十二月廿一日付を以て之か認可を得たるを以て豫期の方針に據り救濟方法の遂行に力めたり

風災被害地救濟に關する施設方法

一、風災被害善後處置の爲め特別費豫算編制及左の規程を設定す

風災被害善後處置縣費交付金處分規程

風災被害補助金交付規程

二、被害地跡作に關する施設

イ、明年度稻作肥料補給として紫雲英、苜蓿を栽培せしむること

ロ、食料として蔬菜及豆類を栽培せしむること

ハ、右種數は本會に於て購入し無償配付を爲すこと

ニ、種籾購入に付補助金を交付すること

但本補助は本縣罹災基金を以て救濟せられたるものを除き交付するものとす

ホ、補助は被害及土地の狀況に應じ査定交付するものとす

三、被害民授産に關する施設

イ、副業指導の爲め教師を聘用し講習を爲さしむること

ロ、副業種類は製苴、燻苴、除沙用蠶網、妻楊枝、疊表、姫苧、編笠、麻裏、紐組、楊枝入、醋酸石灰製造等
とし原料及製品運搬に對し補助金を交付すること

四、被害地跡作並被害民授産に關する施設は本年度に限り施行するものとす

風災被害善後處置縣費交付金處分規程

第一條 縣下風災被害善後處置縣費交付金ハ本規程ニ依リ處分スルモノトス

第二條 處分法ヲ分チテ三種トス

種穀購入補助

綠肥、蔬菜、雜穀等ノ種子無償配付

副業補助

第三條 種穀購入費補助ハ其購入費額ノ半額以内ノ金額ヲ補助シ郡農會ヲシテ種穀ヲ配給セシムルモノトス

第四條 綠肥、蔬菜、雜穀種子ハ被害地所管郡農會ノ所要數量申告ニ依リ本會ニ於テ之レヲ購入シ無償交付スルモノトス

第五條 副業補助ハ教師聘用、講習、器具購入、製品原料、製品運賃額及同業組合加入料、證紙料運賃割引證紙料等ノ費用ヲ補助スルモノトス

第六條 種穀購入費補助、副業補助交付ニ關スル規程ハ別ニ之レヲ定ム

風害被害補助金交付規程

第一條 種穀購入補助、副業補助金ハ本規程ニヨリ交付スルモノトス

第二條 補助金品ハ郡農會、町村農會ヲ經テ被害民ニ交付スベシ

第三條 被害民ガ種穀ノ購入ノ補助及副業補助ヲ受ケントスルトキハ、左記書式ニヨリ申請書ヲ作製シ、町村農會へ差出スベシ

種穀購入費補助ニ在リテハ第一號書式甲号ニ、副業補助ニ在リテハ第一号書式乙号ニ依リ、運賃支拂証明書、運賃割引証、器具購入代金仕拂証明書ニ同様ノ書類ヲ添付スルモノトス

第四條 町村農會ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタル時ハ第二号ノ書式甲ノ一、二、及乙ノ書類ヲ作製添付シ郡農會ニ送達スルモノトス

第五條 郡農會長ニ於テ前條ノ書類ヲ受ケタル時ハ、所轄郡長ノ意見ヲ聞キ、各個人要求ノ當否ヲ審査決定シ、第三号書式ノ書類ヲ作製添付シ、補助金交付方ヲ本會ニ請求スルモノトス

第六條 郡農會長ニ於テ補助金品ヲ被害民ニ交付シタル時ハ、種穀ニ在リテハ其ノ配布成績ヲ、副業補助ニ在リテハ、其事業成績ヲ調査シ本會へ報告スルモノトス (様式省略)

副業指導方法

一、副業指導に當り妻楊子、妻楊子入箱、瓶苴及醋酸石灰製造等に於ては何れも原産地より技術堪能なる教師の備入を「ミカト」帽子、麥稈真田紐組、蠶網、疊表織、麻裏草履の製造に付ては之か關係の同業組合員又は實地經驗家の備入を斡旋し講習會を開設せしむる計畫なり

- 二、副業開始に當り原料購入、製品販賣、及取纏に付ては村農會、産業組合又は特定の世話人を定め之か斡旋をなさしむること
- 三、繩、吹、蕙等の同業組合關係事業に於て加入料、証紙料等の補助に對しては關係組合及町村長の証明を経て交付するものとす
- 四、副業製産品輸送運賃に對しては運賃割引証を交付し尙ほ運賃の一部を補助する豫定なり
但し運賃割引証の効用は中國鐵道株式會社線なり
- 五、繩、蕙、吹等製造に要する機具購入に對しては買入先、及支拂証を調査し幾分補助を交付する豫定なり
- 六、運賃補助及其他の補助に對しては事業開始の月日より向ふ一ヶ年以内とす

副業獎勵補助費説明

- 一、妻楊子製造教師備入費
 - 一、講習開設場所六ヶ所
 - 甲、苦田郡久田村（久田、中谷）同郡羽出村（泉、羽出、上齋原）
 - 乙、苦田郡上加茂村（上加茂）久米郡加美村（加美）
 - 丙、勝田郡勝間田町（勝間田）英田郡倉敷町（倉敷）
 - 二、教師給料壹百貳拾圓
 - 三人分一人一ヶ月貳拾圓つゝ延六ヶ月分
 - 三人分一人一ヶ月拾圓つゝ延六ヶ月分
 - 三、教師賄料六拾圓

- 四、教師旅費六拾八圓壹錢
 - 三人分教師所在地より講習場所往復旅費
 - 五、會場設備費參拾圓
 - 六ヶ所分壹ヶ所金五圓つゝ
 - 六、器具損料及講習原料購入補助費參拾九圓六拾錢
 - 六ヶ所分壹ヶ所六圓六拾錢
 - 七、豫防費參拾圓
 - 六ヶ所分壹ヶ所五圓つゝ
- 計金參百四拾七圓六拾壹錢
- 二、妻楊子入箱製造教師備入費
 - 一、講習開設場所七ヶ所
 - 甲、苦田郡津山町（二宮、津山、林田）全郡一宮村（西苦田、田邑、高田、一宮）全郡高野村（高野、神庭）全郡上加茂村（上加茂）
 - 乙、苦田郡大野村（大野、香々美南、小田）全郡中谷村（中谷、久田）全郡羽出村（羽出、泉、上齋原）
 - 二、教師給料四拾貳圓
 - 女教師貳人分拾四日つゝ延廿八日一人壹圓五拾錢つゝ
 - 三、教師旅費貳拾參圓貳拾八錢
 - 二人分教師所在地より講習場所往復旅費
 - 四、會場設備費拾四圓
 - 七ヶ所分壹ヶ所貳圓つゝ
 - 五、講習原料購入補助費拾四圓
 - 麥稈原料、染料等七ヶ所分一ヶ所貳圓つゝ
 - 六、豫備費拾四圓
 - 七ヶ所分一ヶ所貳圓つゝ

計金百七圓貳拾八錢

三、みかど帽子製造教師備入費

一、講習場所六ヶ所

苦田郡芳野村(芳野、郷、院庄) 全郡中谷村(中谷) 全郡加茂村(加茂、西加茂) 久米郡加美村(加美)
御津郡牧山村(牧山) 赤磐郡西高月村(西高月)

二、教師給料貳百四拾圓

六人分一人一ヶ月貳拾圓づゝ延十二ヶ月分

三、教師旅費八圓五拾錢

六人分内三人は津山ミカド帽子商會より備入三人は万富ミカド帽子商會より備入

四、帽子原料購入補助費參拾壹圓五拾錢

六ヶ所一ヶ所五圓貳拾五錢

五、會場設備費參拾圓

六ヶ所分一ヶ所五圓づゝ

六、豫備費參拾圓

六ヶ所分一ヶ所五圓づゝ

計金參百四拾圓

四、蠶網製造教師備入費

一、講習開設場所四ヶ所

御津郡建部村(建部、宇甘東) 苦田郡小田村(小田) 久米郡大埴和村(大埴和) 久米郡福岡村(福岡)

二、教師給料拾八圓

教師一人十二日分一日壹圓五拾錢づゝ

二、教師旅費九圓

壹人分

四、會場設備費拾圓

四ヶ所分壹ヶ所貳圓五拾錢づゝ

五、講習原料購入補助費貳圓八拾錢

四ヶ所分壹ヶ所七拾錢づゝ

六、豫備費八圓

四ヶ所分壹ヶ所貳圓づゝ

計金四拾七圓八拾錢

五、蠶苞製造教師備入費

一、講習開設場所 十五ヶ所

甲、苦田郡西苦田村(西苦田、東苦田、一宮) 全郡一宮村(二宮、田邑) 全郡高倉村(高倉、高田、神庭) 全郡加茂村(加茂、西加茂) 全郡大野村(大野、中谷、香々美南) 全郡泉村(羽出、泉、久田) 眞庭郡久世町(久世)
乙、御津郡字垣村(字垣、馬屋上) 全郡宇甘東村(宇甘東、宇甘西) 全郡建部村(建部) 全郡新山村(新山)
久米郡倭文西村(倭文西、大埴和) 全郡福岡村(福岡) 久米郡加美村(加美、打穴) 全郡神目村(神目)

二、教師給料九拾圓

貳人分壹人四拾五圓延二ヶ月分

三、教師旅費貳拾九圓六拾壹錢

貳人分壹人平均拾四圓八拾錢五厘

四、會場設備費參拾圓

拾五ヶ所分壹ヶ所平均貳圓

五、講習原料購入補助費參拾圓

本原料は重に編糸等の種類なり

六、豫備費四拾五圓

拾五ヶ所分壹ヶ所平均參圓

計金貳百貳拾四圓六拾壹錢

拾五ヶ所分壹ヶ所平均貳圓

六、疊表製造教師備入費

- 一、講習開設場所 壹ヶ所 久米郡倭文西村
 - 二、教師給料拾圓五拾錢 壹人七日分壹日壹圓五拾錢
 - 三、教師旅費參圓六拾錢 壹人分
 - 四、講習原料及器械購入補助費貳拾壹圓 器械及原料補助
 - 五、會場設備費五圓 壹ヶ所分
 - 六、豫備費五圓
- 計金四拾五圓拾錢

七、麻裏草履製造教師備入費

- 一、講習開設場所 五ヶ所
 - 甲、久米郡大倭村、久米村、三保村
 - 乙、久米郡龍川村、倭文西村
- 二、教師給料五拾貳圓五拾錢 教師二人分平均貳拾六圓貳拾五錢延日數參拾五日壹日壹圓五拾錢
- 三、教師旅費五圓拾錢 二人分壹人平均貳圓五拾五錢
- 四、會場設備費拾五圓 五ヶ所分壹ヶ所平均參圓
- 五、講習原料購入補助費拾五圓 五ヶ所 一ヶ所平均參圓

六、豫備費拾圓

五ヶ所分一ヶ所平均貳圓

計金九拾七圓六拾錢

八、醋酸石灰製造教師備入費

- 一、講習開設場所三ヶ所
 - 苦田郡羽出村、久米郡倭文西村、真庭郡落合町
 - 二、教師給料九拾圓 一人分一日貳圓五拾錢延三十六日分
 - 三、教師旅費拾五圓 一人分
 - 四、會場設備費百九拾五圓 三ヶ所分一ヶ所平均六拾五圓
 - 五、豫備費四拾五圓 三ヶ所分一ヶ所平均拾五圓
- 計金參百四拾五圓

九、麥稈真田製造教師備入費

- 一、講習開設場所十八ヶ所
 - 御津郡建部村、苦田郡津山町、西苦田村、東苦田村、林田村、二宮村、高野村、勝田郡勝間田町、真庭郡久世町、久米郡福渡村、弓削村、加美村、倭文東村、佐良山村、倭文西村、大井西村、大倭村、埴和村
- 二、教師給料九拾圓 三人分一人參拾圓つゝ延日數六十日一日壹圓五拾錢
- 三、旅費貳拾七圓 三人分一人平均九圓つゝ教師所在地より講習地へ往復旅費

- 四、講習原料購入補助費參拾六圓 十八ヶ所分一ヶ所平均貳圓
- 五、會場設備費五拾四圓 十八ヶ所分一ヶ所平均參圓づゝ
- 六、豫備費參拾六圓 十八ヶ所分一ヶ所平均貳圓づゝ

計金貳百四拾參圓

十、副業實地視察補助費

- 一、視察補助費五百參拾圓 視察人員五十三人分一人平均拾圓
- 二、豫備費壹百圓

計金六百參拾圓

十一、製繩、製蕙、叭、機購入補助

- 一、製繩村數五ヶ村 御津郡牧山村、久米郡打穴村、倭文中村、倭文西村、大坩和村
- 二、製蕙、叭村數六ヶ村 御津郡金川町、宇甘東村、上建部村、苦田郡高倉村、神庭村、英田郡豊田村
- 三、機購入費補助六百六拾圓 機數三百三十臺一臺ニ付貳圓づゝ

計金六百六拾圓

十二、副業製產品輸送運賃及証紙料補助

- 一、補助金壹千四百六拾五圓 是ハ輸送噸數參千五百噸分此金七千參百貳拾五圓の五分の一補助
- 二、補助金壹百貳拾圓 是は雜用蕙、叭、用証紙拾貳萬六千枚壹枚に付証紙料壹厘此金百貳拾六圓の半

十三、雜費

- 一、金六拾四圓

通計金四千八百圓也

岡山縣農會大正四年度特別費收入豫算書

科	目	本年豫算額	前年度豫算額	比較増減	說明
第一款	縣費補助金	一五、〇〇〇〇〇〇	—	一五、〇〇〇〇〇〇	風災被害地救護特別補助金縣費交付額
第一項	定縣補助費	一五、〇〇〇〇〇〇	—	一五、〇〇〇〇〇〇	
第二款	雜收入	二〇〇〇〇〇	—	二〇〇〇〇〇	
第一項	當座預金利息	二〇〇〇〇	—	二〇〇〇〇	
合	計	一五、〇二〇〇〇〇	—	一五、〇二〇〇〇〇	當座預金利息

岡山縣農會大正四年度特別費支出豫算書

科	目	本年豫算額	前年度豫算額	比較増減	說明
第一款	風災被害農民救護費	一五、〇二〇〇〇〇	—	一五、〇二〇〇〇〇	

第一項 種穀購入補助交 付並種穀購入費	10,000,000	10,000,000	10,000,000
第二項 副業補助費	4,800,000	4,800,000	4,800,000
第三項 雜費	2,100,000	2,100,000	2,100,000
合計	15,000,000	15,000,000	15,000,000

金八千圓種穀購入補助、金貳千圓交付種穀購入費
器具購入製成品、原料及製品運搬費同業組合ニ屬ス
ル加入料製成品証紙料引証紙料製産其他教師雇人
井ニ講習講議其他諸費

備考 時宜ニ依リ各項金額ハ彼是流用支辨スルコトヲ得

第壹 種穀補助

前記の規程に依り交付したる種穀料の補助額は左表の如し

種穀料補助金交付一覽表

補助郡名	町村數	補助人員	補助金額	種穀配布量	備考
御津	10	557	900,000	259,781	雄町、郡、多平選
赤磐	23	940	700,000	175,000	雄町、郡
和氣	16	634	500,000	125,000	雄町
上房	14	884	300,000	75,000	多平選、郡
眞庭	22	1,133	950,000	237,500	穀良郡、多平選、光明錦
苦田	27	1,884	1,300,000	745,483	雄町、多平選、郡益、福山、穀良郡、光明錦
勝田	23	1,675	1,000,000	250,000	郡、郡益、光明錦、福山、多平選、雄町
英田	11	1,076	450,000	112,522	雄町、郡、郡益、光明錦、多平選

久米	23	1,403	1,000,000	481,105	雄町、多平選、郡、福山、白玉、金時錦
計	158	10,422	7,500,000	2,461,391	以上各郡共配付セル重ナル稻種類ナリ

之れを郡別せば左の如し

御津郡種穀料補助一覽表

補助町村名	補助人員	補助金額	種穀量	補助町村名	補助人員	補助金額	種穀量
收石	80	25,000	20,862	宇甘	51	185,800	46,450
收山	80	101,340	25,335	加茂	11	17,200	4,300
宇垣	89	137,300	61,870	福山	33	20,250	4,414
金川	6	14,110	3,800	上建	61	147,500	29,500
建部	65	103,000	25,750	計	557	900,000	259,781
宇東	81	148,500	37,500				

赤磐郡種穀料補助一覽表

補助町村名	補助人員	補助金額	種穀量	補助町村名	補助人員	補助金額	種穀量
西高月	16	29,600	7,400	輕部	26	32,000	8,000
高陽	106	80,000	20,000	笹岡	16	20,000	5,000
西山	10	11,000	2,800	周匝	76	96,000	24,000
鳥取上	6	9,600	2,400	山方	100	51,200	12,800

補助町村名	補助人員	補助金額	粃糧量
仁堀	三二	二二、四〇〇	五、六〇〇
布美	四〇	二五、六〇〇	六、四〇〇
竹枝	一三七	九七、六〇〇	二四、四〇〇
五城	七五	一七、六〇〇	四、四〇〇
葛城	二五	八、〇〇〇	二、〇〇〇
佐北	九三	二二、四〇〇	五、六〇〇
佐本	一九	一六、〇〇〇	四、〇〇〇
佐上	六五	一六、〇〇〇	四、〇〇〇
計			
石生	一三五	九、六〇〇	二、四〇〇
豊田	一八	一六、〇〇〇	一、六〇〇
小野	四〇	一六、〇〇〇	四、〇〇〇
可真	一〇	七三、六〇〇	一八、四〇〇
吉岡	一〇	八、〇〇〇	二、〇〇〇
瀨戸	六	五、六〇〇	一、四〇〇
瀨戸	六	九、六〇〇	二、四〇〇
計	九四〇	七〇〇、〇〇〇	一七五、〇〇〇

和氣郡粃種補助一覽表

補助町村名	補助人員	補助金額	粃糧量
熊山	一六	二二、六〇〇	五、九〇〇
鶴山	四二	二七、八四〇	六、九六〇
香登	七〇	三二、七六〇	八、一九〇
伊部	四五	三九、六八〇	九、九二〇
片上	五八	三二、〇〇〇	八、〇〇〇
福河	一八	一一、〇〇〇	三、〇〇〇
三石	八	五、二〇〇	一、三〇〇
英保	四一	三一、〇〇〇	七、九四〇
神根	二	九、二〇〇	二、二〇〇
計			
三野	三四	三二、七六〇	八、〇〇〇
藤野	三二	三五、四四〇	八、八六〇
本莊	五四	四一、九二〇	一〇、四八〇
日和	二二	二八、四八〇	七、二二〇
山笠	五〇	五三、四四〇	一三、三六〇
山田	七〇	五四、一六〇	一三、五四〇
鹽田	七〇	四八、八〇〇	一二、二〇〇
計	六三四	五〇〇、〇〇〇	一二五、〇〇〇

上房郡粃種補助一覽表

補助町村名	補助人員	補助金額	粃糧量
松山	三五	五、九六〇	一、四九〇
津川	三一	九、八三〇	二、四五七
川面	一八	一五、八一〇	三、九五三
巨瀬	四一	一一、九九〇	二、九九七
有漢	八	一九、五四〇	四、八八五
上漢	五	六、五五〇	一、六三八
上庄	二二	三、八一〇	九五二
豐野	六五	二一、二四〇	五、三一〇
計			
下竹	一六	六、三九〇	一、五九八
吉川	一四	八、六三〇	二、一五七
中井	二二	一四、三二〇	三、五八〇
中井	二二	三五、三九〇	八、八四八
中津	二八	一三四、五四〇	三三、六三五
上水	一九	六、〇〇〇	一、五〇〇
計	八八四	三〇〇、〇〇〇	七五、〇〇〇

真庭郡粃種補助一覽表

補助町村名	補助人員	補助金額	粃糧量
勝山	一八三	二四一、〇〇〇	六〇、二五〇
落合	二三五	一〇五、〇〇〇	二六、二五〇
津田	一八	二四、〇〇〇	六、〇〇〇
木山	五二	一六、〇〇〇	四、〇〇〇
湯原	四四	四七、〇〇〇	一、七五〇
新庄	一三	三二、〇〇〇	八、〇〇〇
川上	五八	三〇、〇〇〇	七、五〇〇
計			
八東	五一	六九、〇〇〇	一七、二五〇
中世	七四	七〇、〇〇〇	一七、五〇〇
久和	一八八	一四八、〇〇〇	三七、〇〇〇
美和	三〇	四八、〇〇〇	一二、〇〇〇
川東	一八七	一一〇、〇〇〇	三〇、〇〇〇
計	一、一三三	九五〇、〇〇〇	二二七、五〇〇

苦田郡稲種補助一覽表

補助町村名	補助人員	補助金額	稲種量
二宮	三七人	二四、九〇〇	一八、七七〇
院庄	一二七	一一九、九〇〇	九〇、一三四
芳野	一七四	一四八、九一六	一一八、九一六
郷野	八八	一一、四〇〇	八、六一〇
大野	一四八	一〇五、八〇〇	一三、二二五
小谷	八〇	三三、九〇〇	二六、〇〇四
中谷	三〇	三一、二〇〇	一一、四八〇
富田	四	五、六〇〇	三、六一一
久田	二二	三六、五〇〇	九、一二五
泉出	九	二〇、八〇〇	七、九五〇
羽山	三	二、六〇〇	三、二二五
津山	二四	七、四〇〇	九、二二五
西宮	六五	六四、八〇〇	二四、七二〇
一宮	四〇	二五、五〇〇	一六、〇八〇
田加	一、八八四	一、三〇〇、〇〇〇	七四九、四八三
東加	六一	二六、〇〇〇	一三、一三一
西加	七三	六七、九〇〇	八、四五九
加茂	五九	五九、〇〇〇	七、三七四
高倉	八三	五七、五〇〇	二二、四〇五
神庭	六	一七、六〇〇	二、二〇〇
東宮	一七	二一、八〇〇	二、七二五
東田	四〇	二五、六〇〇	一四、六七二
高野	一三三	八三、四〇〇	五九、九一六
林野	二二八	一二〇、九〇〇	一一五、七〇八
香々美	三二	三五、五〇〇	二二、七三〇
香々美北	一二五	三九、六〇〇	五九、六六七
田美南	四〇	四七、七〇〇	一七、二二九
田美南	一三九	五八、九〇〇	四七、八四二
計			

勝田郡稲種補助一覽表

補助町村名	補助人員	補助金額	稲種量
勝田	一五七人	一八九、四六	四七、二七〇
豐國	一二八	一一三、九九三	二八、四九八
湯郷	八一	四七、〇〇三	一一、七五一
公文	四九	四四、六一三	一一、五三
飯岡	一〇七	七六、二九四	一九、〇七四
南氣	四一	三五、四四〇	八、六〇〇
北氣	一一八	三八、一八〇	九、五四五
高取	三三	四二、八四七	一〇、七二二
大河邊	一二二	四〇、三八七	一〇、〇四七
新野	九〇	一〇六、一八〇	二六、五四五
廣野	七七	一六、九七七	四、二四四
計	一一	一四、九七〇	三、七四三
勝加	三八人	四一、〇六七	一〇、二七〇
廣野	三六	二九、〇三三	七、二五三
植月	二七	一一、三三七	三、三〇九
吉野	六八	一九、九九三	四、九九八
勝野	五〇	二一、四八〇	五、三七〇
古野	三五	一七、六四〇	四、四一〇
北野	一九二	一三、八一七	三、四五四
豐田	五	一〇、二九七	二、五七四
豊田	六〇	一一、九九三	二、九九七
梶並	五〇	一一、六六三	三、一六六
瀧尾	三〇	四二、九二〇	一〇、七四〇
計	一、六〇五	一、〇〇〇、〇〇〇	二五〇、〇〇〇

英田郡稲種補助一覽表

補助町村名	補助人員	補助金額	稲種量
倉敷	七人	一三、九五〇	三、四八七
豊田	二二七	七五、八九〇	一八、九五七
檜原	一一二	七二、三九〇	一八、〇五三
江見	四一	四〇、二九〇	一〇、七二〇
土居	一四六	九二、一六〇	二二、〇三四
福山	七人	三、六八〇	九二〇
河會	一一	五、六〇〇	一、四〇〇
福本	一一一	一六、八六〇	四、二〇五
巨勢	一七五	二八、六五〇	七、二四九
粟廣	一〇六	七九、〇〇〇	一九、七五六
計		二九	

粟	井	五三	二一、五三〇	五、三八九	計	一、〇七六	四五〇、〇〇〇	一一、五二二
---	---	----	--------	-------	---	-------	---------	--------

久米郡粃種補助一覽表

補助町村名	補助人員	補助金額	粃種量	補助町村名	補助人員	補助金額	粃種量
神目	一三	四、四七〇	一、一七五	大井東	一〇六	一〇八、二一〇	四七、二一三
鶴田	一〇	一七、二一〇	四、三〇二	井和	一八	一五、三九〇	三、八四七
大西	三四	三六、二五〇	九、〇九四	龍山	四四	八、二一〇	四、七三〇
打井	一九	一四、八一〇	三、七〇四	倭文	五四	一七、八五〇	四、四九四
加東	五五	四九、七二〇	二六、二七一	吉岡	五五	六四、二五〇	一六、〇五七
倭中	一六	二五、三七〇	六三、九〇二	弓削	九八	一七、二二〇	四、三〇五
西川	一七	一五、一一〇	三、七八〇	久米	一八	二二、二一〇	八、六八〇
大和	一一	一一、〇三〇	二、七五八	福岡	一〇一	三一、八八〇	四七、九一〇
西川	一一	一七、七八〇	四、四四四	大佐	一三	一六、二八〇	四、一八〇
福南	三五	一三六、九三〇	三四、二三四	佐良	六二	一四三、五一〇	四一、四三八
福南	一八	一八、四二〇	四、六〇五	龍川	一六	六、三三〇	四、七九〇
三保	九五	一六〇、六七〇	五五、二五〇	計	一、四〇三	一、四〇〇、〇〇〇	四八一、一〇五

風災地に於て麥種子の不足を生じ麥種子購入の必要を生じたるを以て風災輕き各郡より之れが供給の斡旋をなし且麥種子代金の半額補助をなしたり其數量及金額左表の如し

麥種料補助一覽表

郡名	麥種類名	數量	價	格	半額補助	備考
苦田	裸麥コピンカタキ	三、一〇〇	二四、八〇〇			淺口郡ヨリ供給
全	小麥島田	二一、九二五	二六三、一〇〇			邑久郡ヨリ
全	大麥	三〇、七五六	一五三、七八〇			川上郡ヨリ
英田	裸麥コピンカタキ	五五、七八一	四四一、六八〇		二二〇、八四〇	淺口郡ヨリ
全	全白トウ	五、二四〇	八九、一二〇			都窪郡ヨリ
全	全三島	五、三五〇	八九、一二〇			吉備郡ヨリ
全	小麥島田	九、二二五	一一〇、七〇〇			邑久郡ヨリ
全	大麥短芒	一七〇	八五〇			吉備郡ヨリ
久計	裸麥コピンカタキ	二〇、五三五	二〇〇、六七〇		一〇〇、三三五	淺口郡ヨリ
全	小麥島田	三、〇〇〇	二四、〇〇〇			邑久郡ヨリ
全	大麥	二一、二八三	二五五、三九六			川上郡ヨリ
通計		二六、二八三	二八九、三九六		一四四、六九八	
通計		一〇二、五九九	九三一、七四六		四六五、八七三	

右の如く各郡に於て購入したる麥種子は左表の如く各町村當業者に配布したり配布量、配付を受けたる人員及栽培反別左の如し

麥種子配付並栽培成績

江見 全全 巨勢 粟廣 全全 讚甘 全大 野 全大 野 計

計	野	吉	甘	廣	勢	巨	粟	全	全	江
一〇	八	三	一	二	三	八	九	二	一	六
九	二	一	二	三	八	九	二	一	六	九
小麥三島	全白トウ	小麥畠田	裸麥白トウ	小麥畠田	大麥短芒	小麥畠田	裸麥白トウ	小麥畠田	小麥畠田	小麥畠田
三、〇五〇	〇七〇	一九〇	一、〇二〇	一、八〇〇	一、一三〇	六四〇	一、一三〇	〇五〇	九一〇	七一〇
七、〇二七	一、一〇〇	三、七〇七	一、七、八〇五	二、二、六二二	一、七、五〇〇	四、二〇〇	二、一、七〇〇	三、三、六〇〇	九、八〇〇	三、〇〇〇
三、〇五〇	〇七〇	一九〇	一、〇二〇	一、八〇〇	一、一三〇	六四〇	一、一三〇	〇五〇	九一〇	七一〇
三、〇五〇	〇七〇	一九〇	一、〇二〇	一、八〇〇	一、一三〇	六四〇	一、一三〇	〇五〇	九一〇	七一〇

英田郡麥種子配付並栽培成績

倉敷	全	全	全	通計	集計	上計	西計	院全
敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷	敷
配付町村名	配付人員	配付種類名	全	數	栽培	反	別	
一、三、〇五〇	一、〇〇〇	裸麥コピンカタキ	石	量	反	別		
二、二、五〇〇	一、〇〇〇	全三島	二、六〇〇	一、〇〇〇	二、四〇五	二、五〇〇	二、九、二〇六	
二、二、五〇〇	一、〇〇〇	全白トウ	一、六〇〇	一、〇〇〇	二、四〇五	二、五〇〇	二、九、二〇六	
二、二、五〇〇	一、〇〇〇	小麥畠田	一、二五〇	一、〇〇〇	二、四〇五	二、五〇〇	二、九、二〇六	
六、五七	三、八三	大麥	五、二、六〇五	五、二、六〇五	八、四三、七一一	八、四三、七一一	八、四三、七一一	
三、三三	三、八三	小麥	二、七、九八三	二、七、九八三	三、八五、四〇四	三、八五、四〇四	三、八五、四〇四	
四、二	四、二	裸麥	二、七、〇七五	二、七、〇七五	四、一、八〇五	四、一、八〇五	四、一、八〇五	
四、六	四、六	大麥	五、八、四〇〇	五、八、四〇〇	七、一、二〇〇	七、一、二〇〇	七、一、二〇〇	
二、八	二、八	小麥	三、〇、四〇〇	三、〇、四〇〇	四、〇、五〇〇	四、〇、五〇〇	四、〇、五〇〇	
二、七	二、七	裸麥	一、七、三三〇	一、七、三三〇	一、七、七〇〇	一、七、七〇〇	一、七、七〇〇	
二、二	二、二	小麥	一、〇、七〇〇	一、〇、七〇〇	一、三、〇〇〇	一、三、〇〇〇	一、三、〇〇〇	
二、二	二、二	小麥	六、一〇〇	六、一〇〇	一、五、三〇〇	一、五、三〇〇	一、五、三〇〇	
五、二	五、二	大麥	一、二、八六〇	一、二、八六〇	二、一、三、一〇〇	二、一、三、一〇〇	二、一、三、一〇〇	
二、七	二、七	小麥	八、〇〇〇	八、〇〇〇	一〇、九、〇〇〇	一〇、九、〇〇〇	一〇、九、〇〇〇	
三、五	三、五	大麥	四、八、六〇〇	四、八、六〇〇	一〇、四、一〇〇	一〇、四、一〇〇	一〇、四、一〇〇	

久米郡麥種子配付並栽培成績

配付町村名	配付人員	配付種類名	企數	量	栽培反別
久米	七	裸麥コピンカタキ	石	四、〇〇〇	八、〇〇〇
全	六一	小麥畠田		四、三〇〇	八六、六〇〇
全	九	大麥		九〇〇	一一、六〇〇
全	七七	裸麥コピンカタキ		五、六〇〇	一〇七、一〇〇
全	七七	裸麥コピンカタキ		四、〇〇〇	一〇、四〇〇
全	七	小麥畠田		四、〇〇〇	一〇、三〇〇
全	一四	裸麥コピンカタキ		八〇〇	二〇、七〇〇
全	三〇	小麥畠田		一、一〇〇	二二、五〇〇
全	五七	裸麥コピンカタキ		一、六七〇	三三、六〇〇
全	八七	小麥畠田		二、七七〇	五六、一〇〇
全	三三九	小麥畠田		一〇、〇〇〇	一九九、〇〇〇
全	三三九	裸麥コピンカタキ		一〇、〇〇〇	一九九、〇〇〇
全	二	小麥畠田		〇七〇	一、八〇〇
全	二七	小麥畠田		一、二九五	三〇、四〇〇
全	五	大麥		五二〇	一〇、五〇〇
全	三三	裸麥コピンカタキ		一、八八五	四二、七〇〇
全	三二	小麥畠田		一、〇〇〇	二一、〇〇〇
全	三二	小麥畠田		五一〇	一〇、二〇〇

配付町村名	配付人員	配付種類名	企數	量	栽培反別
吉野	一三八	小麥畠田	石	四〇〇	四、一〇〇
全	一三	裸麥白トウ		四〇〇	四、一〇〇
全	九	小麥畠田		四一〇	六、八〇〇
全	一〇	裸麥白トウ		四六〇	一、〇〇〇
全	一〇	小麥畠田		四六〇	七、八〇〇
全	一八	裸麥白トウ		一、三九五	二八、四一五
全	三三	小麥畠田		九〇〇	一五、三二〇
全	二	大麥短芒		一五〇	三、一三
全	五二	裸麥白トウ		二、四四五	四六、九一八
全	三八	小麥畠田		二、四五〇	四八、二〇〇
全	三七	小麥畠田		二、〇〇〇	三九、一〇〇
全	七五	裸麥白トウ		四、四五〇	八七、三〇〇
全	一五	裸麥白トウ		一、四九〇	四七、一一〇
全	八	全コピンカタキ		八八〇	二四、四〇〇
全	四三	小麥畠田		三、〇五〇	七七、五一〇
全	六五	裸麥コピンカタキ		五、四二〇	一四九、一〇〇
全	九	裸麥コピンカタキ		九八〇	二六、八〇五
全	七	全三島		一七〇	三、六〇〇
全	一三一	全白トウ		九、八九五	二二七、四一八
全	一九〇	小麥畠田		九、三二〇	一九九、〇〇一
全	四	大麥短芒		三二〇	一三、一一三
全	三四一	小麥畠田		二〇、六八五	四七〇、〇〇七

郡名	紫雲英		苜蓿		豌豆及蚕豆	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
佐良山	四三	九二	小麥畠田	一、五二〇	三、二〇〇	三、二〇〇
全計	九二	三	大麥	四、〇二〇	七、七〇〇	七、七〇〇
集計	六八	九五	裸麥コピンカタキ	五〇〇	五、〇〇〇	五、〇〇〇
通計	四九四	一七	小麥畠田	二、一九五	四、四七〇	四、四七〇
	一七	大麥	一、九二〇	二、八、一〇〇	二、八、一〇〇	二、八、一〇〇
	五七九		二七、〇八五	五三九、三〇〇	五三九、三〇〇	五三九、三〇〇

紫雲英其他種子配付一覽表

郡名	紫雲英		苜蓿		豌豆及蚕豆	
	數量	價額	數量	價額	數量	價額
御津	三、二二五	一〇九、三三五	〇五〇	二、二〇〇		
赤磐	一、五〇〇	五二、五〇〇				
眞庭	一、〇〇〇	四二、〇〇〇	六〇〇	二、五〇〇		
勝田	一七、〇〇〇	五八五、五五一	五、〇六〇	二一、四五〇		
勝田	一六、九〇〇	五八〇、九九〇	七九〇	三、三五〇		
英田	四、三五〇	一四八、七七〇	二〇〇	八四八		
久米	三、七八〇	一二九、二七六	一、〇〇〇	四、二四〇		
計	四七、八八五	一、六四八、四五二	七、七〇〇	三二、六五〇	四、七七五	七〇、六三三

蔬菜種子配付表

郡名	數量	價額	種類
御津	〇〇五	二五〇	菜類
苦田	二二六	九、四〇〇	菜類
久米	〇八〇	五、二五〇	菜類
計	三一一	一四、九〇〇	全菜類

綠肥種子配付並栽培成績 (紫雲英)

郡名	配付量	配付町村數	配付人員	栽培反別
御津	三、二二五	六	一四九	一六、九九一三
赤磐	一、五〇〇	二	九五	七、五三〇〇
眞庭	一、〇〇〇	六	五二	七、〇六〇〇
勝田	一七、〇〇〇	一三	五七四	一三五、一八二一
勝田	一六、九〇〇	一	七二	七八、八九二〇
英田	四、三五〇	一〇	二六二	二二、〇六〇四
久米	三、七八〇	四	二三五	二二、〇八一〇
計	四七、八八五	八一	二、〇七九	二九〇、八一八

全上 (苜蓿)

郡名	配付量	配付町村數	配付人員	栽培反別
御津	0500	一	五人	1500
眞庭	6000	六	三九	30800
苦田	5060	六	一八四	11510
勝田	790	六	八二	31305
英田	1000	五	二四	7405
久米	7000	四	一八	7010
計	27700	二八	三五二	193210

御津郡綠肥種子配付并栽培成績

町村名	種類	配付人員	配付量	栽培反別	種類	配付人員	配付量	栽培反別
上建部	紫雲英	三九人	一、一六五	五、九七〇〇				
建部	全	一七	二一〇	七二〇〇				
加茂	全	三四	一、〇〇〇	四、九五〇〇	苜蓿			
宇甘	全	二五	四〇〇	三、五三〇〇				
牧山	全	一九	二〇〇	一、〇七一三				
宇甘	全	一五	一五〇	七五〇〇				
計		一四九	三、一二五	一六、九九一三				

赤磐郡綠肥種子配付并栽培成績

町村名	種類	配付人員	配付量	栽培反別	町村農會名	種類	配付人員	配付量	栽培反別
西高月	紫雲英	二八	〇四〇	一三〇〇	佐伯北	紫雲英	三	〇七〇	五〇〇〇
高山陽	全	三	〇六〇	一八〇〇	佐伯上	全	三	〇七〇	四〇〇〇
西山	全	二	〇四〇	二〇〇〇	石生	全	二	〇四〇	四〇〇〇
鳥取	全	二	〇四〇	二〇〇〇	豐田	全	四	〇四〇	二〇〇〇
輕部	全	二	〇六〇	二〇〇〇	小野	全	三	〇七〇	二〇〇〇
笹岡	全	三	〇六〇	三〇〇〇	可真	全	一〇	一〇〇	五〇〇〇
周方	全	四	一〇〇	六〇〇〇	太田	全	二	〇四〇	二〇〇〇
山方	全	四	〇八〇	四七〇〇	吉岡	全	二	〇四〇	二〇〇〇
仁堀	全	四	〇八〇	四〇〇〇	瀨戶	全	一	〇四〇	二〇〇〇
布美	全	三	〇六〇	三〇〇〇	瀨戶	全	一	〇四〇	二〇〇〇
竹枝	全	八	一〇〇	五〇〇〇	計		九五	一、四七〇	七、五〇〇〇
五城	全	四	〇八〇	四〇〇〇					
葛城	全	二〇	〇四〇	二〇〇〇					

眞庭郡綠肥種子配付并栽培成績

町村名	種類	配付人員	配付量	栽培反別	種類	配付人員	配付量	栽培反別
津田	紫雲英	三人	一〇〇	五〇〇〇	苜蓿	二人	〇五〇	〇六〇〇

町村名	種類	配付人員	配付量	作付反別	種類	配付人員	配付量	作付反別
勝間田	紫雲英	一五一人	六、五〇〇石	二二、一〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
豐國	全	七四人	一、〇〇〇石	三、二〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
湯郷	全	四九人	一、五〇〇石	七、五〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
公岡	全	四四人	四、〇〇〇石	二、〇〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
飯岡	全	六〇人	八、〇〇〇石	七、八二八町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
北和	全	一四一人	二、〇〇〇石	四、九〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
南氣	全	四二人	八、〇〇〇石	三、七四〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
高取	全	三三一人	三、〇〇〇石	一、一〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
大河	全	三六一人	五、〇〇〇石	二、五〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
廣邊	全	九一人	一、八〇〇石	一、四一五町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
勝茂	全	一五一人	一、〇〇〇石	二、〇三七町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
廣野	全	一四一人	四、〇〇〇石	二、九一〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
植月	全	八一人	二、〇〇〇石	一、八八〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
吉野	全	二〇一人	一、二〇〇石	一、〇〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町

四三

勝田郡綠肥種子配付并栽培成績

東加茂	紫雲英	一五〇人	四、五〇〇石	二二、五〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
計		五七四人	一七、〇二〇石	一三五、一八二町		八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町

町村名	種類	配付人員	配付量	栽培反別	種類	配付人員	配付量	栽培反別
田邑	紫雲英	一三人	八〇〇石	四、〇〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
西田	全	四九人	二〇〇石	八〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
泉野	全	七六人	一、七六四石	四八、一〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
一宮	全	七三人	一、六八〇石	六、七〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
郷野	全	二二人	〇五〇石	二、五〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
高野	全	一二人	一〇〇石	五、四二〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
林美	全	一五人	一四一石	七、一〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
香美	全	二一人	三〇〇石	三、〇〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
東田	全	四一人	四九〇石	二、四六一町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
加茂	全	八二人	二、九八八石	二六、四二〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町

苦田郡綠肥種子配付并栽培成績

久世	紫雲英	一八一人	二、五〇〇石	二、〇〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
勝山	全	一〇一人	二五〇石	一、九五〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
川東	全	七七人	二〇〇石	一、〇〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
落合	全	四七人	二〇〇石	六、一〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
美和	全	一〇一人	二〇〇石	一、〇〇〇町	苜蓿	八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町
計		五二一人	一、二〇〇石	七、〇六〇町		八人	一、一〇〇石	五、五〇〇町

四二

英田郡綠肥種子配付并栽培成績

町村名	種類	配付人員	配付量	栽培反別	種類	配付人員	配付量	栽培反別
勝田	紫雲英	三八人	二、〇〇〇	六、四〇〇	苜蓿	三七人	二、〇〇〇	四、九〇五
古野	全	二〇	六〇〇	二、〇〇〇	苜蓿	四	〇	二、九〇〇
豐並	全	五	一、〇〇〇	五、〇一〇	苜蓿	四	〇	二、九〇〇
瀧尾	全	四五	一、〇〇〇	七、八、九、二〇	苜蓿	八二	七、九〇〇	三、三〇五
計		七二	一六、九〇〇					

英田郡綠肥種子配付并栽培成績

町村名	種類	配付人員	配付量	栽培反別	種類	配付人員	配付量	栽培反別
巨勢	紫雲英	二二人	三、〇五〇	一、九二二〇				
大江	全	二〇	八〇〇	三、四六〇九				
大野	全	一	〇一〇	二、二一〇〇				
河會	全	一四	三六〇	二、〇一〇〇				
檜原	全	二五	六〇〇	三、一七〇〇				
土居	全	二六	五二〇	四、〇〇〇〇				
福本	全	九二	五五〇	三、一三〇〇				
粟井	全	四	三〇〇	一、〇〇〇〇				
粟廣	全	一四	二七〇	一、三二〇〇				
倉敷	全	四四	五五〇	一、八一五〇				
計		二六二	四、二七五	二二、〇六四				

久米郡綠肥種子配付并栽培成績

町村名	種類名	配付人員	配付量	栽培反別	種類名	配付人員	配付量	栽培反別
三保	紫雲英	三五人	一、一三〇	五、八〇〇〇				
大倭	全	六七	一、〇九〇	四、〇〇一〇				
久米	全	三	一〇〇	二、八〇〇				
加美	全	一三〇	一、三〇〇	一三、〇〇〇〇				
佐山								
大井								
計		三三五	三、六二〇	三三、〇八二〇				

豆類種子配付并栽培成績 (蠶豆)

郡名	配付量	配付町村數	配付人員	栽培反別
久米	二、二八〇	四	一一人	六、二〇二
計	二、二八〇	四	一一人	六、二〇二

全上 (豌豆)

郡名	配付量	配付町村數	配付人員	栽培反別
久米	二、四九五	五	一七六人	八、〇八二〇
計	二、四九五	五	一七六	八、〇八二〇

久米郡豆類種子配付并栽培成績

町村名	種類名	配付人員	配付量	作付反別	種類名	配付人員	配付量	作付反別
三保	蠶豆	四六	六二五	三、三三〇〇	碗豆	五二	四四〇	二、三三〇〇
大井	全	一六	六五	四、五〇六	全	二	〇一〇	〇、〇八〇〇
佐良山	全	一	一	一、〇一五	全	四七	九九五	二、八六〇〇
久米	全	三三	一、一〇〇	一、一〇一五	全	二六	四五〇	一、四六〇〇
加美	全	三〇	五〇〇	一、三二〇〇	全	四九	四九〇	一、三二〇〇
計		一四	二、二八〇	六、二〇一一		一七六	二、三八五	八、〇八二〇

蔬菜種子配付并栽培成績

郡名	配付種類名	配付量	配付町村數	配付人員	栽培反別
御津	蔬菜類	五	一	一	〇、〇三〇
苦田	全	二二六	二	二二	六、三五一五
久米	全	八〇	三	六三	一、八九一〇
計		三一	六	一八七	八、二七二五

御津郡蔬菜種子配付并栽培成績

町村名	種類名	配付人員	配付量	栽培反別
御津	蔬菜類	一	〇、〇〇五	〇、〇〇〇
久米	全	二二	二、二八〇	六、三五一五
計		二三	二、二八〇	六、三五一五

上建部	栽培反別
計	〇、〇〇〇

苦田郡蔬菜種子配付并栽培成績

町村名	種類名	配付人員	配付量	栽培反別
一宮	菜類	六五	一、三二一	三、七六一五
東加茂	全	五八	〇、九四	二、五九〇〇
計		一二三	二、二六	六、三五一五

久米郡蔬菜種子配付并栽培成績

町村名	種類名	配付人員	配付量	栽培反別
大井	東菜類	一	〇、〇一一	〇、〇一〇
久米	全	二五	〇、〇三	一、一五〇〇
三保	全	三七	〇、〇二二	七、四〇〇
計		六三	〇、〇八〇	一、八九一〇

馬鈴薯種落配付成績

風災被害民に對し馬鈴薯栽培獎勵の趣旨を以て神戸市平野矢部町村田平左衛門氏より該種薯寄贈ありしを以て左の通り配付せり

出張せしめて妻楊子、菫、吹、繩及罌粟栽培の調査をなさしめ又技手石居長雄を兵庫縣下に出張せしめて燻色の製造を調査せしめ尚栃本縣下に出張せしめて經木織の調査をなさしめたり

一、副業講習會

副業の指導に就ては本縣より今井屬出張し本會より技手長尾百一、石居長雄、佐守舜一を被害各郡に出張せしめて各副業の講習會を開かじめ當業者の智識啓發に努めたり講習會の状況左の如し

イ、ミカド帽子製造講習

御津郡金川町、牧山村、加茂村、宇甘西村、宇甘東村、宇垣村、建部村、赤磐郡佐伯上村、可真村、竹枝村、葛城村、小野田村、笹岡村、太田村、西高月村、苫田郡中谷村、芳野村、加茂村、勝田郡勝田間町、久米郡西川村の二十ヶ町村に於て講習會を開き本會よりは講師として和氣、赤磐地方に於ける熟練せる職工を派遣し尙原料代及會場費の補助をなしたり

ミカド帽子製造講習會成績

會場位置	講習ノ所數	受講人員
御津	二	七九
金山	一	二〇
同加茂	二	四二
同宇甘西	一	五一
同宇甘東	二	三五
同宇垣	二	五〇
同建部	一	三五
赤磐佐伯上	一	三八
同可真	二	六八
同竹枝	三	六六

製造數量	開催地町村農會支會金額					本縣農會支會金額					會期	
	講師給料	全上食費	全上旅費	會場費	原料代	計	講師給料	全上食費	全上旅費	原料代補助		計
三〇〇					三五、〇〇〇	三五、〇〇〇					九五、七五〇	自三月九日 至九月九日 延一四四日
一三八					二、〇〇〇	二、〇〇〇					三六、二二〇	自三月九日 至三月九日 延五日
一五〇					六五、〇〇〇	六五、〇〇〇					二二、二一〇	自四月三日 至六月十日 延一三二日
二七二					二七、五〇〇	二七、五〇〇					五五、九〇〇	自三月七日 至五月十日 延六六日
一五〇					一四一、〇〇〇	一四一、〇〇〇					四八、五五〇	自四月五日 至六月十日 延一三〇日
三〇〇					一〇五、〇〇〇	一〇五、〇〇〇					八五、七〇〇	自三月六日 至五月七日 延一三二日
二四五					三、四八〇	三、四八〇					四八、六九〇	自三月七日 至五月六日 延六六日
三二〇					一〇、〇〇〇	一〇、〇〇〇					四八、一四〇	自一月七日 至五月六日 延一三一日
一、三二四					四、〇〇〇	四、〇〇〇					五三、四四〇	自三月十日 至五月十日 延一三二日
三三〇					一六、五〇〇	一六、五〇〇					五四、三八〇	自三月七日 至五月七日 延一四九日

製 品 價 格	農 家 手 取 額	販 賣 額	從 業 人 員	
			戶 數	人 員 數
150,000	150,000	150,000	110	110
48,000	48,000	48,000	23	23
48,000	48,000	48,000	40	40
134,200	134,200	134,200	49	51
70,000	70,000	70,000	25	30
210,000	210,000	210,000	46	50
124,950	124,950	124,950	33	34
186,000	186,000	186,000	38	38
794,400	794,400	794,400	100	110
165,000	165,000	165,000	66	66

ミカド帽子製造講習成績 一一

本 縣 農 會 支 出 金 額	講 師 給 料	全 上 食 費	全 上 旅 費	原 料 代 補 助	會 場 費 補 助	器 具 代 補 助	其 他	計	會 場 位 置	講 習 所 數	受 講 人 員	會 期	製 品 價 格	
													農 家 手 取 額	販 賣 額
20,000	20,000	14,000	800	18,800	1,000			54,610	葛 城	3	57	自三月十日 延至五月三日	150,000	150,000
20,000	20,000	14,000		15,510	1,000			50,510	同 野 田	2	47	自四月三日 延至五月十日	48,000	48,000
28,820	28,820	26,300	2,400	16,820	2,000			76,440	同 岡	2	51	自三月十日 延至五月十日	48,000	48,000
20,000	20,000	14,000		12,540	1,000			47,540	同 太 田	2	38	自四月二日 延至六月二日	134,200	134,200
52,000	52,000	28,000	1,100	44,550	6,000			131,650	同 西 高 月	2	135	自三月七日 延至五月十日	70,000	70,000
20,000	20,000	14,000	1,400	3,630	500			39,530	中 苦 田 谷	1	11	自三月十五日 延至五月十日	210,000	210,000
20,000	20,000	14,000	800	2,640	500			37,940	同 芳 野	1	8	全	124,950	124,950
20,000	20,000	14,000	2,200	8,580	1,000			45,780	同 加 茂	1	26	自三月七日 延至五月十日	186,000	186,000
20,000	20,000	14,000		9,900	1,000			30,900	勝 田 間	1	30	自四月二日 延至六月二日	794,400	794,400
20,000	20,000	14,000	2,390	11,550	1,000			48,940	久 米 川	1	35	自四月十日 延至六月十日	165,000	165,000

開 催 地 町 村 農 會 支 出 金 額	講 師 給 料	全 上 食 費	全 上 旅 費	原 料 代 補 助	會 場 費	器 具 代 補 助	其 他	計	製 造 數 量	製 品 價 格	
										農 家 手 取 額	販 賣 額
101,000	101,000							101,000	700	320,000	320,000
110,000	110,000							110,000	300	150,000	150,000
196,750	196,750	20,000		108,900		17,850	4,000	196,750	330	65,250	65,250
53,000	53,000	14,000		7,600	8,000		3,400	53,000	760	49,000	49,000
222,470	222,470	49,200		49,500	5,400	3,800	3,050	222,470	1,620	78,960	78,960
18,950	18,950							18,950	56	25,500	25,500
6,000	6,000							6,000	100	35,000	35,000
54,270	54,270			45,750			8,520	54,270	100	41,950	41,950
69,200	69,200			48,000	8,700	11,500		69,200	180	81,000	81,000
29,800	29,800							29,800	30	7,500	7,500

ミカド帽子講習成績集計

講習開催所數	講習開催町村數	講習受講人員數	講習期
100	90	1,152	自三月九日 延至六月廿一日
47	45	1,152	自三月九日 延至六月廿一日
51	51	1,152	自三月九日 延至六月廿一日
38	38	1,152	自三月九日 延至六月廿一日
15	15	1,152	自三月九日 延至六月廿一日
26	24	1,152	自三月九日 延至六月廿一日
45	45	1,152	自三月九日 延至六月廿一日
11	9	1,152	自三月九日 延至六月廿一日

爆苞製造講習會成績

會場位置	講習箇所數	會期	講習人員	本縣農會支出金額																
				講師給料	全上食費	全上旅費	原料代補助	會場費補助	器具代補助											
御津西	1	四月十日	301人																	
御津東	1	四月九日	110人																	
御津垣	1	四月十一日	365人																	
御津部	1	四月八日	25人																	
眞庭世	1	自四月三日 至四月四日	80人																	
川上羽	1	四月九日	54人																	
苦田西	1	三月廿八日	35人																	
全宮	1	三月卅日	34人																	

爆苞製造講習會成績

會場位置	講習箇所數	會期	講習人員	本縣農會支出金額																
				講師給料	全上食費	全上旅費	原料代補助	會場費補助	器具代補助											
苦田倉	1	三月廿八日	301人																	
全茂	1	三月三十日	20人																	
全野	1	四月一日	39人																	
久米美	1	四月六日	50人																	
全岡	1	四月二日	45人																	
全西	1	四月四日	70人																	
全目	1	四月六日	100人																	
計	15	自三月廿六日 至四月十六日	1,348人																	

從業人員數	戶數	從業人員數	戶數
三〇	三〇	三三	三三
三〇	三〇	四五	四五
六六	六六	九八	九八

疊表製造講習

此講習は久米郡倭文西村に於てのみなしたるものにして三月十七日より二十三日に至る七日間、開催したり、本會より補助したる金額左の如し。

講師旅費 一四、一三〇 原料代補助 一二、八〇〇 會場費補助 一、〇〇〇
 器具費補助 五、〇〇〇 其他 一、六〇〇 計 三四四、五三〇
 而して村農會より支出したる金額は貳圓七拾錢なり。
 副業講習會成績總計

講習會開設ヶ所數	講習人員
七二	三、八六七
本縣	八七九、二六〇
農會	三九七、一〇〇
支會	二五六、九六〇
金出	四三一、七七〇
額計	六〇〇、一〇〇
其他	二六、六二〇
器具代補助	一二三、八九〇
會場費補助	二、一七五、七一〇
計	二、一七五、七一〇
開地	二四八、五二〇
町	一〇九、七〇〇
村	三、〇〇〇
農會	四〇二、八八三
支會	七四五、〇五〇
金出	二九五、八七〇
額計	四〇〇、五五〇
其他	二、一〇五、五七三
器具代補助	
會場費補助	
計	二、一〇五、五七三

二、副業講習會成績説明

(1)、ミカド帽子製造現在及將來の見込

本業は從來和氣郡香登、鶴山、片上地方に製造せるものありしも、技術習得に長時日を要するが故に盛況を呈するに至らざりき然るに本會に於て教師を備聘し講習せしめたる結果製造者大に増加し御津、赤磐、苦田、勝田、久米五郡二十ヶ町村に亘り講習人員九百二十二人の多きに達したり技術の巧拙老幼に依り仕上品の良否及工程に差異ありと雖も大約一個の帽子仕上に三日乃至五日を要し平均一個組み上賃六拾錢乃至八拾錢にして一日拾貳錢乃至貳拾五六錢の收入あるを以て農家婦女子の家内工業として將來益々發達すべく有望の副業品たり

イ、仕向先及仕向地の批評

ミカド帽子商會地方特約人より原料の供給を受くるものにして製造したる帽子は地方特約人之れを集め神戸市に送付し商館の手を経て海外に輸出しつゝあり内地生産總額は一ヶ年約百萬打にして其七八割は海外輸出品なるを以て將來の需要益増加すべし而して現今本縣生産年額約五萬打に達すと雖粗製濫造なるもの多く將來之れを改良するに非んば斯業の發達上大打撃を來すに至らん

製品價格	農家手取價
從業人員數	四、三二一、一六五
戶數	一、七七九
人員數	二、〇〇〇

ロ、講習開催地の以外に於ける景況

邑久、上道、吉備の諸郡は講習を開催せずと雖も製造者漸次増加しつつあるを以て益々盛大に赴きつつあり

ハ、收支計算

技術の巧拙に依り工程及仕上等級一様ならずと雖も大約壹個組上げには参日乃至五日を要し平均組上工賃六拾錢より八拾錢にして壹日拾貳錢乃至貳拾五六錢の収入あるものとす

(2)、醋酸石灰製造、現在及將來の見込

本業は歐洲戰亂開始後藥品暴騰の結果阿哲、眞庭、苦田、英田の諸郡に於て所々に木醋液採收に着手し一面醋酸石灰製造を開始したるものありしも技術未熟にして結果良好ならざるものありき茲に於て本會は講師を備聘し眞庭郡落合町、苦田郡羽出村の二ヶ所に講習會を開催せしに講習成績は良好にして講習生は各自能く技術を修得し羽出村の如きは講習終了と共に製造に着手し壹日平均四百磅の醋酸石灰を生産するに至れり今百磅四圓貳拾錢とするも木醋液壹圓五拾錢薪(生木)八拾貫六拾四錢人夫賃壹圓石灰代四拾五錢雜費拾貳錢計金參圓七拾壹錢を控除するも四拾九錢の純利を得壹日四百磅生産するを以て壹圓九拾六錢の利益を得ること難からず故に將來百磅に付參四拾錢の下落を來すと雖も利益あるを以て木炭製造の際廢物利用として木醋液採收の業も漸次發達すへし。

イ、講習開催地以外に於ける景況

醋酸石灰製造の業盛なるに至らば講習開催地以外に於ても木醋液製造は現今より隆盛となるべし

ロ、收支計算

(百磅に付)羽出村調(全村一日生産量四百磅)

收	入	醋酸石灰百磅代
一金四圓貳拾錢		
支	出	
一金參圓七拾壹錢		總支出
内	譯	木醋液
金壹圓五拾錢		薪八十貫代(但薪は枝木に付炭火跡は灰とをれり)
金六拾四錢		人夫二人分
金壹圓		石灰代
金四拾五錢		雜費(繩以代)
金拾貳錢		利益
差引	金四拾九錢	

(3)、妻楊子製造、現在及將來の見込

從來苦田郡津山町に於て敷島楊子(原料柳にて)の製造をなせしも黒モデにて普通角楊子を製造せしものなりしが本會に於て教師を備聘し原料の豊富なる苦田郡羽出村、久田村及上加茂村勝田郡梶並村英田郡倉敷町の五ヶ所に講習會を開催せしに成績良好にして斯業技術を受講せしもの六十一人に達せり技術の巧拙仕上品の良否及工

程に依り差異ありと雖も一日平均貳拾錢乃至貳拾五錢の收入あり故に山間部の原料豊富なる地に於ける農家の副業として適するを以て將來益々發達の望みあり

イ、仕向先及仕向地の批評

製品の數量尙少なきを以て之れを阪神市場に販賣するに至らず縣下に於ける需要地の批評を聞くに頗る好評を博し歓迎せられつゝあり殊に小間物店の人氣良好なり

ロ、講習開催地以外に於ける景況

講習開催地以外に斯業に従事せるものなし

ハ、收支計算 勝田郡梶並村

收 入

一金貳拾八錢 角楊子七千本代一千本に付四錢 製造者一人平均一日の生産量

支 出

一金五錢四厘 總支出

内 譯

金四錢九厘 原料七千本代一千本に付七厘

金五 厘 角楊子七千本結束用糸代

差引金貳拾貳錢六厘

(4)、麻裏草履製造、現在及將來の見込

本業は久米郡の一部福岡村地方に於て盛に製造せるものありしが近時需要大に増加せし爲め充分の供給をなすを得ず大に斯業の隆盛を計らざる可らざる有様なり然れども技術修得に多大の經費と長時日を要するを以て速に進歩發達の域に向はざりき本會が講師を備聘し勝田郡勝田村、英田郡大原村、久米郡三保村の三ヶ所に講習會を開きたるに受講人員六十六人(重に婦人)を得たる結果講習地に於ては斯業漸次隆盛に向ひつゝあり而して技術の巧拙製品の良否及工程に依り差異ありと雖も一日平均拾參錢乃至貳拾錢の賃金を得るが故に斯業將來は農家婦女子の家内工業品として尤も有望なるを認む

イ、仕向先及仕向地の批評

地方商人に於て製品を纏め大阪地方に販出せり近時大に需要増加したるを以て製品は好評を以て向へられつゝあり

ロ、講習地以外に於ける景況

御津、邑久、上道の諸郡に於て從來斯業を營める地方に於ても漸次隆盛に向ひつゝあり

ハ、收支計算 勝田郡勝田村調

收 入

一金參拾六錢 麻裏草履一日生産量一人平均八足代一足四錢五厘

支 出

一金拾六錢 總支出

内 譯

金拾貳錢 原料切藁二百匁代一貫ニ付六拾錢

金四錢 藁晒用硫黃代八足分一足ニ付五厘

差引金貳拾錢 利益

(5)、爆苞製造、現在及將來の見込

本業は今より四五年前赤磐郡鳥取上村地方に一時製造せしことありしも當時現今の如く需要盛ならざると價格低廉なることにより發達せざりき其後販路開け漸次需用盛なるに従ひ價格も亦騰貴するに至れり今や交通關機の完備せる地方にして副業なき農家には適當の事業となりしてを以て本會は講師を備聘し御津、苦田、久米等の諸郡に於て十五ヶ所講習會を開きたるに受講人員一千三百四十八人の多きに達したり製造技術の巧拙に依り工程に差異ありと雖も一日平均七八錢より拾錢位の收入なるが故に漸次組み方に熟練すると全時に一方に於て取引方法に改良を加へ村農會産業組合等に於て斡旋せは將來發達の見込ありて農家適當の副業たるを認む

イ、仕向先及仕向地の批評

講習終了當時農繁期なりしを以て製品從て少く末た販出の運に至らざるが故に仕向地たる神戸地方の精細なる批評を聞くことを得ざるも製品見本を送りたるに好評を以て向へられたり

ロ、講習開催地以外にける景況

開催地以外にては邑久郡大宮村地方に製造せるものありて漸次發達に向ひつゝあり

(6)、蠶網製造、現在及將來

蠶網は縣下一般に養蠶家に於て製造使用せりと雖も其生産額少量にして需要を充すことを得ず重に、静岡大分の両縣下より移入されつゝあり本縣にては後月郡芳井村地方一部に製造販賣せるものあり然るに本會に於て教師を備聘し講習會を御津、苦田、久米の三郡に於て七ヶ所に開き受講人員四百六十一人を算し何れも成績良好にして講習終了後自家用として盛に製造し好評を博しつゝあり

收支計算

收入

一金五拾四錢 蠶網三十枚分價格(一日一人)一枚壹錢八厘

支出

一金參拾六錢 三十枚分原料代一枚壹錢貳厘

差引殘金拾八錢 一日分利益

(7)、講習地に於ける麥稈眞田製造の現在及將來

本業は縣下淺口、小田、後月、吉備、上房の諸郡に於て盛に製造しつゝあるも久米郡地方には從來産出せしことなし然るに本會に於て教師を備聘し久米郡に於て講習會を開催せしに受講者非常に多く郡内全部に亘り三千二百三十三人(重に小學校生徒)を算するの盛況を呈し壹日六錢乃至拾錢の組賃を得つゝあり漸次技術の進歩に

件ひ収入増加せるが故に將來價格の下落せざる限り家庭副業品とし有望なるを認む

イ、仕向先及仕向地の批評
 神戸市在麥稈真田商店誠忍社より久米郡に出張店を設置し全店に於て製品を取纏め輸出せり而して一般に好評を以て向へられつゝあり

ロ、麥稈真田講習會後に於ける久米郡内の生産高

村名	製造に着手より大正六年五月二十日迄真田組製造高		大正六年五月廿一日より全月三十一日迄製造高		計
	一、一五一	二七	一、〇七八	二七	
大井西	一、一五一	二七	一、〇七八	二七	一、一七八
大井東	一、〇七八	一六	一、〇八三	一五	一、〇八三
久米	一、三六六	一六	一、三六六	一六	一、三六六
三保	三二六	六	三二六	六	三二六
打穴	六六一	一	六六一	一	六六一
倭東	一、六〇三	四七	一、六〇三	四七	一、六〇三
倭西	二、九七四	二九	二、九七四	二九	二、九七四
西川	八二八	一	八二八	一	八二八
大井	一、一三五	七	一、一三五	七	一、一三五
大井	二、三九八	五二	二、三九八	五二	二、三九八
大井	九八二	二八	九八二	二八	九八二
大井	一、四三六	六五	一、四三六	六五	一、四三六

前記の如く農家副業講習會を開催したりと雖も大正四年度内に完了し能はざるを認め大正五年三月三十日評議員會を開きて大正五年度特別費收支豫算を提案し満場一致を以て原案を可決し總會の書面決議に附することに決したるを以て直に經費繰越處分の認可申請をなし三月三十一日付にて書面決議に附して左記豫算を可決し四月六日付本縣より繰越處分を認可ありしを以て四月八日付を以て農商務大臣に豫算變更の申請をなし全月十九日付認可を得て本事業を繼續し既記の如く講習會を開きたり

村名	製造に着手より大正六年五月二十日迄真田組製造高		大正六年五月廿一日より全月三十一日迄製造高		計
	三、二九〇	三六	一、七四四	一三五	
弓削	三、二九〇	三六	一、七四四	一三五	三、二九〇
吉岡	一、七四四	二	一、七四四	二	一、七四四
福山	一、二二三	二八	一、二二三	二八	一、二二三
佐良山	一、〇八八	九一	一、〇八八	九一	一、〇八八
加美	五、二六五	七	五、二六五	七	五、二六五
稲南	二九八	二八	二九八	二八	二九八
龍山	二五六	一	二五六	一	二五六
龍川	五〇九	二二	五〇九	二二	五〇九
福渡	一、八九四	七	一、八九四	七	一、八九四
神目	一、六六〇	七	一、六六〇	七	一、六六〇
計	三二、〇四三	六五〇	三二、〇四三	六五〇	三二、〇四三

岡山縣農會大正五年度特別費收入豫算書

科	目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較	増減	説明
第 款	縣費補助金		一五、〇〇〇、〇〇〇		一五、〇〇〇、〇〇〇	
第 項	縣費指定補助金		一五、〇〇〇、〇〇〇		一五、〇〇〇、〇〇〇	
第 款	雜 收入	五、〇〇〇	二〇、〇〇〇		一五、〇〇〇	當座預金利子
第 項	雜 收入	五、〇〇〇	二〇、〇〇〇		一五、〇〇〇	
第 款	繰越金	四、八六五、〇〇〇		四、八六五、〇〇〇		
第 項	前年度繰越金	四、八六五、〇〇〇		四、八六五、〇〇〇		
合 計		四、八七〇、〇〇〇	一五、〇二〇、〇〇〇		一〇、一五〇、〇〇〇	

岡山縣農會大正五年度特別費支出豫算書

科	目	本年度豫算額	前年度豫算額	比較	増減	説明
第 款	風災被害農民救護費	四、八七〇、〇〇〇	一五、〇二〇、〇〇〇		一〇、一五〇、〇〇〇	
第 項	種穀購入補助交種穀購入費		一〇、〇〇〇、〇〇〇		一〇、〇〇〇、〇〇〇	
第 項	副業獎勵費	四、六四五、〇〇〇	四、八〇〇、〇〇〇		一三五、〇〇〇	器具購入製品原料及製品運搬、同業組合に屬する加入料製品証紙料割引証紙料製造其他教師雇入講習講話其他諸費
第 項	雜 費	二二五、〇〇〇	二二〇、〇〇〇	五、〇〇〇		
合 計		四、八七〇、〇〇〇	一五、〇二〇、〇〇〇		一〇、一五〇、〇〇〇	

款内費目は彼是流用支辨することを得

大正五年度に於ては本豫算に依り前年度より引き續き前記副業講習會を開催したり、而して講習會の外一般農家に副業種類を周知せしむる爲め農家副業品展覽會の必要を認め又副業生産物販路擴張の爲め試賣及販路視察をなすの必要を認めたるを以て之を大正五年十二月の評議員會に諮りて承諾を受け此事業を遂行したり

第三、農家副業品展覽會

本會主催副業講習會の成績品を蒐集すると同時に縣下に於ける在來農家副業品を集め之れを一般公衆の觀覽に供し一面には農家の副業獎勵の資となし一面には副業生産物の紹介となさん爲め十月十三日左記農家副業品展覽會規則並に出品物貸與規程を定めて十二月廿三日評議員會に於て之れが承認を経たり

岡山縣農會農家副業品展覽會規則

- 第一條 本會ハ岡山縣農會農家副業品展覽會ト稱ス
 - 第二條 本會ハ農家副業ノ發達ヲ計ルヲ以テ目的トス
 - 第三條 出品物ハ縣下風災地ニ於テ獎勵セシ農家ノ副業品並ニ縣下各郡市ノ副業品トス
 - 第四條 出品物ニ對シテハ褒賞ヲ授與セス
- 但シ本會ニ於テ必要ト認めタル種類ニ限り審査授賞スルコトアルベシ審査授賞スル副業品ノ種類及之ニ關スル規則ハ本會長ニ於テ別ニ之ヲ定ム

岡山縣農會農家副業品展覽會出品物貸與規程

- 第一條 岡山縣農會農家副業品展覽會出品物ハ本規程ニ依リ郡市農會ニ貸與スルモノトス

第二條 岡山縣農會農家副業品展覽會出品物ノ貸與ヲ受ケントスル郡市農會長ハ左ノ事項ヲ記載シ本會長ニ申請スヘシ

一、陳列展覽スル場所

二、陳列展覽スル期日

三、陳列スル品名數量

四、其他參考事項

第三條 前條ノ申請ハ展覽開始ノ日ヨリ拾日以前ニ本會ニ到達スル様提出スヘシ

第四條 貸與ノ許可ヲ得タル郡市農會長ハ直チニ品名數量及期間ヲ記入シタル借用証ヲ提出スヘシ借用証ハ現品全部返却ト同時ニ還付スルモノトス

第五條 貸與セシ物品ハ展覽期日終了後速ニ還却スルモノトス

第六條 貸與中ニ於テ物品ノ破損及紛失シタルトキハ郡市農會長ニ於テ責任ヲ負フモノトス

第七條 一郡市一回ノ貸與期間ハ五日以内トス但シ特別ノ事情アル場合ハ此限リニ非ズ

第八條 出品物運搬ニ要スル經費ハ借受郡市農會ノ負担トス

第九條 同時ニ二ヶ所以上ヨリ貸與ヲ申請セルトキハ先着ノモノニ之ヲ貸與ス

本規程により本會は各郡市の農家副業を調査し各郡市に對し副業品を指定し之れが買入方及解説書の提出方を照

會し本會は左記出品物全部を買上げたり

岡山縣農會農家副業品展覽會出品物

藁及麥稈製品	四六點	蓆	七點	吹	六點	野草薙	一點
繩	七點	蓆	二點	瓶	二點	麥稈眞田	一七點
瑞穂織	四點	蠶網	一點	牛	靴	麥稈帽子	三點
麻裏表	一點	藤裏表	一點	牛	靴		
蘭製品	二二點	疊表	四點	圓	敷	蘭眞田	一點
花 薙	三點	座蒲團	一點	下駄表	二點	信玄袋	二點
編 笠	四點	蠶網	一點	繭	繩		
スリツバ	一點			繭	繩		
竹細工品	八點						
炊 囊	一點	眞 番	一點	籠	一點	團 扇	二點
箆 器	三點						
林 産 物	一八點						
羊齒細工	三點	木通蔓細工	三點	松 根	油	木皮(染色用)	二點
コルク原料	一點	洋傘柄	一點	木 炭	三點	醋酸石灰	一點
妻 楊 子	一點	五 倍 子	一點	しなのき皮	一點		

特用作物 一三三點

大 麻 一点 茶 一点 三 椶 一点
 除虫菊花 二点 蒟蒻粉 一点 葛 粉 一点 薄荷油 一点
 蕃 椒 一点 馬鈴薯 一点 葉 藍 一点 甘 蔗 一点
 紙製品及紙 一一点

模造バナマ帽子 七点 張 笠 一点 紙 三點

蠶 糸 品 四點 眞 綿 一点 屑 繭 糸 二點

樟蠶繭製綿 一点 眞 綿 一点 屑 繭 糸 二點

食 料 品 八點

白小豆 一点 南 瓜 一点 干 瓢 一点 砂 糖 一点
 無花果乾果 一点 榧 油 一点 凍豆腐 一点 搗 栗 一点

雜 品 八二點

マニラ麻 一点 珠數玉細工 二點 線 香 六六點 簾 三點
 經木織 二點 レース糸編物 一点 白木綿 一点 燐寸箱 一点
 貝杓子 二點 經木眞田 二點 素地椀 一点

總 計 二二二點

本會に於て買上げたる前記出品物に對して提出したる解説書を抜萃して『農家副業品展覽會出品物要覽』と題して印刷し又解説書を添削編纂し『農家の副業』と題して印刷し之を展覽會參觀人其他へ無償配付を爲し以て農家副業獎勵の資料となしたり

本會主催農家副業品展覽會は大正五年十月十三日より四日間上房郡高梁町に於て大日本蠶糸會岡山支會主催蠶糸品評會開設を期とし全一會場に其第一回を開催したり、其第二回は大正六年二月十七日より三日間岡山市後樂園に於て本會主催水稻多收穫共進會、産米品評會、木炭品評會、及岡山縣山林會主催苗圃並植村品評會等の開設を期とし全所にて開催せり、爾後眞庭郡久世町、英田郡倉敷町、吉備郡津山町、吉備郡産業組合大會當日開催）御津郡金川町の五ヶ所に於て展覽會を開催したるに毎回觀覽者多數にして克く所期の成績を擧ぐるを得たり今其狀況を表示すれば左の如し

副業品展覽會開催狀況

開 催 場 所	開 會 期 日	開 催 日 數	觀 覽 人 員
上房郡高梁町	自大正五年十月十三日至大正五年十月十六日	四日	一三、六五二
岡山郡後樂園	自大正五年十一月十七日至大正五年十一月十九日	三日	一三、〇〇〇
眞庭郡久世町	自大正六年三月十八日至大正六年三月廿二日	五日	八、五〇〇
英田郡倉敷町	自大正六年三月廿二日至大正六年三月廿七日	五日	九、〇〇〇
吉備郡津山町	自大正六年三月廿九日至大正六年四月九日	十一日	七、〇〇〇
吉備郡總社町	自大正六年四月六日至大正六年四月九日	四日	八、〇〇〇

御津郡金川町

自大正六年四月十日
至全 年全月十三日

四 日 間
十 九 日 間

八二
三二、一二

本炭品評會、木炭の改良を促し且つ販路擴張を圖らんか爲木炭品評會開催の必要を認め本會副業品展覽會規則第四條但書に依り岡山市後樂園に於て之を開催することとし左の規則を設け大正五年十二月廿六日開設認可並規則認可を本縣知事に申請し大正六年一月六日其認可を受けたり

岡山縣農會木炭品評會規則

第一章 總 則

第一條 本會ハ岡山縣農會農家副業品展覽會規則第四條ニ依リ縣下ニ於ケル木炭ヲ蒐集陳列シ其改善ヲ計ルヲ以テ目的トス

第二條 本會ハ岡山縣農會木炭品評會ト稱ス

第三條 本會ハ大正六年二月二十七日ヨリ同年二月十九日迄岡山市後樂園ニ於テ開催ス

第四條 本會ノ事務所ハ岡山縣農會内ニ置ク

第二章 出 品

第五條 出品物ハ白炭黒炭(松炭ヲ除ク)ノ二種ニ限リ總点数ヲ二百点トス

第六條 出品者ハ本縣内ニ居住シ縣内ニ於テ木炭ヲ製造シ且ツ販賣スルモノニ限ル

第七條 出品物ハ五俵ヲ以テ一点(一樣ナルモノ)トシ出品ハ一人一点ニ限ル

第八條 郡農會長ハ第一號様式ニ依リ出品申込書ヲ取纏メ第二号様式ノ木炭調査書ヲ添付シ大正六年一月二十日

マテニ本會ニ送付スベシ

第九條 郡農會長ハ出品物ヲ取纏メ大正六年二月五日迄ニ會場ニ到着スル様發送スベシ

第十條 出品物ハ閉會後共同販賣ヲナスモノトス

第十一條 販賣代金ハ各郡別ニ取纏メ大正六年三月末日迄ニ郡農會ニ送付スルモノトス

第十二條 出品物ハ本會ニ於テ保管ヲナスト雖モ不可抗力ニ係ル損失並ニ審査ノ爲ニ生スル減耗ノ賠償ハ本會其責ニ任セス

第三章 審 査

第十三條 出品者ハ再審査ヲ請求シ褒賞ノ授與ヲ拒ミ又ハ審査ノ決定ニ對シ異議ヲ申立ツルコトヲ得ス

第十四條 審査規則ハ別ニ之ヲ定ム

第四章 褒 賞

第十五條 審査ノ成績優良ナルモノニ對シテハ左ノ等級ニ依リ褒賞ノ授與ヲ本縣知事ニ申請スルモノトス
一 等 二 等 三 等 四 等

第十六條 褒賞授與式ハ大正六年二月十七日會場ニ於テ之ヲ舉行ス

第五章 事 務

第十七條 本會ニ左ノ役員ヲ置ク

會長 一名 事務委員長 一名 審査長 一名
 審査員 若干名 事務員 若干名

- 一、會長ハ岡山縣農會長ヲ以テ之ニ充ツ
 一、事務委員長ハ岡山縣農會副會長ヲ以テ之ニ充テ本會一切ノ事務ヲ總理シ會長事故アルトキハ之ヲ代理ス
 一、審査長ハ其筋ニ派遣ヲ申請シ審査ニ關スル一切ノ事務ヲ統轄ス
 一、審査員ハ審査長ノ指揮ヲ受ケ審査ニ關スル事務ヲ處理ス
 一、事務委員ハ事務委員長ノ指揮ヲ受ケ庶務及會計ニ關スル事務ヲ分掌ス

(第一号様式)

出品申込書

製炭地 郡 町大字 字
 種類 (白炭又ハ黒炭) 樹種
 出品物惣重量 貫 匁 一俵ノ山元相場 圓 拾 錢

最近三ヶ年間 製造 大正三年 大正四年 大正五年 貫俵 貫俵 貫俵
 製造販賣數量 販賣 大正三年 大正四年 大正五年 貫俵 貫俵 貫俵
 主ナル取引地名 主ナル取引地迄ノ運賃 拾 錢 厘

右貴會ノ規則ヲ遵字シ出品候也

大正六年一月 日

出品者 郡 町大字 番地 何 某

岡山縣農會木炭品評會長殿

(第二号様式)

木炭調査書

町村名	製造		主ナル種類名	主ナル販路及販賣方法
	數量	價格		
合計				

大正六年一月 日

岡山縣農會木炭品評會長殿

備考 本書ニハ大正五年ノ事實ヲ記載スルモノトス

製造戸數トハ製炭經營者販賣所數トハ製造ニ係ラス販賣ノミニ從事スル戸數ヲ示シ從業人員トハ製炭ニ從事

大正六年一月廿五日審査員並事務委員の任命囑託をなし審査長の派遣を其筋に申請し二月二日農商務省より審査長として山林技師石川寅之丞氏を派遣せられたり斯くて二月十二日迄に左記出品物を受理し全日より審査に着手し全十五日終了全十七日後樂園鶴鳴館に於て水稻多收穫共進會其他各種品評會と共に褒賞授與式を舉行したり出品点数は百三十四点にして豫定点数(二百点)に達せざりしは稀有の積雪の爲出品物の搬出意の如くならず止むなく出品取消を爲したるもの掛からざりしに因る而して出品物は二月十七日より三日間會場(後樂園)に陳列し一般公衆に觀覽せしめ閉會後小口に普く賣却して販路の擴張及斯業の改良に資したり

木炭品評會出品点数一覧表

御津	九	赤磐	二
和氣	三	上房	三
川上	九	阿哲	三〇
眞庭	二四	苦田	二七
勝田	六	英田	一七
久米	一〇	計	一三四

木炭品評會受賞者一覧

種類	▲一等賞	(一名)	氏名
白炭	樹種	郡町村	植山守造
白炭	▲二等賞	(三名)	小林力藏
白炭	枹	阿哲新見町	山崎利太郎
白炭	櫟	苦田富村	植本元三郎
白炭	▲三等賞	(十三名)	
白炭	雜	苦田中谷村	中江凭碩
白炭	雜	苦田富村	武本賢之助
白炭	雜	苦田香々美北村	一ノ瀬床五郎
白炭	雜	苦田富村	爲本佐吉
白炭	櫟	英田大野村	中尾幸之助
白炭	櫟	英田西粟倉村	中島甚次
白炭	櫟	阿哲新見町	兒玉杏一
白炭	アベマキ	阿哲上市村	窪田馬太郎

白炭	櫟	阿哲新見町	植木英夫
白炭	櫟	真庭勝山町	浪本熊五郎
黒炭	櫟	真庭美川村	春木喜代八
黒炭	櫟	御津宇甘東村	赤松近平
黒炭	櫟	阿哲新見町	太田喜一郎

▲四等賞 (二十六名)

苦田郡上加茂村	川上鐵造	全郡泉村	太田好和
全郡富村	山崎勇	英田郡西粟倉村	森本勘太郎
全郡土居村	春名武雄	英田郡西粟倉村	尾關茂一郎
上房郡高梁町	大正木炭合資會社	川上郡平川村	今井淺太郎
和氣郡三國村	西崎京藏	阿哲郡新見町	小林泰平
全郡千屋村	旗原鶴太郎	全郡全村	清水清一
全郡上市村	酒木鹿次郎	全郡新見町	太田幸太郎
真庭郡新庄村	瀧田平治郎	全郡美甘村	田村安太郎
全郡美川村	春木豊藏	全郡富原村	柴田彌市
久米郡西川村	門呷光太郎	全郡堺和村	朝島廣次

四、副業生産品試賣

講習會の結果製造を開始したる妻楊子及爆苞の販路擴張の爲め御津郡宇甘西村農會、宇垣村農會及久米郡神目村農會へ麥稈製爆苞各壹万個づゝの試賣をなさしめ苦田郡上加茂村農會及勝田郡梶並村農會に妻楊子拾万本づゝの試賣をなさしめ之れに補助金を交付したり、成績左の如し

爆苞試賣成績

全郡全村	富永虎之助	全郡全村	杉山良藏
御津郡宇甘西村	友次安次郎	全郡全村	福井信左衛門
阿哲郡新見町	郷木茂夫	阿哲郡神代村	長谷川富三郎

御津郡宇甘西村農會は五千三百個を岡山市山陽ラムネ合資會社へ、五千個を御津郡野谷村大日本ラヂウム鐵泉株式會社へ試賣し、宇垣村農會は壹万三百個を山陽ラムネ會社へ試賣したり
 何れも一個の代金壹厘七毛にして一ヶ村農會の賣上代金は拾七圓五拾壹錢なり
 御津郡宇甘西村農會
 收入金拾七圓五拾壹錢 麥稈製サイダー用爆苞一萬三百個賣上代
 支出金貳圓五拾七錢五厘 全上運賃
 差引金拾四圓九拾參錢五厘
 御津郡宇垣村農會

收入金拾七圓五拾壹錢

麥稈製サイダー用燻苞一萬三百個賣上代

支出金貳圓六錢

全上運賃

差引金拾五圓四拾五錢

右兩村は共に販賣先近く從て取引に便なるのみならず運賃小額にして兩會社共多數の燻苞を使用する見込なれば將來有望なり

久米郡神目村農會は麥酒用燻苞壹萬個を金貳拾四圓にて神戸市島商店に賣りたるに運賃拾壹圓參拾錢を要し差引金拾貳圓七拾錢を所得したり而して全店の批評を聞くに製品不揃にして價格廉なりと而して運賃頗る多額なるは甚不利益なるを以て將來之れが低減の方法をとらざるべからず

妻楊子試賣成績

苦田郡上加茂村農會及勝田郡梶並村農會へ妻楊子販路擴張の爲め試賣を行はしめたり其成績左の如し
苦田郡上加茂村農會
勝田郡上加茂村農會

試賣收支計算

收入

金拾壹圓

是れは黒文字角楊子拾万本賣上代壹千本に付拾壹錢

支出

金七圓貳拾錢

黒文字角楊子拾万本製造費及荷造經費

金貳拾五錢

津山町迄運賃

金八拾錢

拾万本賣捌經費

計八圓貳拾五錢

差引貳圓七拾五錢

利益

勝田郡梶並村農會

試賣收支計算

收入

金八圓五拾錢貳厘

是れは黒文字角楊子七万本賣上代千本に付拾貳錢壹厘四毛

金壹圓八拾五錢

是れは丸楊子三万本賣上代千本に付六錢壹厘七毛

計金拾圓參拾五錢貳厘

支出

金五圓貳拾參錢貳厘

是れは角楊子七萬本(壹箱六百四十本入百九箱)製造及仕上經費

金壹圓拾五錢

是れは丸楊子三萬本(壹箱三千本入り十箱)製造及仕上經費

金貳拾錢

運送費

金壹圓五拾錢

拾萬本賣捌經費

計八圓八錢貳厘

差引貳圓貳拾七錢

利益

試賣狀況

販賣先は何れも縣下岡山市津山町、勝間田町、英田郡倉敷町等の小間物問屋及旅館料理屋等に御賣又は小賣せるに何れも歓迎せり殊に小間物問屋には人氣至て宜敷將來製造方法及販賣方法を一定するに於ては地方副業として有利の事業なるを認む就中丸楊子の販路は角楊子に比し有望なるへし

五、副業視察及調査

副業奨励に伴ひ他地方の副業状態視察及生産品の販路視察及調査の必要あるを以て本會よりは技手長尾百一を神戸市に派し模造バナマ帽子の調査をなさしめ又郡市町村農會に補助金を交付し其主務者をして調査及視察をなさしめたり視察を補助したる郡名、人員、視察事項及視察地は左の如し

副業品販路視察狀況

郡名	視察人員	視察事項	視察地
御津	八	帽子、纏苞	神戸市、淡路地方
赤磐	四	帽子	神戸市
和氣	九	纏苞	淡路地方
上房	三	經木織原料	神戸市、山口縣、島根縣地方
眞庭	二	纏苞	神戸市、淡路地方

視察人員	視察事項	視察地
二 妻楊子	大阪府下	
四 妻楊子、麻裏表、麥稈眞田	大阪府下、本縣下	
二 木炭、製茶	神戸市	
一 纏苞、妻楊子、麥稈眞田、帽子	大阪府下、兵庫縣下、本縣下	
計		

而して之れが視察報告及復命書中重複せるものを避け抜萃せば左の如し

調査項目

模造バナマ帽子輸出狀況

調査地

神戸市

調査員 岡山縣農會技手 長尾百一

調査書

一、模造バナマ帽子本邦一ヶ年産額及生産地左の如し

臺灣	七百二十万个	沖繩	四百三十二万个
岡山	六十五万个	廣島	十五万个
兵庫	十二万个	香川	七万个
三重	七万个	石川	七万个
静岡	三万个	合計	千二百六十八万个

二、輸出先及輸出額

重なる輸出先は米國にして又英國及濠洲にも輸出せり一ヶ年約五百万圓以上なりとす

三、原料の重なる産地及品質

原料紙の産地は高知縣、岡山縣にして之れに次ては九州なりとす品質に於ては高知縣土佐紙株式會社製品にして之れに次くは本縣勝山、津山地方に製出するものを適當とし九州産は品質一定せず上等帽子を製編するには適當ならず

四、神戸市に於ける本縣産製帽の重なる取扱店

全	八幡通り五丁目	神	榮	組
全		信	久	組
全		共同製帽所		
全	浪花町(元居留地)六十四番	信	友	組(直輸出商)
全				九十六番商館
全				百十八番商館
全				二十二番商館

五、取扱店の批評

沖繩縣産を第一とし之れに次くは石川縣にして本縣産は一般に組方堅きに過ぐる爲め全一原料を使用するも形

狀他縣産に比し稍や小に失し頭障り悪しく且つ形狀、一定せざるものあり加之技術充分進歩し居らざる工女多數に製編するが故に品質不揃となり何れの商館にも不向にして多數商館中一部の商館に取扱ふのみなるを以て取扱商館等に於て輸出品に不向なる場合は内地向に利用するが故に價格も亦從て低廉となり聲價を益々失墜するに至れり

六、本縣産帽の價格

平均壹打(拾貳個)に付拾圓乃至拾壹圓にして沖繩縣産は壹打に付平均拾四圓以上なりとす

七、沖繩縣産帽の特色

沖繩縣に於ては副業にあらすして一般に專業とせるが故工女の技術進歩し原料を統一し編方緊括に失せざる様注意せるを以て形狀品質共に一定し加之縣に於て検査を施行し証紙を貼用し合格不合格を區別し以て移出をなせり(検査手数料壹個壹錢を徴收し居れり)

以上の狀況に依り觀察をせば左の如し

- 一、本帽の輸出先たる米國等に於ては現今婦人帽として盛に用ひつゝあるが故に近き將來に於て販路途絶する憂なく副業として獎勵するは適當なりと信す
- 二、今後、製帽するに於ては縣下一般に今一層技術の進歩を計るを必要とす故に沖繩又は神戸方面より相當の教師を聘用し編方を改良すると同時に型を改良し製品を統一するの必要ありと信す
- 三、帽子の原料たる紙質の撰擇に充分の注意を拂ひ縣下一定の許に原料を購入する方法を講ずること肝要なり

りとする

四、現今の取扱方法を改め縣郡町村農會及産業組合と氣脈を通じ縣下一様の許に町村農會又は産業組合に於て原料の仕入れ製帽の販出等幹旋盡力せしめ一面神戸市に於ける確實なる輸出商と特約し出張店を設置せしめ始終輸出状況を調査し敏活に取引を實行せば從來よりは原料を安く供給し得、加之帽子の價格を昂上し從て女工の賃金を増加し益々斯業の發達するは決して至難にあらずと信す

調査項目 模造バナマ帽子、麻裏表及壘苞販路
調査地 神戸及大阪市

調査員 久米郡農會副會長 岩野嘉男

一、模造バナマ帽子販路調査

神戸市三宮町定光商會に就き本品販路の状況を聞くに全商店に於ては目下アザンバ帽子を多く取扱ひ模造バナマ帽子は其賣行悪しく爲に取扱はず故に當市ミカド商會に交渉の上全商會より原料を供給せしめ組子は單に組貨のみ收入せしむることに獎勵せらるゝが最も安全にして確實なり左すれば生産者に損耗を來さしむるの虞なきを以てなりと云ひ全店の意見は参考に資するに止り次て全市三宮町北長狹通に在神戸ミカド商會に至り主人近藤庄衛氏に就き販路の状況を聞くに全氏の意見は帽子の需用は益々旺盛にして沖繩縣及内地にて一ヶ月六千打位は取扱居るも近時吾縣内和氣、赤磐、御津の各方面より送付し來るものは概して粗製にして特に小きもの多く普通人の頭に合はざるもの多く甚だ困難せる旨を述べ久米郡の如き昨年以來始て獎勵を加へ居る所謂新開

地方に於ては町村農會若くは郡農會に於て幹旋をなし一定の手数料を徴し其以外の代金を全部生産者に交付し(中間者の得る利得を總て生産者に交付す)始より粗製濫造の弊に陥らざる様警戒をなし獎勵するに於ては販路に困難を來すが如き憂なくミカド商會は喜んで特約に應じ原料は全商會より送付し製品は郡農會若くは町村農會より送付し其代金の差額を商會より送金することとせば相互の利益甚なからざる旨を述べたり而して全商會の購入する帽子代價は

一等品	壹圓五錢	二等品	九拾五錢	三等品	八拾錢
四等品	六拾五錢	五等品	五拾五錢	六等品	貳拾五錢

右の内原料代約貳拾錢手数料五錢計金貳拾五錢を引去りたる殘金が組賃となる譯合なり

工程は最初二ヶ月位の講習を終へたるものは三日乃至五日間位にては優に上等品を組み上ぐることを得ると云ふ故に婦女子の副業としては最も適當なりと認む

一、麻裏表販路調査

本品の販路に就ては大阪市東區御堂筋北久太郎町大路商店外三四店に就き調査を遂げたるに近時社會一般生活状態の向上せるを以て需用益々旺盛なり故に粗製を戒め製品に注意を加ふるに於ては販路は確實なりと認む從來作州表と稱し大阪へ販賣せる品は他府縣産に比し劣れり右は原料藁の晒し方に注意を欠く爲め藁質脆弱となり隨て製品の耐久力に影響するを以て特に注意するの必要あり目下三重縣伊勢地方の移入品は一足九錢作州地方移入品は五錢五厘位なりと云ふ故に原料製造に注意を加へ尙組上たる麻裏を縫付け成製品として販賣せしむ

れば加工賃を得る点に於て利益あるのみならず亦販賣上に於ても利益ありと認む

仕上に要する経費は組上たる麻一束(長約貳丈四尺)代金拾五錢(壹足分貳錢五厘に當る)尻皮壹足分貳錢乃至參錢縫糸壹足分三厘先皮壹足分七毛鼻緒一足分壹錢五厘計約六錢四厘之に表代五錢五厘を加ふれば壹足代金拾壹錢九厘外に加工賃貳錢六厘を加ふれば壹足代金拾四錢五厘となる

壹足の阪地着賣買代金拾七八錢を普通とす故にに差引參錢乃至四錢の利益あるを認む

一、壘苞販路調査

本品は神戸小野柄町七丁目嶋圓次郎に就き調査せしに其需用頗る多く藁製四合瓶用神戸着百個に付貳拾四五錢にして多は濠洲へ輸出す内地向は麥稈製のものをおむ百個代神戸着拾七八錢なりと云ふ然るに本品は容積の大なるを以て鉄道貨物として輸送するときは運賃多額を要す故に舟楫の便ある土地柄にあらざれば收支相償はざるものと認む故に本事業を奨励せんとするに於ては其生産地が舟楫の便あるを必要と認む

以上調査の事實に依り考ふるときはミカド帽子組み麻裏表の製造は家庭副業として適當なりと認む奨励及販路の方法としては産業組合組織の生産販賣購買合を設置せしめ郡に聯合會を組織し生産に對し嚴密なる検査をなし販賣することとなせば頗る有利の事業なることを認む

調査項目

麻裏表及妻楊子販路

調査地

大阪市及大阪府南河内郡高向村

調査員 勝田郡農會技手 石川 宗平

大阪に於ける麻裏表販路状況

一、大阪地方に於ける麻裏消費高

大阪に於ける麻裏原料問屋に於て取扱へる麻裏表は月平均五十萬足にして其内幾部分を朝鮮、臺灣及滿洲地方へ輸出す

一、大阪地方に於ける麻裏表輸入先

大和、土佐及伊勢地方を主とし作州表は月平均三千足を輸入し居れり

一、價格

大和表 參錢乃至六錢

作州表

六錢乃至八錢

土佐表

六錢五厘乃至拾錢

一、賣行の時期及價格の變動

賣行は四季大差なく價格も殆んど一定のものにして著しき變動なし

一、現今需用供給の狀態

現今に於ては需要供給共に其の度よろしきを得居しりと雖も將來内地に於ては需要増加の傾あり又海外輸出も擴張し得るの見込みあり

一、製品

製品の善惡により價格に高低あるは勿論なれども其の形狀により適否の地方あれば生産者は此の点に於て充分なる研究を要す

一、消費狀況

現今に於ては男履七分女履三分の割合に消費せられ消費者は上等物は仲仕等の労働者に於て又極下等品は銀行及會社等に於て上履として使用せらる

一、津山表（作州表）

作州表を大阪方面に輸出せんとするに當りては價格に於て大和表と競争し得るか若しくは製品を今一層優良ならしめ土佐表を凌駕し得るにあらざれば有望ならざるが如し

麻三ツ組販路調査

麻三ツ組は麻裏表月約五十万疋に要する量を漸す輸入し居れる状態にして三島郡山田村に於て製造盛なり

一、原料及製造法

原料は支那より取寄せたるものを總て大阪市より組賃契約によりて仕入れ水に浸して三ツ組となす

一、販路は總て大阪市場にして此處より更に諸方に輸送せられ主として麻裏製造業者に供給せらるゝが如し

一、取引状態

麻苧其物の價格は之を知り難きも一把最高四拾八錢最低拾七錢なるべく組賃は一把（長さ約五十尺）に付最上參錢最下壹錢位なりとす

麻裏緒販路調査

麻裏緒は備前兒島郡地方より大阪市場に主として輸入し居れり而して其の供給は需要を満足せしむる事能はざるの感あり

大阪市に於ける妻楊子販路調査

一、海外輸出先きの重なる所

ハワイ、印度地方にして丸楊子を輸出す南北亞米利加へは神戸地方より多く丸楊子を輸出し居れり

二、賣れ行の時期

秋期の候賣行尤も多く五六七月に最も少し

三、現今の生産額と需用供給の状態

目今にては生産額の需用額に不足を告ぐる事なきも尙は販路に就きては内地に年々需用者増加の傾あり殊に海外輸出を擴張の望みあり

四、製品

製品の善惡によりて本品は殊に價格に高低あり特に其の結束の良否によりて甚だし

五、製品引受

製品は相當代價によりて何時にても引受をなす但し品物は現今取引せる品より劣らぬ事を必要とす

六、價格及其の變動

大阪着にて一箱（本數三千本）にて拾四錢より貳拾六、七錢尙價格は殆んど一定のものにして著しき變動なきものなり

七、楊子の種類と賣行

各地とも丸楊子の方賣行き好く角楊子は單に大都市に於て需用者あるのみなり

八、現今製品地

大阪府下、三重縣、和歌山縣等にして中にも大阪府下南河内郡の製品最も優良なり

九、大阪市内各妻楊子問屋の一ヶ年取扱金高の見積約拾萬圓

此内參四萬圓を海外輸出となす

南河内郡高向村に於ける妻楊子生産狀況

一、沿革

明治十六年の頃垣内清太郎氏大阪市東區平野町青川菜なるものに送附するに妻楊子の原料たる宇津木を以てし之が製造に關し研究する所ありしか交通不便にして輸送に要する費用甚だ多く寧ろ村内に於て製造するを以て得策なるを發見し遂に職工として青川某及小源太某の二名を雇ひ初めて妻楊子の製造に着手せり

當地は當時農家の副業としては單に白木綿織の一つありしのみなりしか妻楊子の製造は織布に比すれば作業簡易にして資本を要する事少なきを以て俄然ととして之れが製造家増加し數年を出てすして殆んど専業の状態を呈するに至れり而も其の販賣に關し適當の機關なかりし爲め一時頓挫の己むを得ざるに至りしと雖も二十三年頃大阪市東區久寶寺町大島兼助出張店及妻楊子三盛會社の設置せらるゝに及び漸時好況に向ひ遂には全村に普及して好副業となるに至れり

斯の如く需用甚だ多大にして寧ろ供給之れに伴はざるの觀ありし爲め勢ひ粗製濫造に傾き商況の不振となり輸出

の頓挫となり一時産額の減少著しきものありしを以て明治卅九年當業者相計りて天野、加賀田及高向の三ヶ村を區域とせる妻楊子販賣組合を組織せしか事業意の如くならず遂に之れが解散するに至りしと雖も幸に斯業に大なる打撃を與ふる事なくして年次發展の域に向ひつゝあり

二、現況

農 家 戸 數	從 業 戸 數	農 家 人 口	從 業 人 口
四五〇	三〇〇	一、四七〇	九三〇
年生産額二〇〇、〇〇〇圓			

三、原料仕入先

原料は多少村内に於ける産出ありしかと現今に於ては其生産皆無にして主として和歌山縣、三重縣及四國地方より購入す

四、製造方法

一、丸楊子

A 原料の採收 (宇津木)

原料採取の季は一定し居らずと雖も十二月頃採收せるもの最良好なり但し採取後長日月を経過して製造に着手する時は作業困難にして工程を減す之れを採取するに當りては末口一寸内外の者を撰み長さ三尺に切斷す

B 荒割

採取せる原料を厚さ八厘に板割をなす此際厚さ一定せざる時は製品の多少及良否に影響するものたるや多大なり

C、肥後扱

荒割せる原料を肥後扱器にて圓くし其の太さを一定にす此の際注意すべきは機械の加減にあり

D、漂 白

硫黄を以て約五分間漂白す

肥後扱せる原料七拾貫に對し硫黄二百匁を要す

E、切 斷

漂白せる原料を長さ一寸八分に切斷す長さ一定なるを要する爲一定程度に目盛せる押切を使用

F、先 付

切斷せる原料を機械により先端を尖らしむ

G、荷 造

五百本を一括して丸束となし又は五十本の小束となし之れを把合せて一束となす而して紙箱に入れ後木製の箱入となし輸出す

二、黒文字樹楊子

原料たる黒文字樹を皮を剥くことなく其のまゝ荒割をなし更に之れを一面には皮を存する様に細かに割り兩

端を銚にかけ細き四角なるものとす之を丸楊子と同様の長さに切り先端を尖らし五百本を一括して丸束となす

五、販 路

製品は内地向としては多くは東京及大阪の雜貨問屋に海外輸出向としては神戸横濱等の仲買人に送るを常とし輸出先は南北兩亞米利加を以て重なるものと漸次各國に輸出の見込あり

六、取引状態

仲買人ありて日々各製造家に就き其の製品の良否に依り上下各十把に對する代金をの定め現金にて之を買求め以て販賣業者に賣込むものとす
而して販賣業者は仲買人より買取りたる製品を加工し内地向は紙箱に輸出向は麥藁箱に入れて市場に送附するを常とす之を要するに本品は販路廣く需用多きを以て仲買人は各製品の買集めに競争するの有様なるを以て取引状態甚だ便利なり

七、高向村に於ける副業状態

本 業	區 分 種 別 割 合	粗 收 入	純 收 入	
				農 業 14.5

副業		業	
小計	合計	小計	合計
妻	100,000	茶	150,000
薪	100,000	木	17,500
炭	11,700	橘	7,620
製	1,200	蜜	1,080
苗	2,000	子	1,200
柑	3,000	計	1,200
袋	3,000	計	1,200
小計	106,900	合計	167,400
合計	106,900	合計	167,400

一〇六

八、丸楊子製品一日分見積

荒木原料(宇津木)一日の使用高七十貫、壹貫目七錢之は大阪府下製品業者の買入價格此代金參圓五拾錢

工賃

- 一、割賃(右の原料を荒割するもの)壹貫目壹錢五厘、此賃額壹圓五錢
- 一、機械掛肥後引女工三人壹人貳拾錢、此賃額六拾錢
- 一、機械見廻り人壹人職人一人、此賃額壹圓五拾錢
- 一、楊子の丈け一寸八分の棒切とする切賃七十貫の荒木より得たる貫數十二貫の切賃金四拾八錢
- 一、先附賃荒木七十貫より仕上りたるもの九貫五百匁一貫貳拾參錢、此賃額貳圓貳拾錢
- 一、先附機械直し賃一日金五拾錢

原料工賃合計九圓參拾參錢、一日分製品高(原料七十貫に對するもの)

- 一、本數四十萬本(一萬本二百二十匁の品を仕上げたるもの) 一萬本の代參拾五錢(大阪専門問屋の引受呉れる値段) 此代價拾四圓

右代價より原料代及工賃を支拂ひ差引一日分の利益

一金四圓五拾七錢

此内尙は一日中の失費五拾七錢を引く(損料及油代等)

一、純益金四圓

製品を大阪の専門の問屋へ送らす該地にて小束となし小箱につめ地方にて販賣の見積

- 一、一箱小束百把本數三千本、此代拾錢五厘

- 一、紙箱代一個、此代壹錢五厘

- 一、束ね賃一箱分、金四錢以下壹錢六厘

- 一箱分計金拾七錢

是れを地方の小問物問屋へ卸賣額拾八錢より貳拾貳錢

直接小賣をせる小問物屋へは貳拾五錢卸値(小束一束貳厘五毛)

備考 丸楊子を製造するに要する機械完全なるもの一組の價格は五百圓なり

調査項目

壘苞 販路

調査地

兵庫縣津名部飯屋町及神戸市

調査員 眞庭郡久世町農會幹事 谷岡銀太郎

一、種類

種類は數種に分ると雖も其主なるものは、麥酒用大小、三鞭用大小、日本酒用大中小、鑛泉用、サイダ用等にして製品は總て麥稈及稻藁製の二大別に區分せらる現今最も需用の多きは、四合入纏苞とす故に之を標準として調査を左に掲ぐ

二、原料

麥稈（小麥を除く）百個の原料荒稈二貫乃至二貫三、四百目を要す

(1)、價格壹錢五厘

藁、百個の原料三貫乃至三貫四百目を要す

(2)、價格參錢五厘

糸、唐糸二十手（六子合せのもの）百個に付一かせ半を要す

(3)、價格四錢

三、製造器具

(1)、編台一個價格拾五錢

農家在來使用しつゝある菰編器に類する最小形のものにして長一尺四五寸もの（松若は杉板にて作製したる

もの）

(2)、仕上器一個價格拾錢

組様のものにして長一尺六寸巾五、六寸位のもの（松板にて作製のもの）

(3)、押切一個價格五拾錢

普通農家に使用する物と同種類にして最も小形なり（金屬製）

(4)、荷造箱一個價格貳拾錢

木製にして石炭箱の稍大なるもの

四、製造方法

編方は普通農家の菰編と大差なく只其原料を半より折曲け二回目編より初回編と合せて共に編込むものにして極めて簡單なり故に一、二時間位練習すれば老人婦女子と雖も容易に製造することを得因て熟練するに従て良品を多數製すること疑なし

仕上の方法は其先端を結び切放つものと亦折曲け中に入るとありて其荷造方に就ては五十個を一束とす何れも稍、練習を要するも亦難事にあらざるものと認む仕上組合は製造家の多寡により一大字若は二大字に一、二ヶ所を設置すれば可ならん

五、工程

麥稈四合入纏苞一日、百五十個乃至二百個（一纏苞を二ヶ所編の分）

藁、全上

而して之か仕上一日、千五百個乃至二千個（先端を一ヶ所括り、切放つ分）

六、價格

近時運搬賃騰貴したるに原價の之に伴はず爲に價格に影響を及し安値となるは不得止も、四合入罎苞百個に付神戸市三の宮驛着迄（取引所のある處）の相場を掲ぐれば如左

麥稈製百個に付金貳拾貳錢 之は罎苞販賣者島圓治郎に就き取調たるもの

糞製 全 金貳拾五錢 全 上

七、運搬賃

運搬方法に就ては久世町より久米郡福渡驛積とすれば（久世、福渡間、川船送）津山驛積に對し一錢の利益なるも（津山、久世間、荷車送）川船扱にするときは水の大小によりて着荷の時間に於て一定を期すること不能の欠点ありて久世町よりの運搬は總て陸路に據るを可とす亦海路運送に據るも大差なし（之は貨車一台借り切の計算）

(1)、罎苞運搬賃百個に付約拾壹錢 但し 久世、福渡間川船により福渡驛より一貨車借切り 菰、梱包、百十個（罎苞三万个積とし）の計算

(2)、全 上 約拾貳錢 但し 久世、津山間荷車により以下全上

八、販路

内地用としては麥酒、洋酒、瓶詰、日本酒、鑛泉用等にして其需要最も多し輸出品としては糞製品に限り居るも販賣業者の語る處に據れば將來は小麥稈製をも併て輸出するの目的なりと本品は品質、耐久力に於て糞以上

の製品なること疑なし其輸出先は濠洲を主とするも近時米國より亦續々注文あるも現今製品少額にして要求を充す能ざるは遺憾とする處なるも暫時其求に應ずるの計畫にして前途有望なり

九、事業開始に就ての注意

原料豊富なるも其製作品の安値なるを以て可成一ヶ町村若は數ヶ町村に亘り就業せしむる等の大仕掛なるを可とす故に組合等を設置するは最も必要を認む

十、農家副業に關する感想

近來生活の昂騰するに従ひ之に伴ふ經費の不足を補はんが爲め副業の必要を感じ農家副業として罎苞製造を計畫し昨春之か講習を執行し今亦主産地なる淡路島を實視したり然れども這回の視察は僅に一局部にして全島を窺知すること能はざるを遺憾とするも今、同島飯屋町並に其附近の状態に付き目撃したる概要を記さんに全島の大部は山岳の起臥する處にして土地粗悪耕地は僅に海岸に点在するのみにして爲に諸作物の如き生育至て不良なるを認む、殊に全島の住民は主に漁民にして農業に従事する者尠く之れ耕地狭少にして耕耘に乏く爲に婦女子の生業上、副業の盛なるは亦故なきに非ざるを認む今全島に於ける副業の主なるものは隣寸及竹杖、罎苞等にして此等副業に従事するものは重に婦女子にして農業者の従事するもの全職工の三分乃至四分、其他雜業者の従事するもの六分乃至七分位なり

翻て久世町の状態を顧れば豊沃なる耕地は五穀を穰らめ蠶業を營まじめ、森林は繁茂して良材を生じ尙且農家の耕耘に餘裕あり然れども地理不便にして諸貨物の運輸上多大の費用を要し爲に利益薄く依て状態の異なる

他地方の副業を取りて以て直ちに奨励を加ふるが如きは大に熟考を要すべきこと信す況んや壘産製造の如き原料豊富なるも雖も安價にして容積の大なるが故に今後價格の騰貴を見ざるに於ては到底有利なる副業として經營すること困難なるを認む

調査項目 模造パナマ帽子販路
調査地 神戸市

調査員

- 赤磐郡農會技手 大林周吾
- 全 郡太田村 片山虎男
- 全 郡高陽村 平島義男

一、沿革

模造パナマ帽子はパナマ帽子より起りたるものにして今を去る二十有餘年前パナマの原料高價にして供給上不利益なるにより之れが代用として台灣の野生林投を漂白使用せしに品質パナマに類似し原料も亦安價に供給し得らるゝを以て該地に於て盛んに製造中神戸市近藤某なるもの明治三十三年初めて内地へ輸入し本縣和氣郡にて製造せしめたるに優良なるものを産出するに至りたるを以てミカド帽子商會と稱し商店を開業せしよりミカド帽子と稱せり

其后内地は素より外國に於て模造パナマ帽子を用ゆるもの増加し且世の進運と共に紙製原料を使用するに至れり

今尙地方によりてはミカド帽子と稱すれども帽子の本來より云へば模造パナマと云ふを穩當なる様認めらるゝなり

一、原料

原料に種類多々あり其大部分は左の三種にて津山、名古屋、土佐等に於て製造せしもの多し

水製	下等品	帽子一個代金貳拾錢内外
敷島	中等品	金四拾錢内外
スロン	上等品	金五拾錢内外

尙スロンに太細の二種ありて名古屋横濱等に於て多く製造せるも取引僅少なる由

近來紙製原料需用増加の爲め不正品續出し製帽后一度雨露に當る時は直ちに破損變色するものあり今沖繩縣物産試験場に於て試験せし結果を聞くに試験種類三十一種中防水完全なるもの僅かに七種に過ぎざる由故に原料購入に就ては一層注意を拂はさるべからざるなり

一、販路

全國製品の八割は神戸を経て海外へ輸出し之れが取扱店はブローカー主義のもの三十有餘直輪店九十六番、百十八番、二十二番、共三商會、信友組等にて一ヶ年の輸出價額六百五拾萬圓内外なり其最も多きは臺灣、沖繩、岡山、兵庫、廣島縣にして之れに次くものは香川、石川、三重、静岡、鹿兒島縣なり而して之れが輸出先きは米國四百五拾萬圓、ロンドン百五拾萬圓其他各國百萬圓なるも目下は各商店とも閑散を極め取引中止の狀況なり

今其原因を聞くに第一ロンドンに於て輸入禁止の發令ありたる結果と近來中國産品粗製濫造の爲め注文減少し従て生産過剰を來したるにより現今内地産及沖繩等の製品にして停滞せしもの四萬打以上を算し前年迄は毎年七月より三月迄に翌年需用の豫定を注文取引し一月より三月迄三ヶ月間に八拾萬圓位の注文ありたるに本年は一月より三月迄に四拾萬圓位の注文にして毫も活氣を呈せず混沌たる狀況なり

一、價格

價格は一時一打九拾圓内外なりしに供給超過と粗製濫造のため目下拾圓内外に下落せり而して本縣産と沖繩の産品とを比較するに沖繩品は平均一打拾貳圓五拾錢内外なるに本縣産は七圓内外にて相違五圓以上あるは全く本縣に不良品多き爲めなりと信す

一、現 狀

外國人の嗜好と價格とに比し最も多數取引行はるゝものは第一沖繩、台灣等にして其形に於て編方に於て中國産の遠く及ぶ所にあらざるなり

沖繩産は第一位を占め形狀編方共優美に又寸法の如きは數千打あるも一定の型木に入れ機械によつて製造したるものゝ如く品質も亦佳良にして製品統一せる爲め外人の希望に依り一定の數量を直ちに供給する事を得るなり
台灣産は下等品に屬し之に不良の原料を供給するに由り中國産より下位なるも形狀寸法等の如きは一定にして幾萬個の注文あるも之れが需要に應じ且價格低廉なるを以て下等品として多數の販路を有せり
中國産は如何之れ本縣當業者に於て常に聞かんとする所なり

抑本縣は模造バナマ帽子製造の元祖にして大正五年中の産額八拾萬圓以上に達し沖繩、台灣を除く外全國中第一位を占め益々改良發達を期し本縣の福利を増進せしめざるべからざるに神戸港に於ける輸出品中最下位に屬し茲數年前より開始せし石川縣、三重、香川、鹿兒島等諸縣の製品に比し遜色あるは洵に遺憾の極まりなり今其欠点を挙げ當業者の資料に供せん

一、外國への取引は内地に於て賣買取引を爲すが如き小取引にあらず先方の望みに適したるものは一萬打若くは五萬打と云へる多數の物品を一時に注文するものなれば内地より見本として輸出するものも隨て多く其種類三十種以上にして一種に於て少なくも一グロス(百四十四個)なり沖繩産のものは寸法統一にして數百個、數千個を積重ねたると雖も耳揃ひ能く凹凸なきも本縣産に至りては全一寸法のものなりと云ふも耳揃ひ悪しく僅かに十數個を積み重ねたるときは恰も鋸の齒の如く一定せざる爲め多數の注文に應ずる事能はざるなり故に全一品種のものも多數産出する事に注意を要するなり

二、總て帽子は天、胴、縁等全一の編み方なるに本縣産に限り天と縁とは全一なるも胴に至りては粗製のもの多し之れ胴は『リボン』を着け隠るゝ所なるを以て粗製するも敢て差支なきものならんとの憶測より出たるものとは推思せらるゝもバナマ帽子は『リボン』鬚皮等を附着仕上げたるものを輸出するものにあらず生産者より購入したるものを再三精撰し寸法は勿論編み方、形狀等一定のものを取揃へ其儘荷造り輸出し先方に於て之れに裝飾を加ふるものなるにより賣買取引の際不良と認めらるゝものは取引を拒絶せられ信用を害し爾后取引を爲さざるに至り生産者の不利益を來すものなるにより之れ等粗製のケ所なく編成する事最も必要なり

三、外國向帽子は最も優美なるを要するに本縣製産品は種やし目内部に露出し甚だ見苦しきもの多數あり又種やし不足の足らざるものあり今其原因を調査するに元來本縣には林投と云へる高價の原料を使用せし當時可成原料を節約せし習慣を墨守し今に原料を節約する弊あり則ち沖繩に於て百本を使用するものに對し七十本内外を用ゆ爲めに編み目大きく軟弱にして使用に耐ゆる事能はざるものあり故に原料を充分に用ひ其種やし目を露出せざる様注意を要するなり

四、帽子に數十種ありて其内婦人用、男子用、子供用、大人用等の別あり婦人用は婦人に男子用は男子に適するを必要とせり

然るに本縣産には天と胴とは男子形に造り縁のみ婦人形とし又之れに反し天と胴とを婦人形とし縁を男子形に爲す等不正品あり

五、帽子は殆んど裝飾品なれば汚損、變色等のものは販賣先なき事は一般當業者の熟知する所なるに職工(編子)の取扱不注意の爲め点々汚損を生じ甚しきに至りては全部變色せしもの等多數あり之れ最も注意を要する点なりとす

以上の如き欠点多き本縣製産品は漸次に販路を失ひ今や多數停滯品中其八割方を有し前途無望の至りなりと言はざるべからざるも之れが改良の途を講じ全一品種にして優良なるものを産出するに至れば前途益々有望にして本縣の福利を増進する事期して疑はざる所なりとす今其方法として最も便益なりと認むる施設事業を擧ぐれば左の如し

- 一、製造者(仲買人取扱者等の如きもの)にして同業組合を組織せしめ生産品に對し検査を行ふは勿論各職工(編子)に就き改良の要点をを説示し以て全一品種にして優良なるものを産出せしむる事に努力を要す
- 二、職工争奪地方は不良品多し故に同業組合を設置したる上は此弊害を矯正して可成優秀なる職工を養成する事
- 三、同業組合の幹旋により善良なる原料を安價に購入するは勿論生産品を高價に販賣する方法を講ずる事
- 四、沖繩の如き優良品産出地より講師を招き縣下樞要地に於て講習を行ひ形狀編方等を改良する事
- 一、將來の觀察

以上調査の要点を綜合して斯業將來の觀察を下せば原料に於て元バナマが林投に紙製に變更せし如く世の進歩と共に色々變化を來し又形狀に於ても時々變化を來す事あるも林投、紙製原料の如く純白のものにして網代に編みたるものは永久需用あるは勿論爾後年々發展するものと認めらる

附言

兵庫縣、沖繩縣等に於て改良の目的を以て製造者(編子を除く)を以て同業組合を設け活動中なり

調査項目

模造バナマ帽子及纈苞販路

調査地

神戸市

調査員

- 御津郡 牧山村 農會長 近 常 佐 市
- 全 郡 宇垣村 農會議員 河田長次郎
- 全 郡 宇甘東村 農會副會長 海野鉄太郎

全 郡宇甘西村農會長 河原彌次郎
農會員 江田新三郎

模造バナマ帽子は原料は他より供給を受くるも之を製編するには器具機械を要せざる手工にして僅か十数日の練習にて容易に行ふことを得而も一ヶ年を通して事業に間断なければ婦女子の副業としては絶好のものなり又竈芭は自作の生産にして其廢物を利用し得且つ製造簡單なれば是又農村の副業としては好適のものなりと認め模造バナマ帽子は己に開始し竈芭も亦着手せんとせり然れども如何に事業容易なりと雖も其製品精なりと雖も販路の如何に依りては生産の目的を達すること能はず收支償はざることあれば經濟的ならざるべからざる副業の趣旨に反するを以て茲に事業始開と同時に之か調査講究を爲し誤なからんことを期せり

模造バナマ帽子

是は神戸市北長狹通り三丁目ミカド帽子商會近藤庄衛に就き調査を爲したり同商會の經營になる夏帽子は種々の名稱あれども原料は悉皆紙然なり同商會の取扱へる壹ヶ月の數約五萬個にして其八割乃至八割五分を輸出し居り同商會は明治三十三年の創立にして爾來盛衰浮沈はあれ共遂に今日の盛域に達したるものなり其經驗に依れば將來此種の帽子は需用益々増加すべく且輸出の杜絶する等の憂なかるべし現に神戸港より大正二年に輸出したる數十八萬三千六百餘打大正三年は二十八萬九千餘打大正四年は時局の影響を蒙りたるも尙二十四萬一千餘打を輸出し居れば其進歩の趨勢知るべきなり殊に内地の需用目下生産高に對する一割五分乃至二割と云へば將來需用の増加は豫知するに難からず何れより見るも副業としては近き將來は先づ安全なる事業と云ふべきなり

罎 苞

是は輸出商淡路國津名郡假屋の島圓次郎に就き調査したり種類には麥酒用、大小三鞭角罎用、大小日本酒用、貳合、五合、壹升入用、鍾泉類等内地用にて十餘種輸出用に至りては二十餘種あり而して内地用は全部麥稈外國向は稻藁及び麥稈とす

右の内最も需用多きは麥稈及藁の四合罎苞とす今此四合罎苞に付調査するに

一、製 法

編み方は普通の菰編と大差なく習熟せしものにつき一時間も練習せば充分なり老人婦女童幼と雖も能く容易に之を製す

一、工 程

麥 稈 一 日 百五十個乃至二百個(二ヶ所編み)

稻 藁 一 日 百個乃至百五十個(二ヶ所編み)

仕揚工程一日八百個より多きは三千個を超すと云ふ

一、價 格

(神戸相場) 麥 稈 百箇に付 十七 錢

(全) 藁 全 二十一 錢

以上は神戸着の相場なるを以て生産者の手を離るゝ二ヶ所編み捨ての相場は之が仕上げ費用と神戸までの運賃と

を扣除したるものならざるべからず即ち假に中國線金川驛よりの運賃を算すれば

七噸車 十三圓六十錢 百箇に付き三錢八厘九毛之に仕上賃二錢糸代壹錢五厘を要すとせば農家の手を離るゝ相場は全く九錢乃至十錢となる(麥稈)

これは瀛車積としての算出なるを以て若し船舶送としなば或は尙高價に販賣し得るならん

一、販路

内地の需用各種類を合すれば約一億を要す淡路全島より七千萬個を生産するも尙三千万個を他より仰がざるべからず況や限なき輸出のあるあり販路の廣き知るべきなり

右の如く内地輸出需要豊かにして而も老人婦女子と雖も容易に之を製し得るものなれば農村の副業としては最も有利なるものと信じ各村共同新麥稈より着手せんとす

調査項目 經木織販路及經木織原料

調査地 神戸市、山口縣

調査員 上房郡農會 幹事 莊 直 温

一、販路調査

一、輸出 先 英、佛、米

一、入註時期 毎年七八月より翌年三月頃の間にして四月頃より六月迄は入註のなき時なり

一、現今の價格

目下は丁度註文のなき端界なり

目下一等もの壹圓九錢内外二等品は一等品の一割下にて註文のなき爲め手持品として各商店とも買入をなし居れり

一、價格の前途

現今の價格は最低相場にして七八月頃よりは漸次回復するものと唱居れり

一、事業の前途

將來頗る有望の輸出品にして相場の時々變動あるも決して悲觀すべきものにあらざるとは各商店同一の意見なり

右の如き現今の狀況にして目下及將來とも販路の憂はなきものと認められるも神戸市村上商店に於る山口縣の製品を一見したるに原料の善良なると技術上の進歩は遙に宇都宮に優れり山口縣の製産地を視察し原料の産地たる石州方面の調査は最も必要と認めたり(山口縣の製品は石州産の原料を使用し居れり)

一、原料調査

山口縣徳山町に至り原料の調査をなせしに同縣下織物の原料は同縣小郡驛及徳山町より供給し原木は長防の兩國及石州の一部より取寄之を右両所にて原料に仕立て多年の經驗により大工の原木選擇削り方の熟練なるにより完全なる原料を製造し居れり從來「イモ木」を使用せしに外國にて加工したるものは變色せし趣きを以て神戸より白楊の原料にあらざれば買入れさるとの事なるに依り目下原料の製造を中止せし爲め柳井津及大島郡等の織

物業も原料不足の爲め殆んど全部休業せり其は「イモ木」なれば目下三平原料非常なる騰貴なるを以て長きものは織物原料に削り短き木は三平用原料に用ゆるの便あるも白楊は三平に使用し難し寧ろ削り易き三平原料を製造する方削り職工の利益なるにより織物用の原料製造の職工欠乏し終に休業の止むなきに至れりといふ如此現状にては到底同地方にて原料の供給は見込無きにより柳井津に至り一二の機業者に就き織方の工合及製品を一見せしに職工は左程熟練といふに足らず之に比すれば當地方のもの敢て遜色なきも只原料の削り方完全なるを以て従て製品も宇都宮以上のものと認めらる同地より横川驛に到り豫て經木原料製造及賣買を専門として營業せる平松茂助氏に就き調査上種々聞合たるに徳山町と同じく原木は廣島、山口、島根縣下には豊富ならざるも産せるを以て目下三平經木非常なる騰貴にて職工何れも之に従事せり織物原料を削る職工缺乏の爲め同人の手に於ては目下供給不可能なりとの事なりし尙島根縣下原産地及製造家を聞合せたるに同縣下に小製造家は有れど逆も他縣へ供給する程の製造家無しとの事なるに依り爰に調査の方面を變更し備後東城町に有名なる經木原料製造家白根茂一郎なるもの目下神戸市に出張營業せることを聞き神戸市に至り同人に面會示談せるに矢張三平用の原料騰貴にて職工欠乏せるも同人は製造工場を所々に設置し居り且「イモ木」白楊共原木の山林を數ヶ所に所有せるを以て可成職工の都合を付け白楊を削り供給すべしと同人の約諾を得たり又同地に於て經木製造業浦田百太郎に就き原料の供給方法を示談せしに同人は目下紀州に製造工場を設置しあるにより是亦當地方の需用丈は供給すべしとの承諾を得歸郷東城及神戸より爾今大部分の原料供給を受け不足は最寄にて融通使用の計畫なり

調査項目
調査地

經木織原料
島根縣松江市

調査員 上房郡津川村 徳田慶之助

一、島根縣松江市、雜賀小路横見文太郎及同市中路、瀧秋太郎に就き原料製造状況を調査し續て同縣大原郡大東村大字原本(松江市より約七里を隔りたる山間部)地方に至り原料伐採の實況を調査せり

一、原料は先年、三平經木真田製造の盛なりし當時濫伐し殆んど其跡を斷つゝの状況なりしが其後經木真田製造の衰退せしに依り現今に至りては稍や原料の供給充分なりしも經木織の原料たる長四尺以上無節の純良なる木質材は容易に得ること困難の狀態にありしと雖も少量の原料を得るには至難にあらざるなり

二、以上の狀況より推斷せば多數の經木織原料を得ることは至難なるが故に他に適當の地方を選定するの必要なるを認む

調査項目
調査地

麥稈真田紐
岡山縣淺口郡三和村附近

調査員 久米郡稻岡南村農會 佐藤八十七
全 郡倭文中村農會 田村乙四郎
全 郡吉岡村農會 杉本金藏
全 郡大倭村農會 今井 貢

一、麥稈真田

全 郡 佐 良 山 村 農 會 和 田 慶 太 郎

調査の場所 浅口郡三和村麥稈真田同業組合及全上附近

麥稈真田は最近一ヶ年間の海外輸出額壹千万反に及び其の内約六割を本縣に於て生産し數年來海外不況にあり斯業にも打撃を蒙り價格低落を來したるも本縣に於ける製品の販路杜絶せし事なく依然として本縣南部に於ける重要物産として盛に生産しつつあり本縣に於ける主産地は浅口、小田の二郡にして殊に同業組合附近に於ては毎戸僅少の餘暇と雖も手を空しくするものなく何れも麥稈を手にしつつあり學校兒童の如きは歸宅後直ちに真田組に従事するを習慣とし夜業に掛け一反位組終るもの珍らしからずと云ふ全村竹尋常高等小學校に於ける兒童貯金を調査せしに貯金兒童二百二十名にして貯金總額壹千貳百五拾參圓五拾錢にして一人貯金額最高五拾五圓五拾四錢なりと云ふ然して該貯金たるや殆んど真田組にありて收得せるものなれば斯業に熱心なること驚くべし目下製造せられつゝある真田の種類は三十八種類に及び夫々特徴を備へて海外輸出及内地費消に供しつつありと雖も需用最も多く組方簡易にして技術の修得容易本郡に於て副業として獎勵すべきは細合三平及び太丸四菱の二種類とす今明治四十一年以降本縣に於ける仲買商より神戸輸出商に販賣せる價格を示せば左記の通り

真田の種類	四十一年		四十二年		四十三年		四十四年		大正元年		大正二年		大正三年	
	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期	前期	後期
細合三平	一八、〇	一九、〇	一九、〇	二〇、〇	一九、〇	一九、〇	二一、五	二一、五	一九、〇	一九、五	一八、五	一八、五	一七、五	一七、五
太丸四菱	二四、五	二五、〇	二六、五	二七、五	二七、五	二七、五	三〇、五	三〇、五	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二八、〇	二六、〇	二六、〇

原料は稈麥コピンカタギ種の麥稈にして普通の收穫時期より約十日間早く未熟のものを刈取り穂先を扱ぎ落し直ちに漂白室に入れ硫黄にて燻蒸し漂白せる後取出して日乾す此の場合雨に逢ひたるものは使用に耐えず無効に歸す而して真田に用ゆる部分は先端より二節を用ふるものにして先端の節を先節と云ひ次を二節と稱す日乾終りたる時は此の部分の破裂損傷せざる様一本づつ鋭利なるナイフを以て各節とも両端を切除し麥稈選別器に入れて細太を選別し麥稈割器にて一定の大きさに割り更にネジワクに掛け扁平となし直ちに真田組みに用ふ

前記の通り麥は未熟のものを收穫するか故に約二割乃至三割の減收を普通とす而して麥二石の收穫に對し粗原料五十貫を得之れより二十貫の精選原料を得べし

内十貫目 先節價格參圓五拾錢一貫目參拾五錢細合三平組に用ふ

十貫目 二節價格四圓五拾錢一貫目四拾五錢太丸四菱に用ふ

販賣狀況

地方に於ける製品を販賣するには仲買人に依るものと産業組合に依るものとの二種類あり

仲買人は毎日生産者を巡り真田の品質により相當の價格を仕拂ひて買ひ取り一反に付壹錢乃至五厘の口錢を以て問屋に販賣す

産業組合に依るものは生産者より製品を組合に持參し組合は相當代價を支拂ひて買取り僅少の手數料を以て問屋に販賣す

製品の等級及目下の價格は左記の通り

太丸四菱 普通品 八錢
優等品 拾貳錢
特等品 拾四錢

細合三平 普通品 拾錢
優等品 拾參錢
特等品 拾七錢

前記の通り三等に區別せられ價格を異にするも僅少の注意によりて特等品を得る事難からざるべし
一、一日の効程

太丸四菱 一反乃至二反(一反は五十四ヤル一ヤルは三尺一分七厘五毛即ち約百六十三尺)

細合三平 二反乃至三反

收支計算

細合三平 一反に付原料參錢五厘 全上原料割賃參錢五厘 支出合計七錢

太丸四菱 一反に付原料參錢 全上原料割賃貳錢五厘

支出合計 五錢五厘

前記の支出により収益計算左記の通り

真田種類	普通品一反の利益	優等品一反の利益	特等品一反の利益
細合三平	三、〇	六、〇	一〇、〇
太丸四菱	二、五	六、五	八、五

以上支出の内原料のみを購入して一切作業をなす時は割賃は自家に於て收得する事を得べし

一、器具

麥稈選別器 一ケに付約三拾錢 毎戸若しくは組合にて三ケを備ふるを要す

全上割器 一ケに付 拾八錢 毎戸三ケを備ふるを要す

ネヂワタ 一ケに付約五拾錢 毎戸一ケにて可なり但し各戸にて製造するを可とす

ローラー 一ケに付 五圓 組合にて一ケを備ふる事

同業組合との關係

真田製造を開始せんとするには先づ岡山縣真田全業組合へ加入し左記の通り加入其他の費用を要す

一、全業組合加入料 五拾錢 毎戸一名づゝ加入の際支拂ふ

一、組合員証名札代 五錢 毎戸一名づゝ加入の際支拂ふ

一、登録料 拾錢 全上

一、証紙 料貳厘五毛 真田一反ニ付一枚但し之は仲買人又は問屋にて支拂ふものとす

今本郡に於て副業として之れか製造を奨励せんとするに當りては原料供給斡旋方を全業組合に依頼して原料の供給を求むるの必要あり而して最初は割りたるものを購入して製造し暫く經驗を経たる後は毎戸に於て割作業をなし以て自家の利益を多からしむるを得策とす然れども將來斯業の發展を期するには宜敷原料も自家に於て生産し自給の道を樹てざるべからず

原料取扱製品販賣の機關に就ては最も慎重なる考慮を要すると雖も最初に於ては産業組合若くは村農會に於て原料の取扱をなし尙製品販賣の取繼ぎをなさしめ更に郡内一名若しくは數名の世話人を設け村農會若くは産業組合へ集まりたる製品を取繼めしめ神戸地方の商人へ販賣せしむる方法を以て最も簡單にし有効なりと思考す
運賃は本郡より神戸地方迄一反に付き壹厘乃至貳厘位を要す

調査項目 木炭販路
調査地 神戸市

調査員 英田郡農會幹事 小坂田 沼平

神戸薪炭商同業組合事務所に至り理事者に就き木炭の状況を聞くに近年一般に各府縣生産地に於て品質、容量、俵裝等に注意し數年以前の如き粗製濫造の弊は漸次改良されつゝある現象にして是れ全く近來各地同業組合の設立或は需要地問屋の奮勵に依り直接生産者へ改良を促進すると相待て改良進歩の實績を挙げつゝある次第なりと思惟するも尙未だ改良を要する点多々あり必要上神戸薪炭商同業組合は定款を改正し本年度より當市移入の木炭に就ては検査を行ひ等級を付することに議決し目下定款變更認可申請中にして不日認可を得之れが實行に着手せしが自然各生産地に於て品質の統一容量及俵裝の一定を期することとなるなり斯くして漸次改良を促進する方針なるを以て生産地は大に一層の奮勵努力を以て品質の統一及容量、俵裝の一定を切に希望ありたり
大正五年中に於ける神戸市木炭消費高約二百萬俵にして其價格百五拾萬圓中其主なる生産地は左表の通とす

産地	地	數	量	價	格	平均一俵價格
播磨	中磨		四五七、六〇〇		二五一、六八〇	五五
備前	作幡		五四、八〇〇		四九、三二〇	九〇
美作	幡作		一四九、六〇〇		一二七、一六〇	八五
因幡	著幡		三四、八〇〇		二五、〇五六	七二
伯耆	馬著		五五、四〇〇		四八、一九八	八六
但馬	伊馬		二一五、四〇〇		一五五、〇八八	七二
紀伊	日向		三二四、六〇〇		二四六、六九六	七六
日向	國向		二七三、六〇〇		二三八、〇三三	八七
四國			一一八、七二〇		八三、一〇四	七〇

右の外神戸市内問屋にして生産地より直接他府縣へ移送販賣のもの多數あるも調査したるものなし

次に神戸に於ける木炭商として第一流の間屋秋守商店を訪ひ岡山縣の木炭取引状況並に改良を要すべき点を聞くに全商店は従來岡山縣と密接の關係を有し最も多數の取引を爲し事情に精通せり而して改良の理想は樹齡十四五年のものにして一定且つ多數の生産を爲し品質撰別及俵裝を統一し殊に俵裝に至りては角俵にして容量は六貫五百目「アテ木」を用ひす小口は藁等を以て覆ひたるものを適良とす而して取引先は阿哲、苦田、英田の三郡最も多く各郡生産中阿哲七八萬俵、苦田十五六萬俵、英田七八萬俵は殆んど全商店取扱の趣にして品質、撰別、俵裝、容量等は各郡一定ならず阿哲郡は角俵仕立目方六貫五百目「アテ木」なにして品質及容量殆んど統一せり又苦田郡は丸俵七貫目仕立「アテ木」なして多數にして目方及俵裝一定せざるものあり次に英田郡は土佐仕立、正味仕立の

二種にして尤も改良を要するもの多くして品質の不統一、目方一定せざるもの俵装の亂雜且つ過量に失するもの又は「アテ木」の過大に失するもの等にして自然價格低廉となるなり之れが改良の急務は品質優良のもの少數は歡迎せられず地方に於ける最も多數を占むる製造法を普及し以て多數を生産せしめ品質容量、撰別を一定にし俵装に至りては要すれば「アテ木」を使用せざるを可とす何んとなれば「アテ木」其ものの實費及運賃に關係を有すれば「なり更に利益の点を認めず若し從來の慣行上附着するとせば過大に失するものなく一定を期するを最も肝要とす又角俵の歡迎は瀛車運賃の關係上丸俵に比し多數積載をなし得るを以て從て運賃の節減となり延て倉庫内に堆積上極めて便益あればなり

叙上の如く需要地に於ける現状なるを以て當業者の一段の奮勵努力を要すべきこと急務にして之れが改良を適當に指導督勵せば從て價格の向上販路擴張は期して待つべきを確信す

調査項目 生茶販路

調査地 神戸市

調査員 英田郡福山村 濱 田 敏

調査の方法

調査は神戸製茶検査所及重なる問屋等に付て調査せり

一、茶取引状況

大正三年末より歐洲戰亂と支那動亂の影響を受け價格暴騰し大正四年度に於ては本邦輸出額三千九百萬封度神

戸製茶検査所に於て年々二百四五十萬斤を検査するを例とせるに全年度に於ては三百四十萬斤餘製茶貿易開始以來の記録を破れり而して大正五年度に於ては据物停滯し漸く不振の状態にありしに本年度に至り上物は拂底の姿なれば自然上物の賣行よく据物は例年の賣行なくと觀察し時恰も主たる輸出先たる米國に於て關稅問題の起るありしも商館は毫も意に介する模様なかりしに五月中旬に至り關稅問題も漸時險惡となり加之船腹不足の爲め之が運賃に大影響を及ぼすこととなり茲に於て商館は從來の品物なれば値上をなす外途なきに至りたるも米國に於ては結局値上をなすは不得策なりとて品物を以て仕合すの方針を取れり例せば從來七錢の價格のものを十錢として賣渡すこととせり依而中以下の品が矢張賣行よき變體を示せり故に全業者は以上の傾向により直に粗製濫造をするが如きは大に戒めざる可からざるも宜敷斟酌して製造す可きなり

二、ヘリヤ商館か静岡市へ引揚げし爲め神戸市場に如何なる影響を及ぼす可きか

神戸市場は商館としてはヘリヤ、十一番の二商館のみなり故にヘリヤが静岡市に引揚げたりとせば十一番の獨占となり市場に大影響を及ぼす可しとは何人も憂慮する處なりしも從來ヘリヤは十一番館に比し買入額非常に少く殊に或る時期を限り買入をなし豫定の額に達すれば全く買入を中止するを例とせり而して本年は右商館は從來の通り全館の買入時期には静岡より出張して買入をなし豫定の買入を終りて六月三四日頃静岡に引揚げたりと云ふ故に單に全館は静岡に住所を替へたるのみにて別に全市場に大なる影響を及ぼすが如き事なし

三、岡山縣の茶の注意すべき事項

岡山縣の茶は茶業組合の製造方法改良の獎勵により近時非常に聲價を擧げつゝあり只栽培不行届の結果頗る上等

品を出すこと能はざると時期遅きに失するを遺憾とす時期は人力の如何ともする能はざるも栽培に留意し肥料を増給し一面早摘をなすを要す

欠点とする處は色澤に於て少しく遜色あり尙幹の混入多き嫌あり米國に於て着色茶禁止せられたる結果色澤悪しきものは非常に賣行悪しきを以て特に栽培製造に注意し幹の混入に就ては輸送業者は特に之が除去を圖り製造業者も亦摘取りに注意を拂ふ可きなり

四、神戸問屋の手を經ずして直接商館へ賣込むの可否

問屋は従來荷物到着すれば直に見本を以て各商館并に卸問屋に交渉して周旋に努め賣却したる時は價格百分の五を手數料として荷主より受くるを例とせり故に一見直に商館へ賣込むとせば問屋に對する百分の五の手數料を支拂の要なく得策の感あるも荷主は何れも神戸市に出張するものに非ず故に各店へ交渉するに不便を感じさりとして一個毎に一々各店へ見本を送り電報電話等にて交渉する等は收支煩ふものに非ず故に本縣輸送業者間に於て人を派遣し之が賣買交渉の任に當らしむる等の方法を講ずれば兎に角現在の儘にて直に直接取引は果して利益なるや否尙更に慎重なる考慮を要するものと思考す

調査項目

妻楊子販路

調査地

大阪市及大阪府南河内郡高向村

調査員 苦田郡農會 副會長 上原良助

全郡上加茂村農會會長 岡勘十郎

妻楊子販路調査概要

一、調査の目的

去る大正四年中農家副業獎勵の目的を以て苦田郡内數ヶ所に於て妻楊子製造の講習を開始し之れか技術を習得せしめたるも何分該業は地方に於ける新事業なるを以て之れか販賣方法等に關する經驗なく爲に前途を危惧し製造を躊躇するの傾あり故に之れか販路を調査し以て將來該事業の發展に資せんとするにあり

一、調査方面及該方面を選定したる理由

大阪府下南河内郡高向村^{タムコウ}及大阪市

大阪府方面を選定したる理由は元來妻楊子の製造は南河内郡内地方を嚆矢とするを以て之れか集散は大阪市の如き最も多かるべく故に該地方を調査せば參考資料の多からんことを豫想せしに依る

一、高向村附近に於ける製産及取扱状況

大阪府下南河内郡高向村森廣吉に就き調査を遂げ(同人は已往四十年來製造及仲買に従事せり)同所は大阪汐停車場より高野登山電鉄に依り長野驛に下車し長野町より車道里許にして達す先づ該地に於ける製造の状況を述ふるの要あり左に高向村の内大字高向(二百三十戸)大字日野(八十戸)長野町大字上原(八十戸)等に於て妻楊子の製造に従事し就中高向の如きは遠く四十年前より開始せりと云ふ

1、妻楊子種類

一、黒文字製

角楊子 製造の最も簡易なるものにして一寸八分、二寸、二寸二分、二寸五分等に區別す
 細工物 薙刀、鐵砲、煙管、國旗、白魚、扇子、矢形等にして何れも其形に模せるもの
 二、丸妻楊子

材料 ウツギ、ゴンヅエ(ゴンヅエは一名豆ヅシ又は谷ワタリと云ひウツギの一種なり)

材料の黒文字に屬するものは何れも小刀を用ひ手先にて造るも丸妻の分は全部器械力に依るものとす

以上三大字の内大字高向は全部黒文字材料に依り各種類に渉る製造に従事し大字日野は丸妻七分角物三分の割合
 大字上原は全部角物のみの製造に従事せり

ロ、原料供給状況

黒文字原料

阿波、伊豫、土佐、丹波、伊賀、伊勢、山城、紀州等の各地にして發芽後三年以上のものより取り細きは角
 物太きは細工物に用ゆ而して原料切取りは十月より三月頃迄を最良とし寒中に切取りたるものは良く六ヶ月
 間位は變狀なく長く使用に堪ゆと云ふ

ウツギ原料

香川縣地方に多きを以て森氏は阿波國勝浦郡棚野村字坂本に器械を据へ付け該地に於て製造を爲しつゝあり

ハ、製品仕向先及結束のこと

仕向先を大別して内地向輸出向とす而して黒文字の製品は總て内地用とし、丸妻は上等品を内地用とし下等

品を輸出に仕向くると云ふ其の内地仕向先は東京、京都、大阪、廣島、名古屋、静岡、濱松、久留米、馬關
 上総、下総、北海道方面等にして九州方面向は丸妻多く關東方面向は黒文字製品多し而して高向村には森廣
 吉を初め四五名の仲買人あり皆に同地方に於ける成品を取扱ふのみならず丸妻の如きは伊賀、伊勢、紀伊、
 出雲等より輸入し來るものを引受之れ等仲買人の手に依りて更に適當に結束して各需用地に發送することゝ
 なし居れり要するに該品結束の功拙如何は販賣上重大の關係あるものゝ如し故に單に妻楊子製造の技術のみ
 を習得せる丈にては未だ以て市場に販賣するの資格なきことゝなり居れり亦其結束は相當の熟練を要するを
 以て從來前記各地方より製品を大束の儘一應必ず高向村方面に輸送し同地仲買人の手を経て販賣せらるゝこ
 とゝなり居れり而して結束本數は角物長一寸八分もの四百五十本二寸以上五百本束とすること丸妻は主に
 (器械製)目方を以て標準とする如く内地向は一萬本二百三十匁、輸出向は二百匁以下とす

ニ、製産力及價格工料等

前記高向村の内大字高向に於ける一ヶ年製造價格約五萬圓之れに日野、上原を加ふるときは約八萬圓を計上
 すると云ふ而して各地方の需用年々増加し目今の所註文の約六割位しか供給し能はざるの状態なるを以て續
 々製品の送付を受けたり何程にても喜んで取引の需に應ずべく旨森廣吉は語れり

(1)、人工に依るもの

製造従業者は黒文字角物は主に婦人とし細工物は主に男子の仕事となり居れり其價格等左の如し 但一萬
 本に對する仲買直段とす

角物 一寸八分六拾五錢 二寸九拾錢より壹圓 二寸二分壹圓貳拾錢 二寸五分壹圓四拾錢

細工物 テツポウ、キセル、國旗、扇子、矢形以上五種壹萬本八圓位

ナギナタ形大の全貳圓 小の分全壹圓八拾錢 白魚形全貳圓五拾錢位

女子製産力及收入

角物一日の製造力五千本より七千本位にして其收入左に

一寸八分もの 一日 參拾五錢

二寸物 全 五拾錢

二寸五分物 全 七拾錢

男子全上

主に細工物に従事す其技術の巧拙に依り工料に差違あるも大約左の如し

一日 壹圓以上壹圓五拾錢迄

黒文字原料壹貫匁に付價格上等拾參四錢位

全上産出量

二寸五分物 五十把 (五百本束)

二寸物 七十把 (全上)

(2)、器械力に依るもの 丸妻楊子

器械一臺の價格 四百五拾圓

全壹臺一日の製産額及收入 金拾四圓四拾錢 收入惣高

但丸妻四十八萬本代 原料六十貫匁の一割六分即九貫六百匁よりの成品

内

金九圓五錢 支出惣高

内 譯

金壹圓 原料割り二人歩

金五拾錢 プリ廻し一人歩

金五拾錢 結束荷造り一人歩

金四拾五錢 手傳子供三人歩

金壹圓貳拾錢 器械調節費用

金五圓四拾錢 原料六十貫代一貫に付九錢

差引金五圓參拾五錢 純益金

一、大阪市内に於ける取引狀況

大阪東區南久寶寺町二丁目

鍵谷小間物店

イ、商店に於ける賣行の状況

全店取引の状況は丸妻と角物とを比較する時は丸妻其大部分を占め角物は少数なり即ち丸妻九十七に對する角物三位の割合とす前者は内地に於ける販賣區域の廣きと外國輸出あり後者は専ら内地向なる販賣區域比較的狭きとに依りて岐る故に大々の取引を爲さんとせば丸妻に限る如し而して丸妻に就ての必要條件は(1)調製に注意して尖端の恰好良く整一に尖り丈に長短なきを要し且つ全体の細きに失するもの所謂腰の弱きもの等なきを要す(2)一束を五百本、六百本、八百本等とし結末に尤も注意を拂ふこと仮令ば之れ等小束を更に多數束ねて一把に結束するも小束個々の形態を崩すか如きことなきを要す故に之れ等仕揚げの爲め從來各地方の製造家は成品を一旦必ず河内方面に送りて結束整理を遂げ同地仲買人の手に依り大阪市場へ搬出するの習慣ありと云ふ

ロ、商店に於ける買入直段

丸妻	一束に付貳錢壹厘
八百本束	全 壹錢九厘
六百本束	全 何れも五束を一箱とす
五百本束	全 壹錢四厘
角物	全 參錢位
二百本束	全 參錢位

要するに高向村及大阪市に於ける調査は大同小異なりとす

一、概括的意見

以上調査の結果に依り考ふるに本事業は本郡の如き比較的黒文字原料の得易き地方にありては農家副業として最も適當と認む而して其成品は當分河内方面へ送付し適當の結束を爲すの要あるを以て該地へ交渉賣却するの適當(大阪方面は差當り取引不便なり)にして販路に困むか如きことなきを信す素より本業は手指の熟練に俟たされは遽に成功を期し難きも一旦其域に達せんか前述の如く婦女子と雖も相當の收入あり山間部地方の副業として之を奨励するの價值あるものと認む

六、風災被害農民救護費收支決算報告

大正四年度及五年度本會特別費收支決算左の如し

岡山縣農會大正四年度特別費收支計算表

一金壹萬五千貳圓參拾七錢也	收入總額
一金壹萬四百六拾四圓貳拾五錢六厘	支出總額
右收支差引	金四千六百參拾八圓拾壹錢四厘

岡山縣農會大正四年度特別費收入決算書

大正五年度へ繰越

科	目	決算額	豫算額	比較増減	說	明
第一款	縣費補助金	一五、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇			
第一項	縣費指定補助金	一五、〇〇〇、〇〇〇	一五、〇〇〇、〇〇〇			
第二款	雜收	一〇、三三〇	二〇、〇〇〇	八、三三〇		
第一項	預金利息	一〇、三三〇	二〇、〇〇〇	八、三三〇		
合	計	一五、一〇三、三七〇	一五、〇二〇、〇〇〇	八三、三七〇		

岡山縣農會大正四年度特別費支出決算書

科	目	決算額	豫算額	比較増減	說	明
第一款	風災被害農民救護費	一〇、四六四、二五六	一〇、二〇〇、〇〇〇	四、五五五、七四四		
第一項	種穀購入補助	九、九九三、一四一	一〇、〇〇〇、〇〇〇	一、〇六六		
第二項	副業補助費	四、六五一、四二二	四、八〇〇、〇〇〇	四、三三四、〇五八		
第二款	雜費	—	二二〇、〇〇〇	—		
合	計	一〇、四六四、二五六	一〇、四二〇、〇〇〇	四、五五五、七四四		

岡山縣農會大正五年度特別費收支計算表

一金四千六百四拾八圓六拾壹錢四厘
 一金四千六百四拾八圓六拾壹錢四厘

收入總額
 支出總額

本年度豫定事業完結セサリシニ
 依ル

右收支差引殘金なし

岡山縣農會大正五年度特別費收入決算書

科	目	決算額	豫算額	比較増減	說	明
第一款	雜收	一〇、五〇〇	五、〇〇〇	五、五〇〇		
第一項	雜收	一〇、五〇〇	五、〇〇〇	五、五〇〇		
第二款	繰越金	四、六三八、一一四	四、八六五、〇〇〇	二、六八八、八八六		
第一項	前年度繰越金	四、六三八、一一四	四、八六五、〇〇〇	二、六八八、八八六		
合	計	四、六四八、六一四	四、八七〇、〇〇〇	二、一三三、三八六		

岡山縣農會大正五年度特別費支出決算書

科	目	決算額	豫算額	比較増減	說	明
第一款	風災被害農民救護費	四、六四八、六一四	四、八七〇、〇〇〇	二、一三三、三八六		
第一項	副業補助費	四、四三三、六一四	四、六四五、〇〇〇	二、二二一、三八六		
第二款	雜費	二二五、〇〇〇	二二五、〇〇〇	—		
合	計	四、六四八、六一四	四、八七〇、〇〇〇	二、一三三、三八六		

附

錄

米に就き

神戸米穀肥料市場玄米部長

大門 熊太郎

今日皆様と此席上に於て一應の談話を交換致しますことは誠に私の身に取り光榮に存じます私は多年取扱つて居ることを御紹介するので元來素養の無い爲めに秩序よく學者の様な講演振にはなりません其邊は豫め御斷申して置きます。

先づ順序として日本米と云ふことに就き先きに御話をしてみようと思ひます、先づ第一に日本米としての價値がどうであるか日本米に對する吾々商人から見た所の希望は何う云ふものであるかと云ふことを申上げて見たいと思ひます、日本に於ては米と云ふことは重要な物産であつて日本人民の重要食物とされて居ると云ふことは申す迄も無いことではありますが其日本米の價値と云ふものは日本人が最負で見ると云ふことは外國から参りました蘭貢或は柴棍其他暹羅であるとか種々雑多の米と日本米と比較對照すれば其品質に於ても味に於ても日本米は優れて居ると云ふことを吾々は斷定するのであります又學者の分析した所を見ましても今日日本米の中心と云ふものは肥後米でありますが其肥後米と蘭貢米との分析對照をしてある所を見ますれば何もかも日本米の方が成分が多い之は科學的分析ばかりでなく矢張り吾々が實地取扱つて味つて見ても其通りである、然るに此の日本米と云ふものは日本人以外には餘り好かないと云ふ様なことを時々聞くのでありますが兎に角日本人には日本米と云ふことは寢ても覺ても一日たりとも忘れられないものであります。此米がなくては吾々は一日も生存することが

出来ない云ふ觀念を持て居るので同じ米を食べても日本米を食べないと云ふと何うしても食べた心持がしない
 と云ふ感を吾々日本人は持つて居るのであります、故に布哇邊りに山口縣或は廣島縣邊りから移民が澤山行つて
 居りますが其處に割安の外國米があるに拘らず其外國米を食べないで本國から米を引いて縦令値段が高くとも日
 本米を食べて居る有様であります、何うしても日本人と日本米と云ふとは密着の關係があるのであります所て之
 を生産する農家と云ふものは何うしても日本人の此の執着心所謂日本人は何うしても日本米でなければならぬ
 と云ふ希望を滿してやると云ふ心を以て生産しなければならぬのであります、或る論者は前年米價調節問題の
 起りました頃に日本人は日本米でなければ食べないと云ふことに取定めて居るから日本米が豊作であるか或は不足
 すると云ふと値打が非常に相違を來すでこの騰落の歩合が非常に多いのであるから何うしても今後は世界共通的
 の食物に變更する方がよい、世界共通の重要物と云へば兎に角小麥が宜からう、小麥を作れば餘つたものは外國
 に出す足りないものは外國から輸入を仰ぐ、さうすれば自然に價格調節が出来て米價調節とか低利資金とか云ふ
 様な問題も起らないで日本の生産家なり工業家総てのものが安心して生存して行くことが出来る云ふことを云
 つて居りましたが、吾々が考れば之れは間違つて居りはせぬかと考へます。到底今遽に突飛なことは出来ない
 と思ひます、小麥を作ると致しましても彼の一毛作より出来ないところの土地では爲し能はぬので日本には此の小
 麥を作り得ないところの縣が澤山あります、私の議論は日本人は日本米に執着心が深いから何うしても之を餘計
 に作つて餘つたものがあれば外國に輸出する、又所謂裏作の小麥も成るだけ廣い面積で成るだけ良い處を選んで
 餘計に收穫して小麥をドシ／＼外國へ輸出すると云ふ農業政策を取つて頂いたら宜からうと思ふのであります。

それで外國を視察し或は外國を旅行された學者其他實業家の話を聞きますると外國人の口には日本米は食用に適
 せない日本人が執着する如くに外國人は反對に日本米を好かないと云ふことであります、其所で日本米を外國へ
 輸出することは到底望み得られないことである、聞く所に依れば日本米は粘着力が強く脂肪分が多くて調理法の
 調和が取れないと斯う云ふ議論をされる方がありますが之は私は半信半疑で居ります、實際は外國人の食料に供
 せられて居るからであります、それは日本米を輸出することに就き専門家の歸朝談を聞きますると却つて正反對
 である、日本米は外國の人も之を希望して居る少しく値段が高くても矢張り日本米は外國に於て需要があるので
 あります、要するに價格の問題である價格の問題は騰落の度合が非常に急激であるから丁度外國の相場と内地の
 相場と算盤が出合つた場合はあつても契約をしやうと思ふと契約する翌日ははや暴騰して了つてもう次の註文に
 應じられないと云ふ結果が現はれる、斯う云ふ風に値段に制限せられて日本米を輸出しようとしても採算上外國
 へ輸出することが出来ないことがある、漸く今年外國の人間に日本米の味を覺えさせたかと思ふた時分に相場の
 變動があつた爲に忽ち輸出が杜絶する其所で日本米の味を又忘れられて了ふ斯う云ふ状態で總て價格に制せられ
 て居ります、其所で外國の状態は何うであるかと云ふと蘭貢邊りの相場の騰貴を見るに十年間は平均殆んど水平
 線に居る、それだから外國の需要地の相場と蘭貢の供給地の相場とが何時も出合つて居る其所で日本米は變動が
 激しいので外國に行かないで却て蘭貢の方が侵入して居る、餘程之は考へものだらうと思ひますそこで丁度大正
 元年頃ですが東北が不作で遂に東京の商人が東北の米が不足したから何うしても日本の供給が足りない其所、價
 格が高くなる、外國から買取るのであれば價格の協定が出来ると云ふので外國の米を以て日本の相場を下落せし

めようとの論もあつたこともあるのです、兎も角も日本米の値打を保たじむると云ふことに就ては吾々商人のみならず生産家も有らゆる方面から餘程研究してやらなければならぬと思ふのである丁度大正元年から二年三年頃にかけて相場が兵庫の市場では貳拾五圓と云ふものが出来ました、其の時分には皆様の御意嚮が何うであつたかと云ふと何うしても參拾圓になるべき筈である、未だく賣らないと云つて大地主其他の方々が御氣張りになつて生産家の意嚮が賣らないと来るから商人も米を思惑をして當業者のみならず消費者迄米を買取つて思惑をして儲けやうとして居つた、さう云ふ譯でウンと氣張つて居るところの空虚を朝鮮米が衝いたのである其處で日本米は朝鮮米に壓倒せられて屢次下落した皆様も苦い經驗を御舐めになつたことと思ふ、吾々も亦苦い經驗を舐めさせられたことでありましたで相場のことは誰しも先の見える者は無いのです餘り慾に慾を附けて行りますと云ふと斯う云ふ失策がありますから何うも此邊は御互に研究をして餘り騰落の度合を多くならないやうにとらよいと思ふのであります、米商人殊に米穀取引所定期市場なるものから云ひますれば騰落の度合が多い程好いが國家から云へば騰落の度合が少い方が好い或る程度の價格を保つて行く方が生産者も消費者も共に安心です、安心して職業をして行くことが出来ると思ふことになるのですがそれは日本の状態では困難とするのであります或は木に縁りて魚を索むるが如き六ヶ敷しい問題であるかも知れませんが、只今迄に申した結論は良い米を餘計に作つて日本人の執着心のある所の日本米を十分に日本人に供給して其餘つたものをどし／＼外國へ輸出する小麥も成るだけ澤山に拵へて外國に對して聲價を取るこれが大いに必要なことであらうと思ふのであります、それから次に市場需要趨勢と云ふことに就き申上げ度いと思ひます、御互に今迄粗食に慣れて居つた者も益々世

が發展し人間の知慧が進むと同時に衣食住が向上して来る、吾々でも昔は紺の着物に前垂をして居つたのが只今は洋服を着て官員様と同じ様な風をして居ると云ふ様に總てのものが奢つて来るから食べる物も従つて奢る、其所で食物の向上と云ふことになりまますから自然と食味の變化を來して来る、甘いものを食べ度いと云ふのであるからこれまで不味い米でよいと思つて居つたものも少し良い米を望むと云ふ事になる、其一証には是迄十一月十二月頃例へば大正五年産の米の取立てのホヤ／＼の時分其新米の時分は古來の値打が貳拾錢參拾錢上であつた何う云ふ譯かと云ふと經濟上に釜増が多い味のことを別に云はない新米であれば値段は少々安い味がよいから餘計に食べるだから古米の方が腹の心地もよく餘程得であると云ふので古米の需要が多かつた、又人を澤山に使つて居る家は斯う云ふ意味でやつて居たが現在は何うなつて居るか云ふとこの七八年此方は新米が出来たら古米を買ふ者がない新米がどし／＼出来る新米の方に需要が集つて需要者の無い古米と新米との差額が丁度是迄と反對に五拾錢乃至壹圓或は壹圓五拾錢位も下でなければ古米は賣れない、下でもまだ需要がないと云ふ様な状態になつて居るのであります、これは何でも無い解り切つた問題であるが此所らは大いに研究すべき價値のある問題であらうと思ひます、其所で此の古米になると此の價値を失うことになるから古米の價値を失はない様に何等かの方法を以て之を堰き止める工夫を講じて行きたいと思ふのであります、要するに味覺上の變化向上と云ふことが現時の有様になつて居りますから之を生産するところの農家諸君は大いに研究をして市場の有様を観察して需要者の希望を充すところの米を益作つて行くつまり市場の人氣に投ずると云ふことにして頂き度いと思ふのでありますそうしなければ成り次第に抛つて置くと思ふと終ひには飛んでもない慘な境遇に陥らなければならぬ

ことになるだらふと思ひます、これは老人の冷水で御注意申し上げて置く次第であります。

さうして我々需要者の理想とする米と云ふことに就いて申し上げたいと思ひます吾々需要者として希望する所の米は何う云ふ米であるかと申すと先づ大粒小粒のことを申し上げて置きたいのは關東は小粒を以て上米と云ふ様な風になつて居る關西市場は絶対に大粒でなければいけないと云ふことになつて居る、吾々が兵庫市場で上米と立てゝ居るところの大粒は總ての條件を具備して居なければ上米とは云はないそれで吾々の方に小粒は絶対に採らないかと云ふと矢張り歓迎して採るのであります、それだから粒の大小を問はず大粒でも小粒でも其品質の一定なものが希望なのであります、さうして良種に就いて申せば第一乾燥のよいもの、米の縦筋の浅いもの、それから腹白の無いものであつて吾々の理想として居る米は例へば吉備穂(九州穂)であつて赤磐邊に出来まする「日の出」と云ふ良種が吾々の理想に殆んど近寄つて居るのであります、よく肥えた、よく實の入つた、皮の薄い光澤のある、透명한玄米の儘食べても實に美味さうなといふ米が希望であります、で乾燥調製なども無論のことです此の乾燥と云ふことに就ては當局の方からも御注意もありませんが之に就て一言申して置きたいのは或る縣では乾燥をよくして貫はねばならんといふて居りますが非常に乾燥のよいものは米に干割が入つて居る水分でも含まれたかと云ふとさう云ふ譯では無い要するに高温度で乾燥してそれを冷まさずに容れ物に入れた結果であること云ふことを伺ひましたが、御當縣ではさういふことはありませんまいが他の縣ではさういふ形跡がありますから御注意を願ひ度と思ひますそれから調製と云ふものは厄介なもので糝、粃、稗土砂と云ふものをよく除いて頂かねばならんこれは何う云ふことになりますかと云ふと搗減りに影響する乾燥が影響すると同様に調製も粗

雑であると云ふと矢張り影響するのである、さうして搗減りに影響するのみならず手数がかゝる白米商人がそれを買取つて消費者へ之を供給せうと云ふ場合に非常な厄介な手数がかゝるそれは何故かと云へば粃でも砂でも一々選つて行かなければならん従つて人夫賃も高くなる從來の考へで米には石のあるもの、粃のあるものと云ふ風な考へで居ればそれで好い様なものゝ他が益々改良せられて居るのであるからさういふことでは需要者が非常に困るそこで値打が安くなつて來る其調製が粗雑の爲めに安いといふ罪は誰に歸するといへば生産家である要するに高い選り賃高い手数を生産家が拂ふて居る様なものである、結論は何うしてもさうならなくてはならぬのである故に調製する場合には塵埃、石、砂と云ふものをよく除去して粃や稗は、萬石や搖り板にもかけて選り出したならば一通りの値打に賣れるそれを怠つたならばそれだけ値段が安くなるのであるそれから俵裝です吾々の希望するところは出来るだけ丈夫であれば結構であるがこれも採算上生産家が引合はぬと云ふ問題に打突かつて來ますから餘り吉兆俵の様に飾り立てるには及ばないが或る程度迄は綺麗にする必要がある第一は丈夫なこと、幾ら汽車、車に積替へても、和船に積んで舢取り取りそれを汽船に積替へたり又庫から出して彼方此方に運搬してもそれが毀れない様な俵にするといふことは極必要なことである是等は常に吾々の理想として居るところであつて又希望する條件なのであります。

容量の理想は四斗を以て理想として居りますこれは只今の人力にも適合して居る二十五俵を以て十石になるのであるから換算も誠に易いそこで四斗俵を以て吾々の理想として居るのでありますそして古米になつても四斗になつて居れば結構である、若し輸出する場合に四斗が切れる様なことがあればそれだけ込んで御送りになればそれ

だけの値打は相場の上に現はれるのでありますから損はいきません。

それで茲で一寸お断りをして置きますのは市場は米の改良に就き色んな希望を述べますと市場と云ふものは産米の改良を希望して居るかど云ふことになりませんが實際市場から云へば吾々商人の立場からは何うでもよいが、市場はよい米を持つて来れば高く悪い米を持て来れば安い其善悪は貴下方の自由自在であるそれで市場と云ふものは貴下方の改良によりてより以上の利益を得るかど云へば得ないのである昔の方が錢儲けがよいのでそれは貴下方が胡麻化し易いからである、要するに良いものを送らうと悪いものを送らうと貴下方の自由自在にある。

も一つ御参考に申上げて置きたいのは「大日本農業雑誌」と云ふ雑誌に何年か以前に學者の一説として記載してありましたが米の市場は改良米と云ふことを喜ぶ風があるから産米改良を全体に爲さないで市場に出すものだけを等級を附けたら好いと云ふお説が出て居りましたがさう容易くは問屋で卸さない、何故なれば問屋は總て數字の塊で算盤ばかり取つて居るそれで値打を定めるからぞんざいに拵へ上げたものに等級を附けてあるからそれに依つて高價を拂ふと云ふ甘つちよろい商人は先づ／＼全國にありますまい、それですから何うしても根本的の改良を爲なければ殆んど價は現はれない、之は過渡期時代の議論であつて今日の議論ではないと私は思ふ、斯う云ふ考へが貴下方の頭に残つて居つて市場を誤解されると困る、何でもさうですレツテルだけ良くつても中身が良くなければいかん又中身が良くつても表装が悪くてはいかん。

それから産米改良の効果に就き一言申上げたいと思ひます此の効果と云ふことは下手ながらに書きましたから要領を得たかと思ひますが、兎に角一つのものを取つて御紹介したいと思ひます改良の効果を書きます以前に當り

まして岡山縣の米を改良する以前の状態が何ういふ有様であつたかといふことを茲で私が實際に扱ひ實際に耳に聞いて記憶して居ることを呼起して申し上げ度いと思ひますそれは幾分か過激なことを申して反感を買ふ虞があるかも知れませんが他人混らすの此御會合ですから一寸暫くの間御辛捧を願つてお聞きを願ひ度い。

産米改良を本縣に實施される以前に備前、備中、美作の米の状態が何ういふ風であつたかといふと、乾燥と云ふことは全くゼロで、なつて居なかつた田から苳るなり直ぐ扱いでしまつて持つて來たのでありませう其乾燥といふことは誠にお話にならなかつた、それで品質がよかつたかど云へば品質は皺の寄つた丁度乳無しに育つた赤ん坊の様な工合の粒であつたのです、それでは調製は良かつたかといへば調製なんかまるつきりなつて居なかつた此の備前、備中、美作の調製の粗雑であつたことは兵庫市場で一の名物であつた、岡山縣には一つの名物があつたそれは吉備團子ではありません岡山の「アラタカ」といふて之は方言であります「アラ」は粳といふこと「タカ」は粳が多いといふことです神様や佛様ならアラタカなどいふと大變好い様であります米のアラタカだけは感心しない加之に皆武装をして居る武装して居るといふのは皆其の粳に劔が附いて居て劔の附いた儘の粳が混つて居る要するに幾ら私等が素人でも一旦曰で挽いた粳が劔が残つて居るなんかは理窟に合はない、此の武器は皆んな脱れて居らねばならんが實際に聞いて見ると粳を買ふて混せて居たといふのが事實であらうと思はれます、兎に角武装した所の粳が混つて居る之は斛で量る時分に當り前の米粒が入らない様に劔で防禦したと思ふ譯で米粒を満足に相手方へ渡さないといふ作戦計畫であつたといふことを聞いたまさかさういふことではなからうと思ひます兎に角アラタカといふ名物が残つて居る。

も一つ「水米」といふことがある大阪の人がよく云ふことですが今は良くなつたが以前は岡山の「水米」には往生した俵に水を造り棧俵が濡れて居たと云ふ斯う云ふ不名誉なことを行つて居るから岡山の米は値段が安かつた。それから混合米といふのは大粒の神力といふ様な米とそれに似寄つた米と調合して賣る全で絹糸と人造絹糸と一緒に織つた織物を買ふ様なものでそれを吾々が市場では「アダレ」と稱して居りました、それで「特等」といふてそれ以上の米は何んなものであるかといふと調合しない米が兵庫の市場へ来たもので雄町系統の大粒の米を調合しないので之を特等米として取引せられて居りました、それから當時は随分土砂も多かつたそれから表装と來たら誠に汚ない俵に入れる、その俵は薄い上に細い縄で小口の括り方も誠にぞんざいであつた、勿論縦繩はない最近は汽車積であります但其時分は和船積であつた、岡山、笠岡、玉島方面より市場の方に行きますそれが何ういふ表装の状態であつたかといふと殆んど見る影もない破れ衣に破れ笠といふ状態であつた仲仕か船から昇いで上ると今到着したといふ許りの俵からポロ／＼米がこぼれるをやつと庫に積込むといふ様な状態であつた。それから容量は先づ三斗五升か三斗四升のものあり三斗五升以上のものもあるといふ様な有様で一向極りがないだから一々容量を改めて取引をして居つたのです、誠に手数なことをして居つたのです、それで水米といふことの起つた原因は或る一定の場所に俵を上げてそれに如露で夕立を起すのでしてそれを兵庫市場なり大阪へ持つて來て榭直しをする、であるからして最初量つた時分は三斗四升入れたものが三斗五升にもなつて來るので奸商が斯んなことをして居つたのです、それで斯ういふ米は搗減りが激しく味ひも亦お話にならないほど不味かつたそれで斯ういふ米を買ふた者は非常な損害をして居つたのです、これが所謂備前、備中、美作即ち岡山縣米の兵

庫市場に於ける聲價が上らなかつた原因でありますこれはお差支があるか知れませんが其中で作洲米は最も劣等米であつたのです、それは作州の良い米は白米にして輸出するから悪いものが作州米として行くのであるから悪いとして居られましたが決してそののみが悪いのではない矢張り作州米は全体に悪かつたのです、さういふ有様でありますから明治三十六年頃本縣が改良法施行前に一度三十六年の市場で價格の順は次の表の如くであつたものが

それが今日は産米改良の効果が現はれまして吾々の理想として居る生産検査及び輸出検査を實行されまして其結果今日では又次の表の如くになりました

各國産米優劣比較表

明治三十六年中ニ於ケル兵庫米穀肥料市場ノ市價ヲ平均シタル成績ヲ以テ順位ヲ定メタルモノ也

方ノ西					方ノ東				
前頭	前頭	前頭	小結	大關	前頭	前頭	前頭	小結	大關
讚岐赤一 等米	讚岐赤一 等米	丹波青三 等米	備前青三 等米	作州青二 等米	播州青二 等米	讚岐青二 等米	備前青二 等米	防長青一 等米	備前青一 等米
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
備前赤一 等米	伊豫赤一 等米	防長赤一 等米	播州赤一 等米	薩摩赤一 等米	備前赤一 等米	伊豫赤一 等米	安藝赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
因幡赤一 等米	阿波赤一 等米	伯耆赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米

各國産米優劣比較表

大正五年中ニ於ケル神戸米穀肥料市場ノ市價ヲ平均シタル成績ヲ以テ順位ヲ定メタルモノ也

方ノ西					方ノ東				
前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭	前頭
薩摩青一 等米	讚岐赤一 等米	丹波青三 等米	備前青三 等米	作州青二 等米	播州青二 等米	讚岐青二 等米	備前青二 等米	防長青一 等米	備前青一 等米
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
備前赤一 等米	伊豫赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米	備前赤一 等米
同	同	同	同	同	同	同	同	同	同
出雲赤一 等米	因幡赤一 等米	大分赤一 等米	泉州赤一 等米	越前赤一 等米	江州赤一 等米	加賀赤一 等米	能登赤一 等米	安藝赤一 等米	日向赤一 等米

以前貧乏神であつた所の作州米がすつと位置を高めて來た、之を一見すると産米改良の効果といふことは私が説明する限ではありません、以上の表は市場が責任を以て作りました結果を現はしたものであります、此中には兵庫縣の方も廣島縣の方もお出になりませうがこれは獨り岡山縣の爲めに作つたものでは無いのであります。

それで各府縣の取引状態は何ういふことであるかといふことをこれから申上げて見ようと思ひます。成績表に現はれました如く岡山縣の米所謂備前米と播州米とは兩横綱になつて居る元來私は播州の出生であります兵庫に籍があれば兵庫縣下の人間でありますから或は播州米を多少最負にするのが本當かも知れませんが私の目には何の米に對しても一視同仁即ち平等觀であります、私の觀念はさうでありますが今播州米と備前米とは各鎊を削つて居る様な譯になつて居ます、値打はさう云ふ状態になつて取引せられて居るのであります、それで各府縣共何處も競ふて何でも播州米に負けぬ様備前米を飛越す様と云ふとで今では改良と云ふことに熱中されて居ます、之が改良の効果の世間に認められた証據であります、其處で灘の酒造家などは播州米を非常に歡迎して高價を拂つて買取つて居るから一つ自分の所でも播州米より以上の米を出して酒造家に買取らしてより以上に生産家に利益を與へやういふとで各府縣とも競争されて居るのであります、處が其結果播州米としては丁度油斷大敵の空虚を衝かれたと云ふ譯であります、或る年以前に播州が聊不作でした年があります、或る酒造家が幾ら々々の値であるといふて付け値をしても其時貳拾幾圓でなければ賣らないといふ様なことで參圓も五圓も高張つて來た、それで米が播州は足りないのであるからもう買ひに來るかと思ふて生産家は酒造家の買に來る時機を窺つて居りました、處が酒造家の方で見るといふとさう高い米を買つては何うしても採算上算盤が

合ないから途方に暮れて居りました處がもう酒造の時期が目の前に迫つて來た、其時機を経過すると云ふと非常な打撃を受けますから他府縣の米であらうと何であらうと早く彼方此方の米を買取つて造つたのであります、勿論其時分には多少酒造家の頭にはそこにもこゝにも播州米でなければ良い酒は出來ないと云ふ迷習があるので防長米なり備前米なりを飯米にするとか何とか云ふ譯で買取つてそれで酒を造つて見たのです、處が其結果は何うであつたかと云ふと随分良い酒が出來た、可なり良い酒が出來たからもうこれは播州米でなくても他府縣の米でも良い酒が出來得られると云ふことになりかゝつて居るのであります、之が一つ播州米としての苦痛なのです又それでありますから此岡山縣と雖も今斯う云ふ位置に居ても油斷をすると云ふと慘な目に遭はなければならぬのですから何うぞ皆様も油斷をしない様に願ひ度いと思ふのでありますそれから世の中が進歩すると同時にお互に生活費が非常に高まつて來ますから其収入を殖やす途を講じなければならんさうするとこれも亦改良問題が必要になつて來るのであります、それで生産家の經費歩合と云ふとに就き日々の物々交換と云ふ様なことで算盤を弾いた結果を御參考に申し上げます、そこで改良した所の米の値打を拾四圓七拾錢と立てまして食鹽一匁を買ふ爲めに米を七升四合持つて行かなければならん酒を一升買ふに六拾錢とすると米を四升八合、又敷島一つが十錢とするとそれに對し米を六合八勺、燐寸一箇五厘とするとすれば米を三勺、醬油一升二十八錢之には米を一升九合着物を一枚拵へると表が二圓五十錢裏が一圓二十錢綿と糸を買ふて五十錢合計四圓二十錢掛るとすればそれに對し米を二斗八升六合持つて行かなければならん大工一日の賃金が一圓二十錢と假定すれば米を八升一合六勺と云ふ様な譯になるから物々交換で行くと云ふと斯う云ふ結果になります、其處で改良して行けば行く程其効果が

見えることは申すまでも無いとあります、改良すれば一圓五十錢乃至品二圓の相場は高まつて居ります改良の
効果に依つて改良以前より改良後が一石に就いて二圓宛餘計に入つて居ると云ふ結果になります、若し貴下方が
改良をして行かなかつた時分に今申し上げた様な物々交換をするに云ふ場合に何う云ふ結果が生ずるか云へば
鹽一呎が一圓十錢は變らないが貴下方の出す方の値打が十三圓と假定すると改良米より一圓七十錢足らぬこと
なる、それで何ふ云ふ結果が生ずるか云ふと食鹽一呎は八升四合六勺改良米と未改良米とを比較すると未改良
の米では一呎に九合六勺餘計に拂はねばならん、六十錢の酒一斗を買ふと未改良の米は四斗四升一合拂はねばな
らん、それであるから一斗買ふ爲には米を五合五勺餘計に拂はねばならんことになるそれから敷島一箇には七合
七勺之は九勺餘計要る燐寸一つで四勺之も一勺餘計に要る醬油一升が二升一合五勺之は米を二合五勺餘計に出す
綿入一枚四圓貳拾錢掛るとするとそれに米を三斗二升三勺改良米よりは即ち三升七勺餘計拂はねばならん斯う云
ふことになりまますから要するに私が今日参りまして貴下方に申し上げました處の本當の骨子と云ふものは先づ此
處なので貴下方が米を改良して行かれなかつたならば只今申す通りより以上働かねばならぬことになる物々交換
が出来んと云ふことになるそれは直にお解りになつたことと思ひますこれが私の貴下方に申し上げたい處の要点で
あります。

それで岡山縣の産米に付き一々郡別に批評が申し上げたいと思ひますが餘り時間もありません且つ本多博士の御講
演もあることで妨げになりますから前刻山崎所長から審査長として御報告になりましたことで要領を得て居りま
して吾々が申上げやうと思ふのと同じこととあります其處で先刻も申上げた通り常に注意して居つて油斷大と敵

云ふことの無い様にし日頃市場と聯絡を取り兵庫市場のみならず何れの市場でも重なる市場は消費者の需要傾向
が何う云ふ状態であるかと云ふことを考察し値打を高く賣ると云ふことに何うしたら高く買ふて呉れるだらうか
と云ふことを視察し其人氣に投じ時代々々の要求に應じて生産して行く必要が起つて來るだらうと思ひます生産
家が日々居据つて居つて大阪の市場京都の市場兵庫の市場と云ふ様な有様を考へることは出来ない之には指導者
が要る検査所には所長がある所長以下監督員夫々機關があるのでありますから矢張り是等の方々と共同一致して
上下相共に進んで行く必要かあらうと思ひます市場と云ふものは利用したり利用せられたりして貴下方の目的を
達することが出来ると思ひます。

それから小麥も本縣が改良される以前の成績と改良せられた大正五年度の成績とは次の如くであります。

小麥改良の成績

位順の前施實查檢縣山岡													
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四
相	船	高	島	讚	播	豐	筑後、上郡	肥	攝	薩	肥	筑	兩
州	橋	瀬	原	岐	州	前		後	津	摩	前	前	備
産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産
位順之後施實查檢縣山岡													
一	二	三	四	五	六	七	八	九	一〇	一一	一二	一三	一四
兩	島	高	相	關	大	伊	肥	丹	兩	播	豐	肥	尾
備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備	備
産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産	産
不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不	不
合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合	合

斯う云ふ結果になつて居りますから改良すればする程効果があると云ふことは之に依つても明かでありまして、尙一層努力せられんことを希望するのであります。

産米の改良が本になつて諸種の農事の改良等も相起つたと云ふことを伺ひます何うしても生活の度合が向上するといふことは免れないのでありますから農事の改良と云ふことは免れないので益生存競争が激しくなつて経費が高まるのであるから農事の改良と云ふことは必要になつて來ます、改良と云ふことは物質本位であつて金々と云ふて居ると仕事が水臭くなるから其中に一つ趣味と云ふものを持たなければならん誰でも永生きをしたと云ふことは希望する處でありますが此の悠久な大宇宙間に於て五十年六十年生きて見た處が實に短い間でありまして其間に持つて行つて何か印跡を残すと云ふこととして置けば縱令此世に僅な生命を保つて居つても其功績は永く續いて行きますから長壽を保つたと同じ譯になります何うか諸君は斯う云ふ意味に於て永生きをされんことを希望して此席を退きます。(喝采)

米

神戶米穀株式取引所 筑井彌太郎
 私は此大會の末席を汚しまして諸君に申上げることの光榮を感謝致します。
 今や世界の動亂は引續いて居りますが結局糧食問題と云ふことが主なる關係のやうに一般の識者の上に唱へられ

て居ります戦争の始まる時は獨逸は必ず食糧問題の爲に遂に倒るゝ者であらうと聞いて居りましたが今日二年半にもなりますのに未だ盛にやつて居ります、併し食糧問題と云ふことに就き制限を附けて居つたと云ふことは確に此問題に就て非常に困苦をして居ると云ふことの意味は矢張り明になつて居るのであらうと思ひます此意味より日本に於きましても食糧問題と云ふことに就て識者も當局も餘程御慮下さると云ふことは實に有難いことであらうと思ふのであります、夫に就て考へて見まするに日露戦争に當りましても又日清戦争でも所謂米の爲に戦勝を得又世界的名聲を博したことを考へます、斯の如く米は非常に重要なものでありますから米の改良と云ふことに就き何うしても國民一般に餘程注意をしなければならぬことと信じます。

米の改良と云ふことに就て考へて見ますると本縣には去る三十六年に米穀検査を施行して以來十有五年間一貫して諸君の御盡力下さつた功績は實に著大な者でございます、大分縣の如きは三十四年から産米の改良を致しましたるが今日の状態は殆ど芳しからぬやうな有様であります、此意味に就きましても岡山縣は嘗に關西を代表するのみならず全國を代表して改良の模範として推稱するに足ると信じて居るのであります。

吾々兵庫に於きまして改良以前岡山縣の米の成績の頭腦に残つて居ることを申せば岡山縣の米は多く西大寺積の物でありまして其物を多く取引して居ました其西大寺積の米は水米が非常に多かつたことを深く感じて居ります其際に於て備中の倉敷或は笠岡の米は良い質のものは精米の原料になる程の乾燥を保つて居つたのであります、其頃備前米は精米の原料にならなかつたのであります、無論作州の米は論外であります然るに今日の成績は如何うかと申せば別表(大門氏の格付表)にもあります通り非常の成績を舉げて居るのであります、何が故に成績を舉げた

かといふと其特徴を申せば以前は作州の米は所謂乾燥の不十分なることと粗といふものが名物であつたのであります、夫が今日の状態は歐羅巴向の精米所がドン／＼買入れつゝある状態に判るのであります、防長米以上に本縣の米を兵庫の市場で格上をすといふやうな状態であります。

防長米と岡山縣産米と肥後米の比較を考へまするに防長中米に對して以前は岡山縣の産米は五拾錢許り下に居つたのであります、今日は乾燥が良くなつた爲に貳參拾錢も格が上つて居ります、兎も角八拾錢餘も上つて居りますことが証明が出来ます、肥後米に對しても壹圓以上上つて居る事が証明出来ます、更に進んで他の未改良の米に對しては壹圓、壹圓五拾錢乃至貳圓といふやうに上つて居るかも知れませぬ、今日は御承知の通り二府三十餘縣に互り改良競争場裏にありますから決して油断は出来ませぬ、夫れから容量といふことに就き申上げたいと思ひます是も改良の元素になりますから申上げたい、五年度現在の産米は四斗が切れることはいない、現在神戸取引所の昨年中の取扱は岡山縣の産米が十萬俵でありまして現在五萬四五千俵の受渡を一月限でやつて居ります兎に角四萬石計り取扱はれて居る者が結局四年度産米ではありますけれども三斗八升位の少い者がありまして平均三斗九升二三合位になつて居ります、斯ういふ意味に於きまして極端に申上げると矢張り五分といふ者は容量の上にて減じて居ります、四年度は他の縣のものも五分位減じて居る甚しきものになると三斗七升位の米は他の縣にはあります、以前は一割は大概減じたものでは是は貯蓄が悪いのか俵装の上で脱漏米が出来たのか又品質の粗悪の爲に減じるのもありませう、兎に角又夫が價格の上に影響して五拾錢なり八拾錢なり落ちて居ることが証明出来るのであります、兎も産額に對する一割所謂價格の上に現はれます一割といふものを空費するとい

ふことは國家經濟の上から見ても非常に不利益であります、昨年の收穫高に依つて考へて見ましても本縣の縣農會が御獎勵になりました結果今日は非常な增收を見るやうな有様になつて居ります、今申述べた通り現在作州の米が海外の精米市場の原料となつて出て居るのでありますから此米を作られる所の生産家は非常に國家の爲に盡されると云ふ意味にも當るのでありますから大に御奮勵を願ひたいと考へて居ります。

又本縣の米は「雄町」と言ひ「日の出」と言ひ若くは「吉備穂」と言或は「神力」と言ひ其名稱は所謂勇敢なる名稱を帯びて居るのであります此意味に就きまして本縣の米産家と言ふ者は非常に勇敢に大任のある勇氣のあることを證する譯でありますから一層の御努力を願ひたい次第であります、平和の戦には此米を獎勵して其力に依りて大に勝たねばならぬことと深く信じて居ります。

終に於て一言加へて置きたいのは昨年でございましたが農商務省に會議がありました、幸に吾々米穀業者中の或者を農商務省に御集め下さいました場合に本縣御出身の現在の道家局長の御盡力又は本縣の山崎所長始め所謂先輩識者の御盡力の結果に依りまして恐れ多くも新宿御苑の拜觀の光榮に沿ひました是も米に對する改良に關係した爲で斯の如き光榮に浴びましたことは深く感謝致します斯の如く皇室に於かせられましても米の改良に就ては御軫念あらせらるゝことと拜承致します是は私が敷衍した者であります現に昨年の大日本米穀大會の節にも吾々關係者は伊勢大廟に參詣して御禮をしたこととございます何卒諸君に於ても一貫した精神で以て今日の狀態をして長く關西全國の模範的の意味になつて進んで世界的に此産米に就て十分の御盡力を下さいまして所謂將來の大成功を期せられんことを切に希望致します。(喝采)

農業と戦争

京都帝國大學教授
法學博士

小川郷太郎

私は農業と戦争と云ふことに就き少しく御話して見たいと思ひます、今や歐羅巴の戦争は非常に極端になつて來まして諸君も御承知の通りに遂に亞米利加迄も獨逸と國交を斷絶するやうになり支那も亦其恣恣になつて來るやうになつて來まして、遂に世界的騷亂となつて來ました、此大亂に際しまして色々の事件が出て來ましたので日本の立場からしましても十分に考へねばならぬ点が多くあるのであります、又夫から色々の教訓が出て來るやうに思はれます農業に就ても戦争からいへば教訓が出て來るやうに考へられるのであります、私は歐羅巴戦争の與へるところの教訓の中で農業に關聯する者に就き少しく考へて見たいと思ふのであります。

素より今日の戦争は色々の方面に依りて色んな手段に依りて戦はれて居るのであります、併し私の見る所を以てすれば一は農業上に關聯して戦争が行はれて居ると思ふのであります、其事を述べます前に一体此農業と云ふ者は國民全体の上で何ういふ位置を有つて居るかといふことを考へて見なければならぬ、農業が國民の經濟の上に占めて居る地位は國に依つて違ふ又時に依つても違ふ時の進むに従つて農業の位置は違ふので日本は「農は國の本なり」といつて農を以て國を立て居るといふ考を有つて居る、併夫は間違つては居ない、昔の歴史を緝いて見まするといふと確に農を以て國を立て居るのである、併是は東西を通じて未來永劫さうであるかと申せば是は少し考へて見なければならぬ歐羅巴諸國の歴史を見ますれば國は次第に進むのである、經濟の關係に於ても

次第に進むのである、或時代に於ては農業が其の國の經濟上の中堅であるといふとは何處の國にもあるのであります、併そういふ時代が何れだけ續くかといふとは問題でありますが進みまするといふと農業よりは商工業が一國全体の經濟の上から重きを爲すといふ者が出て來たのであります、乃で經濟の進歩發展といふ議論が起つて來るのである、是は十九世紀の半頃から致しまして非常に八ヶ間敷なつた者であります最初人類が社會を爲して暮しを立てた時は獵をするとか漁をするとか牧畜をするとかいふ者が一番先になつて次に商工業の時代になつたのである、夫等の標本は英吉利に認めるとが出来る、英吉利は商工業國である併し英吉利たりとも其昔は農業を以て立つて居つたのである、英吉利が歐羅巴なり世界の中で一番商工業の魁をしたのである、次は獨逸である、二三十年前迄は獨逸も農業國が良いか商工業國が良いかといつて争つた者だが今日では誰も争はぬやうになつて立派な商工業國で農業に依つて飯を食つて居る者は三分一位になつてしまつた、亞米利加合衆國の如きミシシッピの野原に於て餘り勞力を費やさずして非常に善く物が出来る者へて居つたが今日はドン／＼工業が盛になつて來て居るのであります、併し亞米利加は未だ十分に英吉利又は獨逸のやうに工業本位の國であるかといふことは疑問であるが兎に角其方面に向つて進んで居ることは争はれないのである、今日歐羅巴に於て商工業國の標本は一方は英吉利で一方は獨逸である、其英吉利と獨逸が實は今日争ひの兩方の覇主である、今日戰爭の原因も色々あるが一方は英吉利と獨逸が世界に於ける商工業の争をして居ることが戰爭に現はれて來たのである、乃で英吉利と獨逸は商工業が農業に勝つて居るが國民の農業の態度は何うであるかと言へば兩國の間に非常な差違があります、英吉利は實は農業を捨てたと言つても良いので國を擧げて商工業に熱中して經濟政策否政治の政策迄も

極める根本の原因になつて居るのである、今日自國で收穫した穀物では或は二箇月を支ふことも出来ない位で他は皆之を國外に仰ぐのである、獨逸は何うかと言へば元は農業が中心であつたが商工業がドン／＼増加して來たので若し英吉利のやうな者を以てやれば獨逸も農業を抛棄するのであつたらうと思ふ、所が獨逸は十九世紀の後半に例のビスマルクの政治になりまして色々の政策が行はれましたが一方は工業を非常に保護して同時に農業の保護も盛んに行つた者である、夫にしても段々人口も殖え工業原料も到底、自國品では足りなくなる、併し獨逸人の考へでは少くとも食料品だけは自國で生産するやうに努力しやうとしたのである、戰爭以前にも學者が研究したのは獨逸の食糧は十箇月しか支ふることが出来ぬと計算して居つたが實際は獨逸の穀物は獨逸人を養ふに十分であつたのである、茲が英吉利とは非常に違ふので英吉利は食糧品も原料品も他國に仰がねばならぬと云ふのが弱点である、今日歐羅巴の戰爭は確に武器の戰爭でありますと同時に敵の弱点を攻撃して假借しないのである、英吉利の方から言へば先づ經濟上から獨逸國民をして餓ゑしむるに如くは無いと考へたのである、又獨逸は十箇月しか國內の食糧が無い乃で外から補給するものを打壊はす所謂封鎖政策を執つたので即ち獨逸の軍艦がキール軍港に隠れて居るのを攻撃に行かすして英吉利の大艦隊は大西洋にズラ／＼と並んで居つて獨逸に入らんとする商船を見張つて獨逸に入れないやうにしたのである、又獨逸の方でも兵隊を以て英吉利に臨むことは出来ないからしてツェッペリン飛行船を以て時々奇襲を加へて居るが到底英吉利をやつつける事は出来ない、處で獨逸の方からも英吉利を窘める方法は經濟上の弱点に乗じて行くといふことになつて來た、獨逸はアベッコペに英吉利を封鎖しやうと掛つたのである、處が大艦隊を有して居る英吉利に及ぶべくもない、乃で潜航艇を以て奇襲を企て

英吉利に入つて来る船をドシ／＼撃沈してしまふといふ政策を執つて居る。是は經濟上の弱点に乗ずる自然の結果と思はれる、乃で獨逸は十箇月しか國民を養うことが出来ぬとするならば残る二箇月は飢える譯である、夫を飢ゑささないやうにする爲に非常な策を施した、實は小麥が非常に足りない、ライ麥は澤山ある、乃で獨逸人は多く黒パンを食つて居る日本で言へば先づ麥飯に當る譯です、乃で今日戦時の場合小麥などを澤山食はすことは可かぬ小麥の御飯にライ麥の御飯を一緒に混ぜて食べることを命令したのである、黒パンには更に馬鈴薯の粉を混ぜて食はした、さうして馬鈴薯は獨逸には澤山出来る、斯う云ふ風に獨逸では旨からうが旨くなくからが生命を維持すれば可いと云ふ非常手段を執つたので、聯合國の意想外に出た、又獨逸商人には穀物を買占めて非常の儲をする云ふことをさせない國家が自分で穀物を買つて配附する、パンなんかも政府から一定の量を分配してやる、料理屋なんかに行つてもパンは持参して行かなければ料理屋には無い、斯う云ふ風に食糧を不足せしめぬやう努めて居る。

英佛人は獨逸は食糧で弱るだらうと思つたら案外弱らぬので非常に驚いたのである、是れでは獨逸を食糧窘めにすることは中々困難であると云ふことが判つて來たのである、是は獨逸が商工國であつても平生から農業を抛棄しなかつたと云ふこと、且同じ農業でも色々な物を作つて居つたから相融通して飢ゑない云ふ結果になつたのであると思ふ次には組織の力である一國全体に配當が巧く出來たからである、是が安々と出來たのは獨逸國民本來の精神から來たので色々な者が組織立つて出來て居るに起因すると思ふ、さて是から後何うなるか諸君も新聞で御覽になる通り双方共大分行詰つたやうである、御承知の通り獨逸は西の方では白耳義をスツカリ席捲して佛

蘭西の北の方も取つてしまつた、東の方に於ては巴爾幹を殆ど取つてしまつたと言つても良いのである、實に盛な者である、又露西亞の方にも入居る、兎に角獨逸は七八割は勝つて居るのである、併今日は英吉利も戦を止めない、又佛蘭西も北の方を取られて戦争を止める譯に行かない、今日では獨逸を窘めるには經濟上の弱点を擧げてやるより仕方が無い乃でロイド内國は陸兵を以て獨逸の境に入るよりは獨逸に物資の入らないやうに嚴重に封鎖することをやつた獨逸も色々苦辛して之に應ずるであらうが何と言つても品物が入つて來ないこと次第々に困るといふことを感ずるのである、すれば此際英吉利に十分打撃を加へねばならぬ、其方法は英吉利を封鎖して餓えしむるが一番の近途であるといふので獨逸の方からも封鎖を嚴重にして居る、軍艦では迎も協はないから潜航艇を以て英吉利を圍むのである、之に必要な爲には中立國の船であらうが交戦國の船であらうがドシ／＼やつける、國際法も何もあつた者ではない、是れ畢竟今度の戦争の目的が食糧問題、原料問題農業問題といふことに歸するのである、是れ英吉利とか獨逸とかの如き進んだ國は孰れも農業上に於て缺陷があるからである、して見ると吾々の考へねばならぬことは世が進むと或程度に於て商工業が盛んになるは已むを得ないが國民自身を養ふに足る食糧が無くては經濟上の進歩は期することが出來ない、商工業の進歩といふことの爲に農業といふことを疎にするといふことは何うしても出來ないのである、之が今日の歐羅巴の戦争で痛切に吾々に教訓を與へて居る所である、乃で日本も海軍擴張々々と言つて海軍を以て國を守るといふことは六ヶしい、すれば日本も五千万の國民を養ふ食糧品を拵へるといふを國の大本としなければならぬと思ふ、私は日本は食糧品足りなくなるといふ傾向を有つては居ないかと考へる、勿論目下は工業も盛んになつて來たが疑もなく農業が重きを爲して居る

と思ふので五割八分位は農民である、夫故生産品に就て言ふも五割以上の者が日本から出て來ると思ふ、日本は目下歐洲戰爭の影響を受けて軍需品製造が盛になり日本の輸出品が夥しく昨年度に於て一億七千萬圓の輸出超過になつたので鬼の首でも得たやうに思ふのである亞米利加などは昨年以來に於て三十億弗即ち六拾億圓の輸出超過を見て居る、兎に角日本の工業的色彩といふ者は戰爭に依つて一層濃くなつて來たといふことが言へるだらうと思ふ、夫故色々の成金が出來たが農業には影響が甚いから米は輸出する程無い又輸出しやうとしても船腹が足りない且歐羅巴でも米を用ゐないとは無いが小麥程には無い、是が小麥であれば世界的商品として出たかも知れぬが是は日本でも俄に變へることは出來ぬ、米はさう云ふ風であるが最も影響を受けたのは生糸である、戰爭前は信州上一番が六百圓臺にも落ちた夫が戰爭が進むに連れ壹千四百圓と云ふやうな倍以上の價になつて來たのである養蠶を副業として居つた者は非常な利益を得た譯である、乃で郡是會社などの株の賣買をして非常に儲けたと云ふやうなことがあつた爲め私は當業者を集めた席で大に警戒を與へて置きました、夫が爲に株式が下つて損をした者もあつたが百姓までが投機をやつては可かぬ一体農業と云ふ者は時々刻々變動する儲を捉へて進退する者では無い併し戰爭はさう云ふ餘波を起して來るのであるから副業として他の物を色々やつて居ると云ふことが必要である、獨逸の今回の戰爭に強みのあることは少くとも或物の生産に集中して計り居なかつたことであらうと思ふ本縣なども副業として色々なものに力を盡されて居りますが之は日本の國策としても適當であらうと思ふのである、戰爭に依りての教訓殊に獨逸の遺方に依りて考へましたのは第一に農業の維持と云ふと第二には或者は無くとも或者に依つて凌ぐと云ふ危険分散第三には組織である即ち戰時の社會に處して行くには物があつても連

用することが出來ぬと云ふは實の持腐である夫を運用することの出來るのは組織の力である、農會とか或は産業組合とか同業組合とかの色々のものが都市及び田舎の間に置かれて居る之が各連絡して活動するのである、我國に於ても農業の進歩と同時に組織と云ふことに注意して一朝事あつた場合に日本國民を能く養ひ得るやうに御努力あらんことを希望するのであります永らく御静聽を汚しました。(喝采)

竹林に就て

竹林大家 坪井伊助

只今御紹介を得ました私は岐阜縣揖斐郡本郷村坪井伊助と申します私の申すことはホンの實地の經驗談でございます決して學理を申すのではございませぬ従つて學識御經驗のある方々に對しても汗顔の至りでございます、一體日本の竹といふものは支那から來たもので夫が朝鮮に渡つて來たもので決して固有の者では無い是は餘り委しく述べることを略しまして今日は苦竹、淡竹此竹の花の事に就て御話し申すのであります。

私が竹を研究し出しましたのは明治十四年の春で其頃竹に關する本を調べたいと尋ねて見ても中々無い漸くに見つかつた農業全書の中で竹の移植のことが一つ書いてある、夫も殊更に雨降の日は良いと書いてある、雨降の日に植ゑるのは随分難儀である、昔は雨の降る時だけを植ゑたものと見えて芭蕉翁が句にも

降らすとも竹植ゑる日は簑笠

とある、何うも餘り據るべき所がないから京都の竹林其他内地は勿論台灣にも朝鮮にも参りまして研究しました

漸く明治十八年に至つて日本竹譜といふ者が東京から出て之に初めて植栽のことを記してありました、併し半分
以上は唯人の咄を聞いて書た者で實際判つて居ることであつた併し彼は利益を得た、さういふ風で私は諸國を歩
いて古老に聞き或は調べたことが本であります。

竹に取つて一番の災害は「自然枯^{ヒヤン}」といつて自然に枯れるので京都から大阪附近に此災害に罹るのが甚からぬ之も
漸々殖えて来る、之は時期を定めず不定期に起るのであります、老竹か弱竹につく之が段々出来る竹がシワッ
て自然に曲つて来る近年は何方も御承知の通り淡竹が日本國中到る處枯れた朝鮮の方も枯れました、明治二十七
年位から枯れて居る之が先づ二十五六六位掛つて日本國中の竹が全滅してしまふ、枯れた爲に苦竹を植えた處も
ある、或は桑畑に變更された處もある淡竹は以前とは餘程減つてしまつたが併し淡竹は之から恢復期になります
次は苦竹の順番であつて苦竹に花が咲いて枯れるといふ時期に向つて来る、苦竹は私の幼年の頃天保末年から弘
化嘉永の内に日本全国の苦竹が枯れてしまつた、此次は淡竹が花が咲くと言つて居たら二十七年頃から日本全国
の淡竹が枯れ出した、此次は又苦竹の順番になつて居る。

日本の竹で一番多いのは苦竹である十分の七迄は苦竹で其用途も廣く需用者も一番喜んで居る、淡竹は十分の一
ある残り十分の二が孟宗其他の竹であります、十分の七の竹に花が咲いて枯れたら輸出どころでは無い内地の使
用だけでも難儀である、乃で之を補充する爲に今から淡竹を植えて置くのです淡竹は是から百年以上花が咲きま
せぬ、此花が咲かぬといふことは今迄は漠然として據るべき所がありませんが岐阜縣不破郡赤坂村に於て天明
八年の地所買入帳に淡竹の自然枯の地續きだからといふので買ふといふ立派な證據がある其竹林は明治三十五六

七年の三ヶ年の間に悉皆枯れた其年数を調べて見ると之を明治三十六年と見ましても其間が百十七年ある斯うい
ふ記録が立派に残つて居ります、夫であるから是からは淡竹を植ゑれば非常に好い淡竹は指位ひのもので宜い、夫
れから又臺灣に桂竹といふものがある此の竹は花が咲かぬ其花の咲かぬといふことを私が知りましたのは三井物
産株式會社が臺灣には竹が澤山あるといふので是をパルプの原料として輸入したのであるそして高砂製紙場で夫
れを作つて居る所が段々調べて見ると年々歳々使ふところの竹が無限であるだらうかどうか竹も所によりては自
然枯で枯れるといふことであるがさういふことがあつてはならぬといふので私の所へ相談に來た其處で私は日
本の苦竹なれば自然枯れる臺灣のとは聞かぬ土地の關係で確とは解らぬが廣く土人に向つて調べて御覽なさい又
花が咲くかどうかといふことも調べて御覽なさいさうしたところが昔から花の咲いたことが無いといふことが判
つた此の臺灣の桂竹は孟宗の竹のやうに白い臘分が一面に着いて居る此の竹は臺灣から取り寄せるのは誠に容易
いことで私も送つて貰つて植ゑました是非一つ御當縣へ移植して見たいと思ひます。

夫れから藪といふことに付いて一寸申し上げて置きますが大抵の處は竹林で無くて藪である三十二年頃には九州
などではどうか竹を絶やすことを教へて呉れろといふ位いで其處此處で竹の濫伐を行つたものだ山口縣が隨
分甚しかつたそして夫が段々東に移つて來たが神戸の輸出商で調べて見ると好く解る神戸などの輸出商に言はせ
ると九州が一番多い岡山縣邊りのは藪とついで宜いので天然に任じてある夫れでは可けん、竹は何の位いに切つ
たら宜いかといへば六七寸位迄の竹は四切三止めでお行りなさるのが宜い即ち四年を切つて三年を残すといふ
やうにする竹には各々年数の印をして置いてお伐りになれば宜いそれで竹林の中には草一本でも生やすだけ損

です葉が腐敗すると夫れが堆積肥料分位の肥料を持つて居る其肥料分を草に吸い取られては何んにもならぬ京都府下で有名なのは乙訓郡である京都の山崎邊では草は一本も無い彼處では却々注意して葉が落ちると夫れを散布して置き又肥料も多く行る處によれば山の草も入れる又三年目と四年目には中へ土を入れる京都の竹林といふものは殆ど地上にある畑と同じやうな手入れをする斯ういふことは本縣でも眞似をして貰ひたいと思ひます。それで竹を植ゑるのは山の頂のやうな赤松も出來ぬやうな處は不可なので苦竹杯は地が悪いと出來ぬ早く申せば杉の好く出來るやうな處が宜い竹は上の方に水があると根が腐敗して仕舞ふ下の方に水がある處が能く出來る御當縣の旭川、吉井川の河邊は非常に宜い處がある竹を植ゑてから十年の後には一反歩平均四五拾圓は取れる夫れで竹は必ず太いもの計りを選らんで植ゑるには及ばない肥料と手入れの如何に依て何うでもなる尙種々お話ししたいことありますが先是丈申し上げて置きます。(喝采)

南洋の林業

東京帝國大學農科大學教授

林學博士 本 多 靜 六

諸君南洋の林業と題しまして主として南洋に於ける我日本人の殖民狀態并に將來我日本人の經營すべき事業殊に護謨樹、麻等の事業の狀態に就て御話を申上げやうと思ひます、元來吾々一軒の家でありましても子供が澤山出來まするといふと何うしても其の中の幾分といふものは分家して別に家庭を形づくる必要があると同様に一國に於

きましても人口が愈増加して人間の數が多くなりますといふと何うしても外に分家をする必要があります、これ即ち一國として新に國外に領地を作り或は殖民地を作ります必要がある所以であります、彼の獨逸國の如きは文明國としては遅く發達しました所謂後進國であります、英吉利や佛蘭西或は和蘭などに比べるといふと獨逸は後進國であります、それが爲めに自分の國の外領地といふものは近頃迄殆んどなく最近二三十年この方其國が盛になりかけて領地を作りました、即ち亞弗利加には獨逸の大きな領地が出來ました又日本の玄關前にある所のニューギニアといふ大きな島がある、その三分の一それから比律賓群島ビスマルク群島それから先頃日本の海軍が占領しました所のマーシャル群島カロン群島とかいふやうな小さな島殆んど顯微鏡でなければ見付からないやうな小さな島を拾ひ集めまして獨逸の領地と致しました、それにも飽き足らず各方面に殖民地を作つて居ります現に北米合衆國の如きは獨逸の殖民が八百萬人以上ある、それが今日亞弗利加は幾ら威張つても獨逸と殆んど戦をするとは出來ない所以であつて八百萬人以上一寸九百萬人近くの獨逸人が亞米利加にゐます、さうして方々に於て農業を行つておる林業を行つておる工業なり商業なり各方面に獨逸人が勢力を占めてゐます、そこで何うも亞米利加は獨逸と本當に競争することが出來ないやうになつておる又南亞米利加とか或は南洋諸島などにはドシ／＼獨逸人が這入つておる又亞細亞の境にある巴爾幹半島にまで都合が好かつたら自分の勢力範圍にしやうと企てゝ居る、爲めに今日の如き世界大戦争が起つたやうな次第であります、要するにこの世界に立ちまして其の國の進歩發展を計畫するといふ上に於ては何うしても領地を廣めるといふ事殖民をするといふことの二つの問題はこれを等閑にすることは出來ないのであります、然しながら領地を廣めるといつても人の國を取つて自分

の領地にするといふことは餘程好い機會が無ければ無暗に人の國を取らう取らうとしますと遂には今日の獨乙の如く世界中を相手にして戦はねばならぬことになるから餘り無暗に領地を取らうとすることは出来ません、只殖民なるものは日本の人間が行つて農業なり林業なり商業なりの仕事をするといふことは一向差支ない其國の發展上誠に穩な行き方はこの殖民にあるのであります我國に於ては諸君が御承知の通り先帝陛下の稜威によつて其の御代に新に臺灣、樺太の半分朝鮮などの新領地を得ました所が諸君我國の人口は年々七十萬から八十萬人殊に昨年などは八十萬人近くの人口が増して行きます、この儘置きましたならばこの小さな日本は人間で詰まつてしまつて歩けば人を踏み殺すといふ様な事が出来す少くとも人間の供喰を爲なければならぬやうになるのであります何うしてもこれは出来得る機會があれば領地を擴げ度い穩な方法として殖民を講じなければならぬのであります、然るに此の殖民といふものは何ういふ方面に行るのが好いかといふと凡そ三つの條件があります、第一に其の土地に天然の生産力が何うであるといふこと少くとも今岡山縣の人が殖民しようとするれば金よりも生産力が多い所でなければ引合はない、それから第二に人力が少なく天然の生産力で農業なり林業なり色んなものが出来る即ち人口が少いといふとが第二の必要である、第三には其土地の人が之を歡迎するといふ要素がなければいけない、日本人が来て仕事をして呉れれば好いといふて望んで居る所でなければ可かない如何に土地が廣大であつても西比利亚は日本の何十倍あつても尙ほ五六ヶ月位しか農作物が出来ないといふやうな生産力の少ない處では殖民が成立しません農業とか林業とかいふやうなものは西比利亚の方では出来ない又亞米利加の如きは土地も廣く生産力もあり人口も少ないけれども日本人が這入つて來るといふことは一向歡迎しない只排斥しやうといふやうな處では非常に骨が折れる又國際上の關係も面白くない、夫れ故に北亞米利加などといふことは今日では容易に殖民が出来ません既に今迄に十萬人許り行つて居りますがこれから澤山出さうといふことは困難であります、斯様に考へれば今日日本人が殖民に移住して行く地方は何處かといふと南米主として伯刺西爾、亞爾然丁、秘魯、智利又南洋の諸島等であります南米殊に伯刺西爾などは非常に大きな國で日本の十何倍といふ國であります人口は極僅かであつて盛に日本人の殖民を歡迎して居りまして伯刺西爾の移民會社は年々二萬人宛政府で保護獎勵して日本人の農民を歡迎して居ります只馬鹿に遠いのですね、今の處では五十日も要ります、一寸行くのに憶劫であります然しながら前述べた通りの三つの要素は備へて居る、土地も廣く生産力は多く人口が少い殊に日本人を歡迎する只遠いといふのが缺點であります、然るに南洋諸島は日本の直支關先で極めて近く臺灣などからは直ぐ一跨ぎで行ける少し足の長い人であるならば一跨ぎで行ける位である併し之は只圖面の上でありますが僅か五十里許りある私は臺灣に行つた時に一跨ぎにして行かうとしたか五十里許りあるといふので私の足は届きませんかから罷めましたが比律賓を始めとしてボルネオ、スマトラ或は馬來半島ニューギニア彼の邊は日本の直ぐ支關前です吾々が眞直南に向つて歩いて行けば遂に南洋諸島にぶつつかる但し水があるから其のお積りでなくてはいけません南洋諸島吾々の先祖が來た處で之は人種學上議論はあります色々反證がありますが、多數の日本人は此の南洋に先祖が居たといふことを私は斷定するのであります即ち吾々のお爺さんお婆さん先祖が來た處でありますから其處へ行くのは丁度お爺さんの處へ行くやうなものであります(喝采)右の如く南洋諸島は面積が廣がつて土地の生産力が非常にあつて此の邊の土地よりも二倍も三倍も同じ地面から収入がある、それに人口が少ない日

土地の生産力が非常にあつて此の邊の土地よりも二倍も三倍も同じ地面から収入がある、それに人口が少ない日

本人は自分達の兄弟分だからといふので日獨戦争の時にも日本が勝つたといふので何か自分の兄弟が勝つたやうに喜んで居るそれであるから大變に日本人を歓迎しますそれが亞米利加邊に行く日本人は馬鹿にされる大變に輕蔑する、それと反對に南洋に行く大變に持てるのです、それでこれまでは獨逸人、英吉利人などが煙草とか砂糖とか護謨とか椰子とかの栽培事業を始めました所が今度は戦争が出来た爲めに十八歳から五十歳までの壯年者の男子は悉く引揚げて本國に歸したそれであるから護謨園や煙草の畑は草原になりかゝつて南洋に於ける獨逸人の護謨園や砂糖畑は山の如く賣に出て居る又契約を履行せん所から土人の酋長が威張り出して土地を取上げるとか何とかいつて居るそこで何うぞ日本人に来て呉れといふことを澤山私の所へ申込んで来て居ります實際の事情は斯様な事でありまするので苟くも文明國として世界に立つて行く以上は南洋の生産物なくして生活して行くことは出来ないのである、例へば此の食物の上からいひましても珈琲であるとか或はチョコレートとか皆熱帶地方に出来るものであつて其の外人力車の護謨輪自動車護謨輪といふものも原料は皆南洋の産である又上等の煙草も安い砂糖も又馬鹿に安い茶もさうです馬尼拉の麻、米などは無論のことです内地で一度しか取れないものも南洋では三度も四度も取れることが出来ます。

要するに今日の文明的の生活には南洋の産物を缺いては到底其の生活を營むことが出来ない此の故に今日では此の南洋殊に熱帶地方で栽培するものが世界の文明を支配することが出来るといはれる位になつて居るそこで私は南洋の文明的の生活に必要な所の南洋の産業殊に護謨椰子馬尼拉の麻等に就き御話をし度いと思ひますが其の前に瓜哇の事を少しく御話しようと思ひます何となれば瓜哇といふ國は南洋の内でも最もよく開けた國でありまして

大變に立派になつた國で御座いますボルネオセレベス、スマトラ等の人間は食人種といつてそれは人が人を食ふ人間だといつて居りますが殆んど一部分にさういふ野蠻人が僅に住んで居るだけで先づ無人島等といつても好いので何時でも日本人が行つて開けば瓜哇といふやうな立派な島になることが出来るのであります瓜哇は其實例でありますからそこで瓜哇のことを少しく御話しようと思ひます。

瓜哇は細長く日本の本州より小さい馬鈴薯で名物になつて居る、此のジャガタラといふ薯はバタビヤといふ港のジャガタラといふ所の名を取つたので實は歐羅巴から來たそれが昔は瓜哇を通つて來た今の様に新嘉坡と馬來半島とは離れて居ると思はなかつた全く陸続きと考へて居つたからスマトラを通つて來た此のジャガタラ港には和蘭人が居りましてそれからして日本にジャガイモを持つて來た實はジャガタラ薯の本家は歐羅巴であります、そこで瓜哇といふ島が有名になつて居ります和蘭が盛なる時分に南洋諸島の全部を支配して遂には日本迄取りかけた蘭學といふことは吾々親父の時代に盛に行つたものであるが其の和蘭が日本迄も取りかけたことかある和蘭人が勢力を南洋に張りかけて以來其の中で瓜哇一國に和蘭政府は全力を注いで其の開發に努めたそこで日本の本州よりも小さな國であつて人口が三千萬人からあります、鐵道も縦横に出來て道路も四通八達する處自動車で駆け廻ることが出来る、そこで第一に着くのがバタビヤ港これは瓜哇の首府のある處で新嘉坡迄眞直に行けば十日程で行ける郵船會社の船などが十八日要ります之は途中で上海其他へ寄るからであります、そこで新嘉坡で船を乗替へて三十時間程でバタビヤへ著きます此處は世界の極樂淨土と稱せられる處であります立派な大市街が出來て居つて水道瓦斯電氣など遺憾なくありまして熱帶樹木の生ひ茂れる誠に幽邃な間に立派な家が建て居りまして日

本人も二百人許り居ります實に美しい綺麗な所であります、それからパタピヤからして汽車で一時間程行きまするとポイテンゾルグといふ處があります此處は世界第一の大植物園があります海拔八百尺位の處にあつてそこに總督が住んで自動車でパタピヤ迄通ふて居ります熱帯地方に行きますと珍らしい所の樹の種類を集めました植物園であります非常に涼しさうな立派な公園であります其他到る處に用水が流れて居りまして米が澤山出來ます日本の水田は瓜哇の眞似をしたもので日本の維新頃に和蘭人の土木技師が来て設計をした和蘭人は瓜哇の用水の事に就ては非常に注意して到る處に山から水を引いてそれが流れて居りますそこで堰はセメントで作つた方々に水門がありまして水を何處へも送る様に出來て居てそれで米は年に二度から三度收穫することが出来る其の作り方は日本と少しも違はない瓜哇一國で二千五百萬石程取れる即ち日本の半分位取れる其處でも土人は米許り食へるので不足するから其他は印度から輸入して居ります、近頃は砂糖などが大變の産額で近頃は砂糖會社が澤山出來ました其の作り方は誠に簡單なもので日本のとは比較にならない其砂糖畑に只水を掛けて置けば好いのでありますそれで田圃の中に輕便鐵道がかゝつて居るからそれに砂糖殻を積んで砂糖製造の工場へ行きます處で出來上つた砂糖が一斤貳錢五厘か參錢位で何億萬といふ瓜哇の砂糖が外國に輸出されて居ります其他煙草も澤山出來ます殊に面白いのは茶が瓜哇から澤山出來ます紅茶などは露西亞其他歐羅巴諸國に澤山行きます今より九十餘年前日本に來て居た和蘭人の植物學者シーボルトは日本から茶の種を持つて行つた其時分には瓜哇には一本も茶の樹が無かつたそれが今は一ヶ所に何千町歩全体では何萬町歩といふ程の茶畑が出來て數百萬圓の茶を外國に輸出して居ります其外私の見に行きました處に規那の樹が澤山ありました此の樹は櫻の樹に似た皮を持つて居り

まして其皮を煎じたものが規那煎といふもので熱病や若くは弱い人の體を丈夫にする爲めに飲むものになります此皮から精製した所の白い粉がキニーネといふものでそれを丸藥にしたのがキニーネ丸である此樹が瓜哇に六千町許りも作つてあります其の位置は瓜哇の山や高い處の丁度臺灣の山の高い處の如く二千尺位の山で少しく霜が降る位の處に此の規那の林が澤山作つてあるそれで一本一本に作つて居る此規那は其種類の中で一番育ちが早いキニーネの分量の餘計に含んで居るものを選んで丈夫な規那を作るそれで其畑は盛に耕して肥をやつてそれから五六年目に大きなものから皮を剥ぎます今日では瓜哇から出る規那の産額は世界の産出の九割を占めて居ります私は戦争前に參りましたが其時規那の皮を輸出するのは約四百萬圓でありましたが今日では壹千萬圓に上つて居るに相違ないと考へますそれで此規那の樹は元から瓜哇にあつたかといふと一本も無かつたもので南米數千里隔る所の伯刺西爾其他の國には此規那の樹が天然にあつた其樹を持つて和蘭の學者が瓜哇に植付けたそれが今日はさういふ風になつて本家本元の國よりも却つて瓜哇の國に於て世界の産額の八割餘といふものを支配する様な状態になりました。

其外ガタベルチャといつて赤い色の護謨入齒に使ひます所の彼の赤い色の護謨は硬性護謨といひますがそれなごも亦櫻の樹に似たやうなものでさういふものも澤山作つて其の葉からガタベルチャを取つて居る處がありますそれから船の用材にするチークといふものは何百萬町歩もやつて居ります、其外色々な生産物がありますが、今は極大體だけ申して置きます、瓜哇一國に今日でも日本人が六百人から這入つて居ります、それは重に商人とか藥屋などでありませけれども瓜哇は既に開盡しまして人が多くありますから日本人が畑を借りて作るといふ事は

最早適當しません商業工業などで這入ることは結構であります、土地の生産事業の爲めに瓜哇に行くのは可け
 んと思ひます、これから瓜哇の風俗のことを少しく述べて見ませう瓜哇は男も女も全裸です、男は褌一つ女は
 腰巻一つです日本でも今日こそ色々に上まで着物を着るやうになりましたが私の子供の時は皆んな腰巻一つで
 跣足で遊んで居りました、瓜哇は暖かい處であるから着物も何も要らん百姓などは多くは仕事をしたら椽側に晝
 寝して其周圍に椰子の樹などがありて其蔭で又仕事をしたりして居るそれで其作り方なども日本と違はん只熱帯
 地方だから日本の様に五月に稻を植えて十月に刈り取るといふやうな極りは無く何時植えて何時刈り取らうが御
 都合次第である此方の方では四五月頃稻を植えて居る者があるかと思へば他の方では草を取つて居る處がある又
 隣の方では稻を刈り取て居る處があるといふ様な風にのべつ幕なしであるから俺の方では一年に三度も稻を取つ
 たといふ者もあれば俺の所では二度しか作らなかつたといふ様な事で何時植えても好いのであるから誠に都合が
 好いそれから瓜哇の風俗として面白いのは少し之は失禮の話であります、瓜哇の人は廁といふこと即ち便所とい
 ふものを持つて居らん用を足す時分には何時も川へ持つて行つてやります貴族の者になりますと川の上に使所が
 あつて四角な家を拵へて居りますそこで瓜哇の國では水が肥になるといふので水さへかければ砂糖でも煙草でも
 皆んなよく出来る、それもその筈三千萬の人間が毎日々々排泄する所の肥料の流れて居る所の川であるから此
 の共同の肥料を施して居る譯である、パタビヤの町は誠に立派な街ですが其の中にはセメントで拵へた中をドン
 ／＼水が流れて居る朝起きますと其川へ這入つて顔を洗ふ又用も達して行く少しく氣味の悪い話であります、
 兎に角さういふ様なことを行つて居る日本の廁といふことは之から來たのであります、餘程清潔です水で洗ふ

のだから之は結構なことだと思ひます、そこで瓜哇の國は誠によく開けて方々に大市街がありまして殊に世界の
 極樂淨土と稱せらるゝパタビヤなどに行きますと薄團などは要らるので一年中夏であつて一番寒い所でも夜中
 に七十度を降ることはない普通八十度八十五度位丁度好い時候で日本の眞夏の様に九十五百度といふ様なこと
 はないさういふ氣候が一年中續いたら此の國では皆んな死んで了ふ一年中八十度内外の氣候であるからホテルに
 泊りましても別に寝る時に被けるものがない私がパットンといふ所に泊りました其所は澤山御客の行く所です瓜
 哇では一夫多妻主義の處で男が普通三人位妻を持つて居ります三人持てない様な男は意氣地ないといふて擯斥さ
 れる様になつて居るさういふ習慣で國の法律でも許されて居ります其事を豫て聞いて居る私が失敗したことがあ
 ります西洋のホテルには寢床の上に被ける物があります、ところが此のホテルに泊つて枕が二つある其枕の長さ
 が三尺許りあるハテナ此の枕は何うするのであるかまさか妻君三人共同に用ひる枕でもあるまい一人旅には誠に
 無用な話だと大いに不平をいつて居りましたがだん／＼調べて見ると之は抱き枕といふものです一日歩いて居つ
 て足が倦るくなつた爲めに足を載せて休む抱き枕といふものである諸君が御出になつても斯ういふ誤解のないや
 うに御注意申します。

そこで瓜哇の直ぐ手前のボルネオ新嘉坡から瓜哇に行きますと右手にスマトラ左手にボルネオがありますが是等
 は大部分は和蘭領で一部英吉利領になつて居りますセレベス、ニューギニア其他の島々がありますが是等の島々
 の和蘭領だけを申しますと其ボルネオは瓜哇の七倍も面積がありますがそこには人間が僅に八十萬人しか居ら
 ないそれも港の方の好い所に住んで居るので奥の方に行つて見ると全く人間が住んで居ない所が澤山ある象だの

虎だの澤山住んで居る其の象や虎などは人間が怖いから人間が行くとゾーツと逃げて了ふ又虎なんかになるとエヘンと咳をすれば直ぐ逃げて行く又川の中には鱉が澤山居る、ウツカリ川の中にでも這入らうものならバツクリやられるが陸などに居る時分には誠にのろいもので私などは度々蹴飛ばかして見た併し何にも居らん所に行くよりも斯ふいふ獣でも居れば何か仲間が居るやうで頼母しく感ずるものである、私共南洋には前後四回も参りまじたが斯ういふ獣はチットモ怖くない此方から害を加へるから象だの虎だのが手向ふて来る大きな話でもして通て行くと決して襲つて来るものではありません却つてそんなものが居る位が淋しくなくて好い位である、斯ういふ瓜哇の七倍もあるところの島それが日本の玄關前にあるところの南洋諸島は人口も少なく又土地の生産力は瓜哇に劣らず土人か僅しか居らんので日本人が行くと大變に歓迎して呉れる日本人が来て支配して呉れるのを待つて居ります但し是等の島は行きますには先づ以て日本人か澤山行つて色々の仕事をして居るところの新嘉坡並に馬來半島邊りに行つて向ふの言葉を覺之事情を覺之向ふの氣候に慣れてからしてスマトラ、ボルネオ邊りに行くのが安全である。

これから新嘉坡のことを少し御話して置ませう新嘉坡は長さ凡そ二十七哩幅十四哩人口が三十萬位あります新嘉坡には私が顧問をして居る護謨會社がありまして其處には私の別荘……別荘といふと大きなやうであるが兎に角護謨園の中に部屋が建つて居る、そこで新嘉坡には同胞も澤山行つて居りますが最も有力なのは支那人でそれから英吉利人が大分居ります新嘉坡は實に立派な處で印度洋から航行する船は必ず此處に寄りますから日本の郵船會社の船が何時も三隻や四隻は這入つて居つて日本の女などが浴衣がけてゾロ／＼街の中を歩いて居ります

其處には日本人も三千人程居まして蕎麥屋だの天麩羅屋だの御料理御汁粉中には來だての澤庵ありといふやうな札が出て居る所もある、日本の料理屋宿屋雜貨店何でも彼でもある、そこへ又日本人の按摩がありまして按摩が自動車に乗つて居る自動車は新嘉坡に一千臺もありまして新聞に廣告して居る日本のマッサージに電話を以て來て呉れといへば直ぐ様自動車に乗つて行くそれは按摩上下三百文ではなくて三弗位取る何でも高い處です併し暮しは極安い處で宿屋などでも五圓位出せば立派な扱をするさうして私が新嘉坡の港に着きますると自動車を迎に來て居りますからそれに飛び乗つて五里許りの護謨園を走りまして一時間許り要つて別荘に着きます、ところが時々天麩羅や蕎麥が食べ度になると又自動車に乗つて新嘉坡の街迄出かけて行きます、で食物は非常に安い米などは上等なのが一升拾五錢位それから砂糖が參錢位眞白な雪の様な砂糖が參錢から參錢五厘位で買へる私の別荘のある護謨園に日本からだんだん若手の人が這入つて居るで私が行きますると盛に汁粉を作つて呉れて汁粉攻に遭ふ又何うかすると其處等の前に泥溝などに砂糖が澤山捨てゝあるから之は何うしたのかといつて尋ねると蟻が這入つたから捨てたのだといふ實に何うも勿體ないことです、臺灣でも上等な砂糖が貳錢や參錢で出来る所がそれには澤山の税をかけて來るからして内地では非常に高くなる何うも不都合な譯で私は何うか諸君と相談しても少し安い砂糖を舐めるやうにせんければならんと思ふ然しそれは私を議員に選ばなくては可けませんよ。それから煙草も上等のものが馬鹿に安い此ものも税關を通る時に十倍の税を取られるから壹圓位のもの拾圓につくやうになる、ところが新嘉坡は斯ういふものは無税であるそれだから酒でも麥酒でも葡萄酒でも馬鹿に安いだから煙草の好きな人汁粉の好きな者は新嘉坡に行きさへすれば好い無税の自由港であるから何處からでも這入

つて來られる護謨園は一ヶ月六圓の賄で魚も食べられる酒、天麩羅色々な御馳走を山の様に出して呉れる五六圓で贅澤な暮しをして行くことか出來ます又魚は其邊の海に行つて抄うて來れば澤山居るのです、マングローブといつて海の中に出來る森林がありますが其マングローブが盛に繁茂して居る此邊では別に苗圃を設けて苗木を作ることには要らない此の木上が苗圃になるので木の枝の所に果實が熟すると其處に苗木が生えるそれが三尺なり五尺なり下の方に伸びて來てそれが水の中に落ちると水の中へ丁度挿木をした様な都合になつて忽ち根を出して大森林が出來る、それで廣いになると五里十里といふのがある狭いのも五六町歩位なマングローブの森林が出來る船で通つて見ると平らな低い島があるかと思はれる様である、ところが近寄つて見ると大海の中に森林があるのです其平らな森林の中には澤山蝦だの何だの天麩羅の材料にするものが居る其處へ網を持つて行つて獲れば好いので小さな丸木舟に乗つて色んなものを抄ひに參ります新嘉坡では木の枝から澤山魚が獲れる支那人などは昔から樹に縁りて魚を索むるが如しといつて出來ない事の譬に使つて居りますが之は本多靜六の南洋林業談を聞かない罪に坐するのであります(喝采)。

さういふ風で魚は只、砂糖が安い醬油鹽なども無税生活は大變に容易いところが新嘉坡は労働者になつて行つては賃金が安い普通護謨園へ使つて居るのが日當七拾錢位で新嘉坡には支那人の労働者印度人の労働者が澤山あるから労働者として行くのは損であります、護謨を植ゑたり草を取つて居るのは土人を使ふ方が好いそこで日本人として行くのには何うやつたら好いかといふと護謨の種を拾ひ集めまして蒔いて置きます、さうすると熱帯地方では五六ヶ月経つと直ぐに四五尺位に生長するそれを取つて植ゑる非常に大きな島に人間が居らんから森林にな

つて居る處があります其處に酋長の様な者が居ります其酋長の所へ行つて護謨を植ゑるから土地を貸せろといへば直に酋長は之を諾してそれでは測量費を出せと居つて一町歩に五拾錢かそこら取つてさうして好い加減な測量をして呉れるで向ふは一エーカーが單位になつて居る(日本の四段位)それを何エーカーか借りてさうして其森林を片ツ端から伐り倒して火を點けて丁度山火事の様になつたのを一週間程放つて置くと何も無くなる其處に十尺位の距離に六本位植ゑる熱帯地方では樹が好くつく實に造林といふことは容易い丁度臺灣では竹を電信柱にして置いたところがそれが挿木になつてついで又或る處の橋の欄干からごん／＼枝を出す大抵丸木を以て造るから皆んな繁茂して居るそれで人足が電信柱に上つて居るから何をやるのかと聞くと電信柱の枝打ちを行ふといつて居るそれから又鐵道の枕木などがごん／＼枝を出して繁茂して鐵道線路の下刈をして居るそれで熱帯地方では樹が繁殖し易いのであるから護謨を植ゑるにしても内地では造林のことを講釋して色んな事を行つて居るが熱帯地方では上下を切つて棒の様なものでも挿して置けば一本も枯れることなくつく只根を附けて置かないと育ちが多少遅れる今迄は二三寸位穴を穿けて其處へ根も無いやうな上下を切つたものを挿込んで居つたが何うも根のあるものを植ゑるより育ちが損だといふので今では根のあるものを植ゑる様になりましたがそれを植ゑて放つて置いても草を取つてやれば好いので之が四年程経つと廻りが一尺二寸位になる其の上と下の方に圓い筋を作つて中に溝をつけて茶碗の様なものを受けて置くところに一合位溜るそれが固まつたもので護謨が出來る一本の樹から五斤六斤位取れる一斤は壹圓から參四圓高いのになると五圓位時價がします、それであるから一萬本も持つて居れば五萬圓位全る儲けになる之は幾年でも取れる護謨の需要は大變に廣いもので諸君の御承知の如く自動

車、自轉車などで御覽になる通りであります。今は床、廊下、湯殿、臺所などにも悉く護謨を布いて使用するやうになつて來た、近頃又倫敦で往來に護謨を敷き始めて居るそれは誠に足の觸りがよく七つても轉んでも怪我をしないといふので或る與太郎が倫敦では護謨で道を作るといふが日本でもさういふ風になれば好いといつて居る何故かといへば自分が轉んでも彈力の爲めに直ぐ跳ね起ることが出来るだらうといつて居る又忙しい時には道を縮めて置いてボンと跳ねて向ふへ行くから便利であるといつて居る、諸君護謨の用途は與太郎の話頭にも上るやうに普及して居る兎も角も今日では日本人が此の新嘉坡それから向ふの馬來半島には護謨の村落が十萬エーカー即ち日本の四萬町歩程あります此の四萬町歩が皆護謨が取れるやうになると護謨の採收人夫も約四萬人も要ります。それで四十本に一人の日本人の監督が要りますがそれでも今日日本人の農林學校等の卒業生は澤山行つて居ります。それで新嘉坡ばかりに三千人馬來半島に四千人程行つて居ります。却々日本人も盛なものでそれが皆護謨の事業を行つて居りますが此の地方に勞働者として行くのは損であります。多少金を持つて教育を受けたもので護謨園の監督者として行つて其月給を貯めて護謨園の主人になるといふ様な人が行くのが宜しい。此護謨の發展しましたのは日本人の笠田直吉といふ老人や三井、三菱、藤田組等澤山やつて居りますが笠田といふ人は元船乗で新嘉坡の料理屋か何かやつて居たが今より二十年程前に護謨を栽培して僅に百七十七エーカー即ち六七十町歩の面積に護謨を植ゑたが其當時は金が無つたから五割位の高利を借りたさうですが私は此爺さんの話を聞きまして餘程面白いと感じた。一時は五割位の高利を借りてやつて居たが其内に護謨が値があつた時があつて一斤六圓位になつた其處で西洋人に自分の護謨山を賣つて三十萬弗取つた其爺さんは二人の娘とお爺さんとの三人暮であつたが一

躍三十萬弗の財産になつた既足で草取して居つた娘二人を直に馬車に乗せて佛蘭西人の女學校に通はせたので道路眼を聳てた、諸君事實は小説よりも奇なるものであるといふ者があるがそれが本當の事實となつた。其二人の娘は今立派な教育を受けて立派な娘さんになつた、裸で既足であつたものが今は自動車で何處へでも散歩に行けることになつた裸で道中がなるものかといふ譬があるが南洋は諸君御存知の通り輝一つでやつて居る暑い時は椰子の團扇などを持つて其處等を散歩して行くといふ位好い心持はない南洋は誠に現世の極樂淨土であると思ふそれから又此方では諸君が知らない果物が澤山ある先づ世界第一に甘い果物の王と稱せられるマンダリン、ドリアン等それが熟して町へ出る頃には新嘉坡の遊廓が衰へる遊廓へ行くよりもドリアンを食つて居る方が好いといふやうな甘いものである、それからバナナ、パイナップル此バナナは一貫目が壹錢五厘位パイナップルの大きな奴が只でず雑詰をして居る所へ行くといふ幾何でも只で呉れる、それから又食事といふものが餘程面白い之は南洋で一番多く植ゑられて居る椰子の實ですが(實物を示す)日本の棕櫚の樹に似た様な樹です土人は此樹を五本か六本家の廻りに植ゑて居る椰子の樹があると其處には土人が居る之は何になるかと云ふと其殻を剥いたものがコイルと稱して棕櫚繩よりも丈夫である中に堅い實があるそれは茶碗にすることが出来る椽にある肉を食つて居りますがそれが非常に甘い中に水がある牛の乳と同じ様に甘いものである私も何處へでも行くことがあると五つ六つ椰子の實を持つて行く喉が喝いたら其中の水を度々飲む大變に美味いものですそれからそれを放つて置くところアラクといふ上等の酒になる又其中から砂糖が取れる又土人は此椰子の柱を用ひ椰子の葉で屋根を葺いて居る其中で裸で盤坐をかい椰子の肉を食つて居るで好い加減に酔へば踊る醒めれば酔醒の水を飲む實に暢氣